

令和2年度
(第47期)
事業報告

作成日：令和3年5月18日

自 令和 2年 04月 01日

至 令和 3年 03月 31日

社会福祉法人 さつき会

1 全体総括

(1) はじめに

第5期中期経営3か年計画（2019～2021）の2年目の年である令和2年度の当法人事業活動は、新型コロナウイルス感染症予防を最重点課題として取り組み、中期経営計画に掲げた4つの重点目標、1）多様な人材採用・中核人材育成と安心・希望を持ち長く働ける職場環境の整備、2）業務の可視化による効率化と介護ロボット・ICT等の活用による業務の省力化、3）利用者・家族・地域住民の健康・生きがいをづくりと良質高度なチームケア（サービス）の提供、4）適性利益の確保と内部統制の強化を柱に、年度事業計画にそって各事業所・委員会等の活動を中心に積極的に実施され、概ね順調に遂行された。以下にその概要を報告する。

(2) 法人経営

社会福祉法人さつき会は、法人設立後、これまで47年間にわたり、「地域の福祉ニーズに柔軟に応える」ことを使命として、「利用者本位」の原則の下、社会福祉事業を経営してきた。

本年度は、感染症・災害対応（感染症予防対策、クラスター発生を想定した訓練、非常用自家発電装置の整備）、ケアアシスタント制度の運用、外国人介護人材の受入準備、入職2年以上3年以下の職員に対するフォローアップ研修、住民参加型総合事業の推進、在宅・施設サービス両部門の中重度者に対する重度化対応・重症化予防、職員のリフレッシュ休暇推進、介護職員等特定処遇改善加算を活用した賃金改善を重点的に取り組んだ。結果は、職員の定着率の向上、入居系サービスの稼働率向上、居宅介護支援事業所・小規模多機能型居宅介護・訪問介護・通所介護の利用者増加により過去最高の増収増益を達成することができた。また、常勤介護職員の離職率は7.8%（前期9.5%）となり、北海道平均（20.0%）を大きく下回り、これまでの「人材の確保と育成」の取り組みの成果が持続できている。

一方、積み残した課題も多く、介護職員・調理員の慢性的な欠員（法的基準は遵守）、キャリアパスの改良、介護人材確保のための企業説明会開催は、いずれも未着手・不十分な結果にとどまった為、次年度の重点課題として取り組む所存である。

(3) 施設運営

本年度は、介護現場がこれまで経験のない感染予防対策を実施しなければならなくなり、感染予防と生活の質（QOL）の維持の両方を求められ、自ずと介護、アクティビティ、レクリエーションのあり方を再検討する必要に迫られた一年であった。

具体的には、オンライン面会の実施、外出自粛下における新たなアクティビティ活動、基礎介護研修のシラバス作成、見守り機器（介護ロボット）の導入、全施設へのWi-Fi環境の整備などに取り組んだ。

一方、ご家族からの苦情、スタッフの不注意による転倒・転落事故等、安全対策と業務の標準化への組織的対応が不十分であるが故の出来事と反省し、次年度の最重点課題となった。

来年度は第5期中期経営3か年計画の最終年の年。中期経営計画に基づき、「高齢者の自立した尊厳ある人間らしい生活を守る」ための福祉サービスの安定的・継続的に提供と、利用者・職員・組織がともに満足できる施設運営に努める。

2 部門別事業実績（概要）

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額(千円)
法人本部	理事会・評議員会の運営 内部監査の実施 法人全体の企画・調整 各施設・事業所の経営及び統括 経営企画に関する諸会議の運営 許認可・申請事務 特命事項 職員の教育・研修 実習、研修等の受入・調整 デイ・なごみ・えんの給食管理・実務 ボランティア・家族会の運営 地域包括支援センターへの人材派遣	—	1 (6)	理事会 5回(6) 評議員会 1回(1) 監事監査 4回(4) 経営改善会議 41回(40) 全体会議・研修 中止(4) 感染症研修 各事業所 実習受入(実件数) 3件(8) (延べ人数) 94人(195) 健康料理教室 中止(10) ブログ発信 10件 地域食堂 中止(10)	△20,220 (△ 3,900)
総務課	総務・人事・会計の管理・実務 施設運営の企画 施設設備の維持管理 施設内の衛生管理 他部署に属さない業務	—	10	施設整備 自家発電装置設置等 18件(10) 総事業費 29,114(2,602) 器具備品費マルベリー外 12件(14) 総事業費 7,761(8,144)	—
介護老人福祉施設 事業さつき苑	要介護と認定された、ねたきり、認知症等により在宅での生活が困難な方に対して、施設において「自立」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	50名	38	新規入居者 男1名(6)、女5名(11) 計 6名(17) 退居者 男2名(6)、女4名(12) 計 6名(18) 総延べ入院日数 436日(696日) ベッド稼働率 97.4%(94.6%) 入居待機者 40名(30)	25,909 (△1,332)
活介 短期入所生 介護事業	在宅でねたきり、認知症及び虚弱のおとしよりを介護されている家族が、介護疲れ、病気、事故などにより、一時的に介護することができなくなった場合に、一定期間そのおとしよりに特別養護老人ホームに入居していただき、家族の介護負担の軽減に努めた。	10名	10	実利用者数 28名(41) 実件数 212件(203) 延利用者数 3,293名(3,249) 一日平均 9.0名(8.9) ベッド稼働率 90.2%(88.8%)	6,324 (3,327) 生きがいショート委託費 (568)
通所介 ねす 護事業	在宅のねたきり、認知症及び虚弱等の要介護等認定者に対して、1)自立生活の助長、2)心身機能の維持向上、3)社会的孤立感の解消、4)家族の介護負担の軽減を図るために通所して頂き、入浴・食事・送迎サービス、趣味・レク活動、健康チェック、養護、日常生活の相談・助言を行うことで要介護等状態の悪化予防に努めた。	30名	13	開催日数 310日(309) 実利用者数(月平均) 102.4名(94.9) 延利用者数 7,419名(7,074) 生きがいデイ 0(0) 新規利用者 41名(53) 週6日開館、1日平均 23.9名(22.9) 稼働率 79.8%(76.3%)	16,224 (6,262)
居宅介 護支 援事業	在宅でねたきり、認知症及び虚弱のおとしよりが「住み慣れた自宅で最後まで暮らし続けることができるよう」、本人及び家族のニーズに即したケアプランを作成するとともに、ケアプランに基づく各種サービスや社会資源が確保・活用されるよう事業者・関係機関との連絡調整に努めた。	—	5	月平均利用者数 介護 114.8名(100.3) 予防 55.0名(37.7) 計 169.8名(138.0) 新規利用者 89名(70) 停止者 41名(41) 入院者延べ人数 191名(131)	1,055 (△2,376)

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額(千円)	
共同 生活 介護 事業 認知症対応型	認知症により自宅での生活が困難な方に対して、グループホームにおいて「自立と尊厳を支え」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう「利用者中心」の生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	18名	20	新規入居者 男1名(0)、女3名(4) 計4名(4) 退居者 男1名(2)、女3名(2) 計4名(3) 総延べ入院日数 67日(74日) ベッド稼働率 98.5%(98.3%) 入居待機者 16名(22)	7,738 (336)	
小規模多機能型居宅介護事業 なごみの家	在宅の認知症及び虚弱のおとしよりができる限り住み慣れたわが家で暮らし続けられるように、可能な限り自宅やそれに替わる場所において「普通の暮らし」が営めるような環境と継続的・総合的なケアを提供するため、日々の「通い」を中心に、本人の心身状態と家族の状況に応じて、「訪問」や一時的な「泊まり」を組み合わせて、継続的・総合的なケアの提供に努めた。	(通い) 15名	12	開催日数 365日(365) 平均登録者数 22.7名(21.8) 実利用者数 24名(25) 延利用者数 4,449名(4,380) 新規利用者 6名(13) 停止者 10名(9) 1日平均 13.0名(12.1) 稼働率 82.8%(80.1%)	3,326 (4,917)	
				(泊まり) 6名		実利用者数 13名(21) 延利用者数 1,630名(1,626) 1日平均 5.2名(4.5) 稼働率 75.5%(74.2%)
				(訪問) 一名		実利用者数 18名(14) 延利用者数 3,834名(3,656) 1日平均 11.2名(10.0)
ユニット型地域密着型 介護老人福祉施設事業	鷹栖町在住の要介護と認定された、ねたきり、認知症等により在宅での生活が困難な方に対して、施設において「自立」と「生活の質の向上」を図りながら、快適で安心して生活できるよう生活援助・ケアサービスの提供に努めた。	20名	24	新規入居者 男0名(1)、女3名(3) 計4名(4) 退居者 男0名(0)、女3名(4) 計3名(4) 総延べ入院日数 28日(197日) ベッド稼働率 99.4%(97.0%) 入居待機者 17名(18)	11,029 (5,013)	
小規模多機能型居宅介護事業 ぬくもりの家えん	在宅の認知症及び虚弱のおとしよりができる限り住み慣れたわが家で暮らし続けられるように、可能な限り自宅やそれに替わる場所において「普通の暮らし」が営めるような環境と継続的・総合的なケアを提供するため、日々の「通い」を中心に、本人の心身状態と家族の状況に応じて、「訪問」や一時的な「泊まり」を組み合わせて、継続的・総合的なケアの提供に努めた。	(通い) 15名	11	開催日数 365日(365) 平均登録者数 24.0名(24.3) 実利用者数 35名(26) 延利用者数 4,427名(4,401) 新規利用者 10名(5) 停止者 10名(5) 1日平均 12.1名(12.5) 稼働率 79.6%(81.9%)	5,490 (3,820)	
				(泊まり) 6名		実利用者数 25名(21) 延利用者数 1,484名(1,682) 1日平均 4.1名(4.6) 稼働率 66.7%(75.6%)
				(訪問) 一名		実利用者数 17名(14) 延利用者数 4,415名(3,452) 1日平均 12.1名(9.5)

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額(千円)
住宅 事業 めくもりの家 たかほ サービス付き 高齢者向け	主に虚弱・要支援等の高齢者の早めの 住み替えニーズに応じた安心・安全な 住宅サービス・相談援助サービス等を 提供し、出来る限り長く住み慣れた地 域社会で生活を続けていくことの支援 に努めた。	18名	8	新規入居者 男1名(1)、女2名(1) 計3名 退居者 男2名(2)、女2名(1) 計4名 月平均入居者数 17.1名 稼働率 94.9%(98.6) 総延べ入院日数 73日(235) 入居待機者(令和2年度3月末) 6名(5)	△1,454 (1,570)
訪問 介護 事業	在宅で虚弱、ねたきり、認知症のおとし より等の要介護等認定者および難病患 者の家庭等に対して、自立とより質の高 い在宅生活の継続が図られるよう、生 活援助、身体介護、相談・助言を主と する生活支援サービスの提供に努め た。	—	12	派遣世帯数 88(111) 訪問延回数 10,913回(10,077) 活動延時間 8,708時間(8,092) 内、生きがいヘルプ 0(0) 内、難病疾患ヘルプ 0(0) 新規利用者 34名(58)	11,012 (10,447) 生きがいヘルプ委託費 0 (0) 難病患者ヘルプ委託費 0 (0)
フィット ネス 倶楽部 コレカラ 総合事業	在宅の主一般高齢者を対象に、虚 弱化・要介護の予防を目的に、介護予 防体操(あったかすリハビリ体操)の普 及、介護予防体操指導士(あったかす リハビリ体操指導士)の養成、介護予防 サポーター(コレカラサポーター)の養 成、住民主体の通いの場の立ち上げ、 介護予防運動教室の運営に努めた。		2	開催日数 268日(275) 登録者数 408名(395) 総延べ利用人数 4,735名 (8,615) 各教室の内訳 サーキット 2,609名 レッドコード教室 2,009名 リハビリ体操教室 117名 月平均利用者数 483.8名(783.2) 1日平均利用者数 17.6名(28.9) 新規利用者 15名(39) 停止者(利用0回) 259名(176)	
移送 サー ビス 事業	心身の障がい・病気により、ねたきりや 車いす上で生活されている方が、通院 等の理由により外出しなければならな く、一般の車両への乗降が難しい時 に、さつき苑に配置されている寝台、若 しくは車いすのまま乗り込むことがで きる専用車両で、自宅から目的地まで の送迎を行い、利用者の外出支援に努 めた。	—	—	実利用者数 2件(0) 延利用件数 4件(0) (内訳…町内 0件、町外 4件)	22 (0) 委託費収入のみ

事業名 (課)	事業(課)の目的及び内容	利用 定員	職 員 数	実 績	サービス活動 増減差額(千円)
(生 き が い デ イ サ ー ビ ス) 介 護 予 防 事 業	在宅の介護認定非該当の虚弱なおとし よりに対して、1)自立生活の助長、2)心 身機能の維持向上、3)社会的孤立感 の解消を図るため、デイセンター(はび ねす)に通所して頂き、入浴・食事・送 迎サービス、趣味・レク活動、健康チェ ック、養護等のサービスを提供し、要介 護状態にならないように努めた。	—	—	実利用者数 0名(0) 延利用者数 0名(0) 新規利用者 0名(0)	0 (0) 委託費収入のみ

※1 職員数に施設長は含めず

※2 実績及びサービス活動増減差額欄の()内は前年度実績

令和2年度 業績概況

3 業績の状況

(1) 事業活動収入の目標対比

(単位:円)

事業名	当初予算 (A)	決算 (B)	差異 (B)-(A)	達成率 (B)/(A)	備考
法人本部	4,920,000	7,320,718	2,400,718	0.0%	
小 計	4,920,000	7,320,718	2,400,718	0.0%	
介護老人福祉施設事業	209,253,000	215,682,102	6,429,102	103.1%	
短期入所生活介護事業	34,326,000	36,300,631	1,974,631	105.8%	
小 計	243,579,000	251,982,733	8,403,733	103.5%	
通所介護事業(はびねす)	60,463,000	66,010,143	5,547,143	109.2%	2
居宅介護支援事業	22,788,000	24,782,380	1,994,380	108.8%	3
小 計	83,251,000	90,792,523	7,541,523	109.1%	
認知症対応型共同生活介護事業	83,406,000	87,023,628	3,617,628	104.3%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	65,399,000	65,766,086	367,086	100.6%	
小 計	148,805,000	152,789,714	3,984,714	102.7%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	100,540,000	106,252,389	5,712,389	105.7%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	56,386,000	58,935,560	2,549,560	104.5%	
小 計	156,926,000	165,187,949	8,261,949	105.3%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	27,496,000	28,369,724	873,724	103.2%	
訪問介護事業	35,715,000	39,723,491	4,008,491	111.2%	1
小 計	63,211,000	68,093,215	4,882,215	107.7%	
合 計	700,692,000	736,166,852	35,474,852	105.1%	

(2) 事業活動収入の前年度対比

(単位:円)

事業名	令和元年度 (A)	令和2年度 (B)	差異 (B)-(A)	伸長率 (B)/(A)	備考
法人本部	5,497,363	7,320,718	1,823,355	0.0%	
小 計	5,497,363	7,320,718	1,823,355	0.0%	
介護老人福祉施設事業	204,678,593	215,682,102	11,003,509	105.4%	
短期入所生活介護事業	33,640,301	36,300,631	2,660,330	107.9%	
小 計	238,318,894	251,982,733	13,663,839	105.7%	
通所介護事業(はびねす)	60,391,951	66,010,143	5,618,192	109.3%	3
居宅介護支援事業	20,746,730	24,782,380	4,035,650	119.5%	1
小 計	81,138,681	90,792,523	9,653,842	111.9%	
認知症対応型共同生活介護事業	84,726,575	87,023,628	2,297,053	102.7%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	60,888,005	65,766,086	4,878,081	108.0%	
小 計	145,614,580	152,789,714	7,175,134	104.9%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	102,695,994	106,252,389	3,556,395	103.5%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	55,700,714	58,935,560	3,234,846	105.8%	
小 計	158,396,708	165,187,949	6,791,241	104.3%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	27,840,973	28,369,724	528,751	101.9%	
訪問介護事業	35,113,731	39,723,491	4,609,760	113.1%	2
小 計	62,954,704	68,093,215	5,138,511	108.2%	
合 計	691,920,930	736,166,852	44,245,922	106.4%	

令和2年度 業績概況

(3) 事業活動収支差額の目標対比

(単位:円)

事業名	当初予算 (A)	決算 (B)	差異 (B)-(A)	達成率 (B)/(A)	備考
法人本部	▲ 17,750,000	▲ 17,534,276	215,724	98.8%	
小 計	▲ 17,750,000	▲ 17,534,276	215,724	98.8%	
介護老人福祉施設事業	15,025,000	31,789,042	16,764,042	211.6%	3
短期入所生活介護事業	2,551,000	7,107,626	4,556,626	278.6%	1
小 計	17,576,000	38,896,668	21,320,668	221.3%	
通所介護事業(はびねす)	8,213,000	8,490,420	277,420	103.4%	
居宅介護支援事業	▲ 1,653,000	1,726,396	3,379,396	208.9%	
小 計	6,560,000	10,216,816	3,656,816	155.7%	
認知症対応型共同生活介護事業	5,536,000	10,616,494	5,080,494	191.8%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	9,615,000	7,365,775	▲ 2,249,225	76.6%	
小 計	15,151,000	17,982,269	2,831,269	118.7%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	10,740,000	20,252,216	9,512,216	188.6%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	5,237,000	11,208,268	5,971,268	214.0%	2
小 計	15,977,000	31,460,484	15,483,484	196.9%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	3,479,000	3,016,552	▲ 462,448	86.7%	
訪問介護事業	8,515,000	11,760,384	3,245,384	138.1%	
小 計	11,994,000	14,776,936	2,782,936	123.2%	
合 計	49,508,000	95,798,897	46,290,897	193.5%	

(4) 事業活動収支差額の前年度対比

(単位:円)

事業名	令和元年度 (A)	令和2年度 (B)	差異 (B)-(A)	伸長率 (B)/(A)	備考
法人本部	▲ 3,259,927	▲ 17,534,276	▲ 14,274,349	537.9%	
小 計	▲ 3,259,927	▲ 17,534,276	▲ 14,274,349	537.9%	
介護老人福祉施設事業	5,729,374	31,789,042	26,059,668	554.8%	1
短期入所生活介護事業	3,991,779	7,107,626	3,115,847	178.1%	3
小 計	9,721,153	38,896,668	29,175,515	400.1%	
通所介護事業(はびねす)	6,452,759	8,490,420	2,037,661	131.6%	
居宅介護支援事業	▲ 1,566,609	1,726,396	3,293,005	220.4%	2
小 計	4,886,150	10,216,816	5,330,666	209.1%	
認知症対応型共同生活介護事業	7,904,260	10,616,494	2,712,234	134.3%	
小規模多機能型事業(なごみの家)	10,512,068	7,365,775	▲ 3,146,293	70.1%	
小 計	18,416,328	17,982,269	▲ 434,059	97.6%	
ユニット型地域密着型介護老人福祉施設事業	15,861,510	20,252,216	4,390,706	127.7%	
小規模多機能型事業(ぬくもりの家えん)	10,393,318	11,208,268	814,950	107.8%	
小 計	26,254,828	31,460,484	5,205,656	119.8%	
サービス付き高齢者向け住宅事業	4,297,660	3,016,552	▲ 1,281,108	70.2%	
訪問介護事業	11,675,811	11,760,384	84,573	100.7%	
小 計	15,973,471	14,776,936	▲ 1,196,535	92.5%	
合 計	71,992,003	95,798,897	23,806,894	133.1%	

令和2年度 法人本部事業報告

1. 総括

令和2年度は、「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」を基本方針に、以下のことに取り組んだ。

1つ目は、法人が目指す「予防から看取りまで途切れ目のないケアの提供」の実現に向けて、増加する中重度化に対応するため最新のケアシステム「トータルケアシステム」の運用及び「地域包括ケア推進チーム研究会」（地域ケアマネジメント会議）も継続し、一つの困難事例のカンファレンスに全事業所の専門職が参加し、ニーズ優先のケアマネジメントとサービス提供に努めた。

2つ目は、「だれもが健やかに生涯現役を目指せる職場環境の実現」を目指し、ケアアシスタントの採用、定年制度の見直し、フレックスタイム制度の導入、介護ロボット（移乗支援器具、シルエットセンサー）の導入に努めた。

3つ目は、働きやすく働きがいのある職場づくりである。新たに現任職員へのフォローアップ研修、総務課職員へのレベルアップ研修を行うとともに、さつき会の未来を創る若手職員育成の目的とするネクストリーダー研修、総合職昇格試験、エルダー制度を継続して行った。新設された介護職員等特定処遇改善加算（12,570千円）を活用して、ほぼ全ての職員の賃金改善を図るとともに、期末に全職員へ決算賞与を支給した。

介護人材確保では、コロナ禍において対面による職場説明会が困難となり、オンラインによる職場説明会・採用面接を実施。令和3年度に就職を予定する旭川福祉専門学校外国人留学生（3名）の受け入れと安心して生活・就労できる環境づくりに努めた。また、総合パンフレットの製作、福祉関連資格取得支援金・就職支援金・外国人就職準備金の新設、高齢者福祉・介護の仕事のやりがいとさつき会の魅力をSNS、個別の職場見学会の活用等を通じて発信した。その結果、さつき会の理念と実践に共感し採用試験に道内から6名が受験し全員採用することができた。

法人が掲げる業績管理目標は、サ高住たかほを除いた全事業所で達成。法人全体の事業活動収入は746,127千円（当初予算714,552千円）、事業活動収支差額は106,051千円（当初予算50,045千円）、サービス活動増減差額は65,945千円（前年度25,372千円）、となり、過去最高の収益・収支差額を得ることができた。

2. 次年度に向けて

令和3年度は第5期中期経営3か年計画の最終年となる。中期経営計画の最重点目標である「多様な人材の確保と育成」、「介護記録のデジタル化」、「おとしよりと職員の笑顔が増える暮らし・楽しみづくり」に取り組む。具体的には、今般の介護人材の枯渇が増悪化する中、これまでの取り組みに加え、外国人定着サポートチームの始動、ケアアシスタントの育成・定着支援、チームワーク向上のためのスタッフ研修、社会福祉士養成校からの積極的な実習受入準備に着手して、次の時代を担う人材育成に務める。

処遇改善においては、あらたな定年制度の運用、全事業所において7連休以上の休暇取得、キャリアパスの改良を図る。さらに、介護職員等特定処遇改善加算を活用し、働きやすく働きがいのある職場づくりに取り組む。

また、感染症・自然災害発生時の業務継続計画策定、一般高齢者の健康寿命延伸のニーズに応えるため、総合事業（フィットネス倶楽部）・任意事業（地域交流スペース・地域食堂）の事業を推進し、鷹栖町における住民参加型地域包括ケア体制の拡充を図る。

さらに、全事業所において適性利益の確保を図るよう、経営改善会議及び財政健全化推進チーム会議を中心に課題共有、改善策の立案、実施状況の確認の徹底を図る。

3. 運営状況・統計資料

(1) 理事会の開催状況

回	期 日	議決事項等	出席者
1	2.6.3 (水) 18:00 ~ 19:15	報告第1号 理事長専決事項について 報告第2号 令和元年度決算見込額の報告について 議案第1号 令和元年度第2次補正予算(案)について 議案第2号 令和元年度経過報告並びに事業報告・業績報告について 議案第3号 令和元年度決算報告について 議案第4号 監事監査結果報告について	理事 5名 監事 2名
2	2.8.29(土) 16:00 ~ 17:25	報告第1号 理事長専決事項について 報告第2号 令和2年度第1四半期経過報告について 報告第3号 令和2年度第1四半期業績・収支報告について 報告第4号 監事監査結果報告について 議案第1号 令和2年度特定処遇改善加算一時金の支給について 議案第2号 令和2年度介護支援専門員特定処遇改善加算一時金の支給について 議案第3号 施設整備事業計画について 議案第4号 鷹栖なごみの家・ぬくもりの家えん非常用自家発電装置整備工事請負業者の選定方法について 議案第5号 令和2年度第1次補正予算(案)について	理事 6名 監事 2名
3	2.11.28 (土) 14:55 ~ 16:35	報告第1号 理事長専決事項について 報告第2号 令和2年度第2四半期経過報告について 報告第3号 令和2年度第2四半期業績・収支報告について 報告第4号 監事監査結果報告について 議案第1号 育児・介護休業等に関する規程の一部改正(案)について 議案第2号 外国人就業準備金支給規程の新設について 議案第3号 就業支援金規程の新設について 議案第4号 福祉関連資格取得支援金規程の新設について 議案第5号 ネットワーク環境及び介護ロボット(見守りセンサ・移乗支援ロボット)の整備計画について	理事 6名 監事 2名
4	3.2.20(土) 15:00 ~ 16:20	報告第1号 理事長専決事項について 報告第2号 令和2年度第3四半期経過報告について 報告第3号 令和2年度第3四半期業績・収支報告について 報告第4号 監事監査結果報告について 議案第1号 令和2年度第2次補正予算(案)について 議案第2号 社会福祉法人さつき会評議員選任・解任委員会委員の選任及び開催について 議案第3号 社会福祉法人さつき会評議員候補者の推薦(案)について	理事 6名 監事 2名

回	期 日	議決事項等	出席者
4	3.2.20(土) 15:00 ~ 16:20	議案第4号 就業規則(正職員)の一部改正(案)について 議案第5号 就業規則(嘱託職員)の一部改正(案)について 議案第6号 就業規則(パート職員)の一部改正(案)について 議案第7号 給与規程の一部改正(案)について 議案第8号 育児・介護休業等に関する規程の一部改正(案)について	理事6名 監事2名
5	3.3.19(金) 17:52 ~ 19:10	報告第1号 理事長専決事項について 議案第1号 決算賞与について 議案第2号 積立金計上について 議案第3号 令和2年度第3次補正予算(案)について 議案第4号 令和3年度経営(事業)計画並びに当初予算(案)について 議案第5号 評議員会の開催について	理事5名 監事2名

(2) 評議員会の開催状況

回	期 日	議決事項等	出席者
1	2.6.20(土) 14:00 ~ 15:25	議案第1号 令和元年度事業報告について 議案第2号 令和元年度決算報告について(監事監査報告含む) 議案第3号 令和2年度経営(事業)計画並びに当初予算(案)について	評議員7名

(3) 監査等の実施状況

① 監事監査

回	期 日	主な監査実施項目	監査実施者
1	2.5.25(月) 15:00 ~ 16:30	令和元年度経過報告並びに事業報告について 令和元年度業績報告並びに決算報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事2名
2	2.8.20(木) 15:30 ~ 16:30	令和2年度第1四半期業績報告について 令和2年度第1四半期収支報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事2名
3	2.11.20(金) 13:55 ~ 14:45	令和2年度第2四半期業績報告について 令和2年度第2四半期収支状況報告について 入居者預り金の管理状況について 物品在庫管理・発注業務について 総括	監事2名
4	3.2.12(金) 14:00 ~ 14:45	令和2年度第3四半期業績報告について 令和2年度第3四半期収支状況報告について 入居者預り金の管理状況について 総括	監事2名

(4) 資格保有・取得状況

	介護福祉士	介護支援専門員	看護師	准看護師	保健師	管理栄養士	理学療法士	社会福祉士 (精神保健福祉士)	2級ヘルパー (介護職員初任者研修含む)	社会福祉主事
正職員	55	24	5	1	2	3	2	12【3】	24	25
パート職員	18	1	4	2	0	0	0	1	31	0
計	73	25	9	3	2	3	2	13【3】	55	25

注：令和3年3月31日現在の在籍者 精神保健福祉士は【 】で表示

(5) 諸会議

① 経営改善会議

開催日時	目的	出席者	開催実績
毎週水曜日 10:10~11:00	安定的かつ効率的な施設・事業所経営を図るため、経営・運営上における課題や重要事項について協議・決議することを目的とする。	施設長 各部長 各課長	41回

② 財政健全化推進チーム・地域包括ケア推進チーム研究会

開催日時	目的	出席者	開催実績
毎月第4水曜日 13:00~16:00	・収入と支出のバランスが取れた安定的な財政構造の実現を図るために必要な推進(計画策定・実行・評価)を行う。 ・新たな地域ケア(地域包括ケア)に取り組むために必要な事業所の運営改善を図る。	施設長 各部長 各課長 各主任 介護支援専門員等	9回

③ 職員全体研修・会議

開催日時	目的	出席者	開催実績
1. 全体研修 新型コロナウイルス感染症予防対策のため各事業所単位実施	感染症予防を目的とした研修を開催した。 【実施内容】 ()内は対象者・講師 ・感染対策研修会(対象:全職員~各事業所単位で実施) (講師:谷水さおり・藤川朋恵・三國谷佐千恵)	全職員	全体研修 各事業所 1回
2. 全体会議 新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止	法人として職員全体に伝達すべき重要事項がある場合に適宜開催する。 【資料配付内容】 ・令和2年度経営(事業)計画について ・さつき会の賃金・処遇改善について ・給与規程等の一部改正について ・働き方改革について(有給休暇の取得) ・人材紹介謝礼規定について ・交通安全について ・非常災害対策について		

④サービス向上発表会開催内容

令和元年度未開催

令和元年度発表内容を令和2年度分として令和3年3月10日開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防のため延期 令和3年5月14日(金)開催予定

○ 発表予定内容

申込事業所	発表テーマ	発表者
鷹栖町在宅介護支援センターさつき苑	もし、個別支援のケアマネジャーが災害時に自らの「マネジメント」を行ったら ～防災対策の取り組みから出た思わぬ副産物を交えて～	ケアマネジャー 山本 正広
多機能型グループホーム 鷹栖なごみの家	脱・マンネリ！ ～楽しみアル生活をおくるために～	ケアスタッフ 津野 良江 伊藤 有紀
鷹栖町デイサービスセンターはびねす	ハイクオリティ ハンドメイド	主任 成田 直美
特別養護老人ホーム 鷹栖さつき苑	あたりまえの生活を取り戻す ～食べて味わうこと、ゆっくり眠ること～	リーダー 角谷 美紀
小規模多機能ホームぬくもりの家えん	共に ～本人の想いを守るケアを目指して～	リーダー 林 由美 ケアスタッフ 寒河江ゆかり

(6) 広報誌の発行（町内全戸配布）

発行回数	発行部数
年6回発行	各3,000部発行

(7) 実習生等受入状況

実習日程	人数	実習名	実習生所属学校等
8月17日～9月19日	2	介護実習（2年生）（延べ60） オンライン研修	旭川大学短期大学部
8月20日～9月2日	1	介護実習（2年生）（延べ10）	北海道剣淵高等学校
9月14日～9月26日	2	介護実習（1年生）（延べ24）	旭川福祉専門学校
延べ人数	94		

(8) 苑外研修参加状況

月	日	研修・会議名	開催地	参加者
4				
5				
6				
7	8	国家戦略としてのフレイル対策	オンライン	施設長・大矢・大河原
	27	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る研修会(上川総合振興局主催)	旭川市	三國谷・谷水
8	7	第1回全国高齢者ケア研究会オンラインセミナー	オンライン	施設長・谷本・谷・成田・松原・和泉・佐藤(晴)・尾上・設楽・佐久間・谷水 11名
	26~28	令和2年度北海道介護支援専門員更新研修(実務研修有)	旭川市	佐藤(恭)
9	2・8	「人材採用・人材定着 合掌苑の成功事例」	オンライン	施設長・谷本・尾上・木幡・秋保・谷
	15	第1回全国高齢者ケア研究会オンラインセミナー	オンライン	施設長・谷本・谷・成田・松原・和泉・佐藤(晴)・尾上・設楽・佐久間・谷水 11名
	27	第7回日本予防理学療法学会学術大会	Web学会	大河原
	28~30	令和2年度 北海道介護支援専門員更新研修	札幌市	尾上
10	6	第1回全国高齢者ケア研究会オンラインセミナー	オンライン	施設長・谷本・谷・成田・松原・和泉・佐藤(晴)・尾上・設楽・佐久間・谷水 11名
	20	特別セミナー『組織を変えるコーチング』 主催 人を幸せにする実践経営塾	オンライン	施設長・部長・課長
	27	介護従事者雇用管理改善セミナー	旭川市	木幡・高橋
	1	介護の仕事トークイベントのトークショー、 トークセッション参加	旭川市	田村
	4	採用能力向上プログラム KAIGO HR RECRUITING LABO オンライン研修	オンライン	尾上
11	7	第7回日本地域理学療法学会学術大会	Web学会	大河原
	18	採用能力向上プログラム KAIGO HR RECRUITING LABO オンライン研修	オンライン	尾上
	19	「コミュニティデザイン×ヘルスプロモーション」セミナー	オンライン	施設長
	26-27	新任介護職員研修(旭川) 道社協主催	旭川市	小笠原(園)・佐川・寺西

12	1~2	北海道小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	札幌市	佐藤(晴)
	2	採用能力向上プログラム KAIGO HR RECRUITING LABO オンライン研修	オンライン	尾上
	8	道北地区老人福祉施設協議会施設長研修会	オンライン	施設長
	16	採用能力向上プログラム KAIGO HR RECRUITING LABO オンライン研修	オンライン	尾上
1	28	採用能力向上プログラム KAIGO HR RECRUITING LABO オンライン研修	オンライン	尾上
	29	採用能力向上プログラム KAIGO HR RECRUITING LABO オンライン研修	オンライン	尾上
2	10	採用能力向上プログラム KAIGO HR RECRUITING LABO オンライン研修	オンライン	尾上
	18	採用能力向上プログラム KAIGO HR RECRUITING LABO オンライン研修	オンライン	尾上
	24	採用能力向上プログラム KAIGO HR RECRUITING LABO オンライン研修	オンライン	尾上
3	6~7	第12回全国先端ケア研究会	オンライン	谷本・室橋・谷・成田・佐々木(恵)・坂林・山本(裕)・米澤・佐藤・大倉・尾上・志知・松原・谷水・能登 (13名出席)
	26	採用能力向上プログラム KAIGO HR RECRUITING LABO オンライン研修	オンライン	尾上
				延べ 81 名

令和2年度 総務課事業報告

1. 総括

令和2年度は、毎日の朝会、毎月の課内会議の開催で、職員相互の業務の実施状況や行事予定の共有を図り、窓口として来客などの対応を実践した。

さらに、総務課職員を対象とした研修会受講により、法人全体の経営・施設運営の業務を担うセクションであること、施設の行事など事前準備を含めて積極的に参加するという職員の考え方や意識に変化が生じている。

事務部門においては、課員全体で業務をすいしんできるような事務マニュアルを作成し、事務の効率化とご利用者の利便性向上を図った。

また、経理事務については、会計処理システムにより、会計処理の明確化を図っています。予算事務は、各課が責任を持って予算確保・執行ができることを目標とし、予算編成など行っていますが、予算管理については今後の課題とする。

さらに、出退勤に係る「タイムレコーダー」を平成28年度から導入し、職員の出退勤時間の適正な把握を目指していますが、今後は、給与支給システムとの連携等検討が必要となっている。

「広報活動」は、広報委員会の事務局を担い、広報誌（オールカラー化）・ホームページ・ブログを通して情報発信を充実させ、昨年に引き続き成果を残すことができた。ホームページ・ブログについては、使いやすさや見やすさなどについて検討を行い、必要な改善を行った。

なお、新型コロナウイルス感染予防対策については、特別休暇対応、補助金・助成金活用、必要物品の確保・作成など必要な業務を推進した。

2. 次年度に向けて

総務課会議を毎月定例開催し、課員全体で業務を推進できるような事務マニュアルに基づく研修などを通じて、社会福祉法人・高齢者福祉施設の総務部門に求められる「おもてなし」の使命と役割を正しく認識し、窓口業務の一層の高度化と経理事務をはじめとする業務がスムーズに行え、事務処理がさらに簡素化できるようなシステムづくりに取り組む。

また、経営の羅針盤ともなる会計データの提出に関しては、正確性と期日厳守を徹底し、財政健全化に必要なデータを即時即応で提出できる体制を確保します。加えて、各事業所の予算管理について確認を徹底し、計画に基づく予算執行を目指す。

さらに、さつき会各事業所の働きやすい職場環境を目指し、課員全職員が各事業所担当となり、環境整備に努め、業務の効率化・安全化の徹底を図る。

また、社用車等についても安全運行のため、計画的な点検・整備の徹底を図る。

加えて、災害対応に向けた、日頃の準備の重要性を認識し、行政・近隣住民・家族の協力を得ながら、入居者・利用者の安全第一のため、用品確保・訓練実施に取り組む。

今般の新型コロナウイルス感染症予防対策への対応についても、引き続き、新型コロナウイルス感染対策本部の役割を確実に担う。

3. 運営状況・統計資料

(1) 職員の状況

(単位：人)

役職・職種 区分		令和2年度 期 首	令和2年度 期 末	増 減
施設長		1	1	0
副施設長(施設長兼務)		(1)	(1)	0
地域密着型サービス事業部長		1	1	0
施設・在宅サービス事業部長		1	1	0
事務員	正 職 員	3	3	0
	嘱 託 職 員	1	1	0
	パート職員	2	2	0
生活相談員	正 職 員	3	3	0
	パート職員	0	1	1
ケアマネジャー	正 職 員	4	5	1
出向ケアマネジャー	正 職 員	1	1	0
計画作成担当者	正 職 員	4	4	0
サービス提供責任者	正 職 員	3	3	0
介護員	正 職 員	54	48	▲6
	パート職員	26	31	5
ホームヘルパー	正 職 員	1	1	0
	パート職員	5	6	1
	登 録	2	2	0
看護職員	正 職 員	5	5	0
	パート職員	5	5	0
理学療法士	正 職 員	2	2	0
管理栄養士	正 職 員	3	2	▲1
調理員	正 職 員	2	2	0
	パート職員	14	14	0
運転員	パート職員	2	1	▲1
用務員	正 職 員	1	1	0
夜間管理当直員	パート職員	5	5	0
	派遣職員	(1)	(0)	(▲1)
嘱託医		1	1	0
合 計		152	152	0

注) 兼務職員については、主たる職務へカウントする。

(2) 賞与支給状況

時 期	支給月数
	正職員
6月	0.8~1.8
12月	1.2~2.2
計	2.0~4.0

(3) 寄付金関係

(単位：円)

区 分	件 数	総 額	摘 要
寄付金	6	345,000	法人・各事業所運営のため

(4) 環境整備・苑内修繕状況(10万円以上)

(単位：円)

月	環 境 整 備 ・ 修 繕 名	整備・修繕先	費用	実施施設名
6	ウォシュレット取替工事	齋藤工業所	134,200	ぬくもりの家えん
7	洋ユニット給湯機取替工事	大洋設備	190,000	なごみの家
9	GH なごみ床フロア補修等工事	盛永組	165,000	なごみの家
	SH なごみ床フロア補修等工事	盛永組	313,500	なごみの家
	非常灯・非常灯用バッテリー取替工事	山崎電機	173,800	鷹栖さつき苑
	非常灯・非常灯用バッテリー取替工事	山崎電機	110,000	なごみの家
12	浴室混合栓取替工事	盛永組	539,000	ぬくもりの家えん
1	非常照明非常用電池取替	五光トータル防災	165,000	ぬくもりの家えん
	ボイラー室給水管漏水取替	大洋設備	110,000	鷹栖さつき苑
2	ライラックイオ LA-400 修理	エア・ウォーター・ライフサポート	125,290	鷹栖さつき苑
	ネットワーク機器一式	SHINKO	2,541,000	鷹栖さつき苑
	ネットワーク機器一式	SHINKO	2,860,000	なごみの家
	ネットワーク機器一式	SHINKO	1,573,000	ぬくもりの家えん
3	ネットワーク機器一式	SHINKO	947,540	在宅支援
	非常用自家発電装置整備工事	亀谷電設	9,018,240	なごみの家
	非常用自家発電装置整備工事	亀谷電設	9,769,760	ぬくもりの家えん
	ライラックイオ LA-400 修理	エア・ウォーター・ライフサポート	211,200	鷹栖さつき苑
	ウォシュレット取付工事	齋藤工業所	167,200	鷹栖さつき苑
合計			29,113,730	

(5) 苦情・意見に対する改善状況

部 署	受付月	苦情・意見の内容	改善状況
本部・総務課		なし	
特養さつき苑		なし	
ショートステイ さつき苑		なし	
デイサービス はびねす			
ヘルパーステーション さつき苑	7月	物品破損時の職員の対応 に不満	誠意を持って、謝罪の言葉を最初に伝える
	10月	訪問中の掃除の仕方、態度 に不満	個別による細かな指導、引き継ぎの改善を行う
介護センター さつき苑		なし	
グループホーム なごみの家		なし	
小規模 なごみの家		なし	
特養 ぬくもりの家えん		なし	
小規模 ぬくもりの家えん		なし	
サ高住たかほ	1月	サービス付き高齢者向け 住宅ぬくもりの家たかほ 管理当直員の対応について	対象職員へ対して、個人的な関わりを 持たないように指導するとともに、た かほ管理当直員の勤務を外した。

(6) 総務課職員研修会

開催年月日	講師	テーマ	参加職員数
令和2年6月9日	波瀲施設長	総務課の仕事の目的と役割(1)	6
令和2年7月17日	泉田先生	総務課職員レベルアップ研修会	7
令和2年10月16日	波瀲施設長	総務課の仕事の目的と役割(2)	6
令和2年11月30日	総務課長	接遇マナーの基本	7
令和3年3月8日	泉田先生	特養さつき苑リーダーとの合同研修	6

(7) 総務課課内会議

毎月1回開催：業務確認等実施

令和2年度 部門(事業所)別活動計画(実績)

部門(事業所)名 法人本部・総務課

[評価基準] S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	[評価基準]												ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容	
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月				3月
1	(1)(3)(4)	施設環境の維持管理	①全事業所の建物・付属設備・車両等の定期点検及び必要な宮繕を行うとともに、環境点検シートに基づく点検を実施する。 ②おもてなしの心を表すために、来客者への対応、毎週実施している玄関及び大ホールの清掃並びに環境整備を継続して行う。 ③各施設・事業所の物品庫の整理・整頓を推進する。	木幡・高橋・舟根・佐々木	計画	①定期点検年間スケジュール作成 ②環境点検実施 ③環境整備継続 ④物品庫整理・整頓	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続 ④物品庫整理・整頓	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①点検実施 ②環境点検実施 ③環境整備継続	①定期点検を実施し、事故等の未然防止、入居者・利用者様への影響軽減を図る。 ②おもてなしの心を徹底する。 ③物品庫整理で、無駄をなくし、保管物品の見える化を図る。	B	①車両・建物は法律に基づく点検実施済 ②全ての事業所の環境整備はできていない							
2	(2)(3)	災害対策	①防災用品・備蓄品の完備及び各種災害訓練(非常連絡網確認訓練各拠点年2回)の実施。 ②地域住民・行政等との連携による、実効性のある災害対策の組織構築を行う。	木幡・高橋	計画	②行政への働きかけ ②組織構築への検討	①避難訓練(各事業所)	①防災用品等確認	①避難訓練(非常連絡網確認)	①自然災害避難訓練	①避難訓練	①各事業所へ灯油確保(災害時灯油ストーブ用)	②組織構築に向けた打合せ			②組織構築	①災害に備え、防災用品等を整備する。 ②災害に備え、避難訓練(自然災害害)を実施する。 ③大規模災害に備え、地域住民・行政を巻き込んだ組織体制の構築	C	新型コロナウィルス感染症予防により、地域住民を巻き込んだ組織の構築はできなかった。 感染対策に忙殺され、自然災害への対応ができなかった。 災害備蓄品の確認は実施できた。 なごみの家・ぬくもりの家えんに非常用発電装置が整備された。	
3	(2)(4)	仕事の見える化の推進(業務推進体制の構築)	①朝会及び課内定例会議により、各職員の業務スケジュールを確認し、効率的・安定的な業務の推進を図る。 ②各事務担当職員不在時においても、業務を推進できるように必要なマニュアル(ボランティア受け入れマニュアル、利用料金受領マニュアル、労務管理事務マニュアル等)を整備して事務処理方法の標準化と効率化を図る。	木幡・高橋・佐藤	計画	①朝会(毎日)会議(月1回) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会(毎日)会議(月1回) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会(毎日)会議(月1回) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会(毎日)会議(月1回) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会(毎日)会議(月1回) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会(毎日)会議(月1回) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会(毎日)会議(月1回) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会(毎日)会議(月1回) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会(毎日)会議(月1回) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会(毎日)会議(月1回) ②課内定例会議(月1回) ③各担当へマニュアル作成依頼	①朝会・課内定例会議の開催 ②各事務処理マニュアルの整備	B	朝会・課内定例会議は実施。マニュアルについても、総務課長主管事務以外は完成。		
4	(1)(4)	働きやすい職場づくり	①有給休暇の計画的な取得を推進する。(最低、各職員5日間の有給休暇取得) ②職場環境改善(施設・設備・車両・備品類)を行う。	佐々木・全職員	計画	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①計画的な有給取得 ②職場環境改善検討	①課員全員が有給休暇を5日以上取得する。 ②職場環境改善が適切に実施される。	B	①有給休暇10日以上貸与者は5日以上有給取得。ただし、夜間当直員が3月に集中取得となったため、次年度は計画的な取得を目指す。 ②職場環境改善については、毎週月・木及び日直時に施設内消毒実施、清掃等改善指示済。	
5	(2)	会計事務の適切処理	①経理規程に基づき、適正な事務処理を行う。 ②各事業所の予算管理を適正に推進するため、担当課長との連携を強化する。	舟根・土川・木幡	計画	①適正事務処理 ②予算管理システム検討(発注書に予算記載等)	①適正事務処理 ②予算管理システム実行	①適正事務処理 ②予算管理強化	①適正事務処理 ②予算管理強化	①適正な経理事務を実施する。 ②予算管理が適正に執行される。	B	①適正な経理事務実施。 ②予算作成について例年より前倒しで実施、内容精査をすることができた。 ③予算管理は各課長となるが、緊急度のあるものもあり、なかなか強化が難しい。 ④コロナ関連及非常用自家発電、介護ロボット等補助金業務は適正に処理できた。								
6	(2)(4)	職員全体研修会	①職員全体研修を体系化し、確実に実施する。(交通安全研修・メンタルヘルス研修・接遇研修・職員育成研修等)	木幡・全職員	計画	①研修計画作成	※外部研修	①交通安全研修	※人材育成(スキルリーダー研修)	①研修計画実績確認		※人材育成(管理者研修)	①ストレスチェックに基づく研修実施	※人材育成(スキルリーダー研修)	①研修計画実績確認	①次年度研修へのアンケート徴取	①研修計画策定	①職員に必要な研修が計画的に提供される。 ②職員が人財として育成させる。 ③職員が人財として育成させる。	C	①コロナ関連で集合研修ができなかった。 ②次年度に向けた計画も企画できない状態。

令和2年度 部門(事業所)別活動計画(実績)

部門(事業所)名 法人本部・総務課

[評価基準] S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	実施 担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間 評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール (達成目標)	最終 評価	評価内容
7	(1)(2)(4)	課内会議・課内研修	①定期的な課内会議開催 ②定期的な課内職員研修開催(良質高 度な総務サービス提供に向けて等)	木幡・ 全職員	計画	①課内 会議 ②課内 研修(希 望確認)	①課内 会議	①課内 会議	①課内 会議 ②課内 研修	①課内 会議	①課内 会議	A	①課内 会議 ②課内 研修(希 望確認)	①課内 会議	①課内 会議	①課内 会議 ②課内 研修	①課内 会議	①課内 会議	①職員会議の定例化される。 ②職員研修の定例化される。 ③研修受講職員が課内で伝達 研修を実施できる。	B	①課内会議は月1回定例 開催。 ②総務課職員対象の社内 研修実施 ③社外研修はコロナ禍未 受講。 ④業務関連資格受験・取 得者有。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施			

令和2年度 特別養護老人ホーム鷹栖さつき苑・ショートステイさつき苑 事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

令和2年度は、根拠に基づいたケアの提供と多職種連携に特に力を入れ取り組んだ。前年度までは主任が2名であったが、専任で1名にし、新たなリーダー2名を置き、1週間毎のケアチェックの徹底を図った。また、カンファレンス、リーダー会議によりケアの見直し、他職種連携と医療連携に力を注いだ。結果として、入院者数が436日と目標(330日以下)には届かなかったが、前年度(696日)と比較すると260日減った。長期入院とADL低下につながる骨折は0件(前年4件)早期対応が必要な胆道系疾患が1件(前年7件)と大きく減少した。しかし、肺炎については5件(前年6件)と減少できなかった。退去者も6名で前年度(18名)の3分の1と少なく内半数の3名がさつき苑でターミナルケアであった。残りの3名は急な体調の変化により長期入院及び入院中の死亡によるものであった。

事故の目標は昨年度比10%減であったが157件(昨年91件)と大きく増えてしまった。同一の方の転落、転倒を防ぐことが困難で一人が19件、11件となったケースがあった。骨折は0件で目標達成、服薬に関する事故は33件(前年17件)と増えているが、自分で飲み込むことで落とした薬を後で発見することが多かった。また、内服薬の関係もあり小さな内出血も合ったため、介護方法の変更や機器の導入は更に実施する必要があった。

食事、栄養については口から食べることにこだわりながら、美味しい食事と栄養だけでなく好みに合った食事の提供に努め、ターミナル期には本人の食べたいものなど家族との連携も図った。

働きがいと魅力ある職場環境をつくるでは、引き続きリフレッシュ休暇継続公休での会議出勤を減らす、会議時間の縮小に努めた。中途退職者(仕事内容を理由とするもの)は1名であった。実習生については昨年に続き外国人の受け入れを行ったほか、コロナウイルス流行禍においての新しい実習の形としてオンラインによる実習も受け入れた。

行事、レクリエーション、面会についてはコロナウイルス流行により多くの計画が実施できなかった。しかし、外に出て散歩をする機会や季節を感じる行事は規模を小さくし行った。面会は多くの期間できなくなってしまったが、オンライン及び窓越し面会をできる限り実施し、ご家族に送る手紙も写真を入れつなかりを絶たないように努めた。

最後に、令和2年度の業績について、特養事業は目標稼働98.0%に対し、実績97.4%(前年94.6)(目標介護保険収入207,494,000円に対し、実績介護保険収入は213,541,000円)、ショートステイ事業は目標稼働95.0%に対し、実績90.2%(前年88.8)目標介護保険収入34,280,000円に対し、実績介護保険収入は36,254,000円)であった。特養事業については、入居者の状態の安定により目標には達せないも近づけることができた。ショートステイ事業については、在宅で限界を迎え施設の入居待ちとなる方のロングステイが多くなってきているのと、コロナウイルスの関係で入退去がスムーズにいかず実人数の低下となり稼働がさがってしまった。

2. 展望（次年度に向けて）

令和3年度は、重度化に対して科学的評価の基、他職種連携と医療連携を図りケアの向上を図

っていく。また、大きな行事はできずとも暮らしの喜びや体を動かすことをふやしていく実践していく。

人材の定着と確保については、外国人が採用になるため今まで以上にわかりやすく丁寧な教育をしていくと共に休暇の取得推進、サービス残業ゼロの取り組み、を記録の IT 化や介護機器の導入を図っていく。

適正収益の確保では、特養事業の目標稼働率は 98.0% 以上（目標介護保険収入 211,411,000 円）、ショートステイ事業の目標稼働率は 90% 以上（目標介護保険収入 31,865,000 円）とする。また、支出面において現在の業務委託にかかる経費は、業務の効率化と合理化を図り、適正化を図る。

3. 業績報告

(1) ベッド稼働率

(単位：%)

事業名	目標ベッド稼働率(A)	実際ベッド稼働率(B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度ベッド稼働率(C)	伸長率 (B)÷(C)×100
特別養護老人ホーム事業	98.0%	97.4%	99.4%	94.6%	102.9%
短期入所生活介護事業	95.0%	90.2%	94.9%	88.8%	101.6%

(2) 延べ入居者人数

(単位：人)

事業名	目標延べ入居者数(A)	実際延べ入居者数(B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度実際延べ入居者数(C)	伸長率 (B)÷(C)×100
特別養護老人ホーム事業	17,885	17,767	99.4%	17,307	102.7%
短期入所生活介護事業	3,468	3,293	94.9%	3,249	101.4%

(3) 事業収入（介護保険収入・介護予防事業委託費）

(単位：千円)

事業名	目標収入 (A)	実際収入 (B)	達成率 (B)÷(A)×100	前年度収入 (C)	伸長率 (B)÷(C)×100
特別養護老人ホーム事業	209,253	215,682	103.1%	204,678	105.4%
短期入所生活介護事業	34,326	36,300	105.8%	33,643	107.9%

5. 面会状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
面会者延べ人数(名)	0	0	50	86	18	19	35	9	0	2	0	0	219 (3,395)

※コロナにより面会は中止または短時間（15分以内）窓越しであった。

6. 行事

実施日	行事名	内容
6/	春の散歩	園庭を散歩し外気を浴びてリフレッシュを図る。
7/12	さつき祭	コロナ流行につき中止
8/9	スイカ割り	なでしこユニットで行う。
8/21	焼き肉会	外で炭焼きした焼き鳥やサンマ、イカや北海道ならではのジンギスカンを総務職員も一体となり焼き、各ユニットに届ける形で実施した。
9/21	敬老の日 (新秋祭)	米寿、長寿のお祝いの方4名とその家族でのみ実施。 祝膳とデザートを入居者全員に用意する。
10/25	貼り絵	ユニットにて貼り絵を作り飾る。
12/25	ライオンズ 寿司会	お寿司を入居者職員にいただく。コロナのため会員の配膳はなし。
12/27	餅つき	コロナ流行により中止（正月にお雑煮のみ提供）
1/1～3	書き初め 福笑い	各ユニットで書き初め、福笑いを実施する。
1/15	新年会	鍋を各ユニットに総務職員も協力し振る舞う。獅子舞と宝引きを各ユニット回り実施。
2/2	節分	職員と入居者が鬼になり各ユニットを回る。
3/3	ひな祭り	総務職員がひな人形をホールに飾る。各ユニットで雛人形を折り紙で作成し飾る。

※小学校、養護学校、保育園の交流行事は予定していたが、コロナウイルス流行につきすべて中止。

7. 会議・研修

月	会議・研修名	内容	担当
7月	食中毒研修	食中毒の原因、予防、冷蔵庫の掃除など	栄養士
8月	救急救命研修	心臓マッサージ、AEDの使い方など	消防署
10月	感染症対策研修	インフルエンザ、ノロウイルス対応	看護師
11月	ターミナルケア研修	マニュアルの確認他	相談員
12月	虐待・身体抑制廃止研修	虐待の定義、「マニュアルの確認他	相談員
3月	外国人受け入れについて	受け入れる理由、気をつけること等	施設長
8～1月	基礎介護研修	食事、排せつ、入浴、移乗、医療、認知症	法人全体

※各ユニット会議、リーダー会議、ナース会議は毎月実施

- ※リーダー会議： ユニットの利用者の状態把握、職員の状態把握、業務改善、業績について
- ※各ユニット会議：カンファレンス、褥瘡発症者及びハイリスク者、栄養マネジメント、抑制廃止、本人家族からの苦情要望、事故の検討を毎回行っている。
- ※ナース会議： 入退院・通院状況、新規・退去者状況、褥瘡発症者及びハイリスク者、排便コントロール・下剤の見直し、向精神薬の見直し、業務改善を毎回行っている。

令和2年度特別養護老人ホーム現況報告書

(自：令和2年4月1日 ～ 至：令和3年3月31日)

1. 入居者状況

(1) 利用（入退所）状況（過去5年）

年度	定員	新年度より繰越人員			新規入所			死亡・退所人員						翌年度へ繰越人員		
								死亡			退所					
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
28	50	12	37	50	2	8	10	3	3	6	2	1	3	9	41	50
29	50	9	41	50	4	6	10	2	7	9	0	1	1	9	41	50
30	50	9	41	50	4	15	19	1	9	10	2	5	7	9	41	50
R1	50	10	40	50	6	11	17	3	10	13	3	2	5	9	41	50
R2	50	10	40	50	1	5	6	0	3	3	2	1	4	10	41	50

(2) 入居者住所地（令和3年3月31日現在）

	男性	女性	合計
鷹栖町	10	38	48
町外	0	2	2
合計	10	40	50

(3) 入居者待機者状況（令和3年3月31日現在）

	老健	病院	その他	GH	在宅	合計
計	2	9	5	2	18	36

(4) 在所期間一覧表（令和3年3月31日現在）

1年未満	8
1～4年未満	15
4～6年未満	5
6～8年未満	1
8～10年未満	3
10年以上	4
合計	50

(5) 入居者年齢構成（令和3年3月31日現在）

	在籍者		
	男性	女性	計
65才～74才	0	2	2
75才～79才	0	2	2
80才～84才	1	6	7
85才～89才	4	8	12
90才～94才	5	12	17
95才～99才	0	8	8
100才以上	0	2	21
計	10	40	50

(6) 介護度の状況（令和3年3月31日現在）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
計	1	4	13	8	24	50
男性	1	1	5	1	2	10
女性	0	3	7	7	23	40

(7) 身体状況（障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定）

	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	計
計	0	0	6	9	9	17	0	9	50
男性	0	0	3	2	2	3	0	0	9
女性	0	0	3	7	7	14	0	9	40

(8) 認知症の状況（認知症高齢者の日常生活自立度判定）

	正常	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	計
計	4	4	3	6	17	7	7	2	50
男性	0	1	1	3	0	2	3	0	10
女性	4	3	2	3	17	5	4	2	40

(9) 食事状況（令和3年3月31日現在）

	自立	見守り	一部介助	全介助	経管栄養	合計
合計	11	13	8	12	6	50
男性	4	2	1	3	0	10
女性	7	11	7	9	6	40

(10) 移動状況 (令和3年3月31日現在)

	歩行		杖	歩行器など		車いす		計
	自立	要介助	自立	自立	要介助	自立	要介助	
合計	4	3	1	5	7	4	26	50
男性	2	0	0	1	1	3	3	10
女性	1	1	0	2	5	6	25	40

(11) 入浴状況 (令和3年3月31日現在)

	一般浴		個浴	車いす浴	シャワー浴	合計
	自立	介助				
合計	0	7	15	28	1	50
男性	0	4	0	5	0	10
女性	0	3	15	21	1	40

(12) 排泄状況 (令和3年3月31日現在)

日中

	トイレ		ポータブル		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
計	5	13	0	0	31	(2)	50
男性	2	2	1	0	5		10
女性	3	11	0	0	26	(2)	40

夜間

	トイレ		ポータブル		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
計	6	6	2	0	36	(2)	50
男性	2	1	1	0	6		10
女性	4	5	1	0	30	(2)	40

(13) 入居者疾患分類 (令和3年3月31日現在)

疾患名	計
脳血管障害	27
糖尿病	8
心疾患	16
関節炎・リュウマチ	13
パーキンソン病	2
認知症(アルツハイマー)	15

認知症(レビー小体型)	1
認知症(脳血管型)	3
認知症(そのほか)	8
悪性腫瘍	3
胆道系疾患	8
泌尿器疾患	6
腎機能障害・腎臓病	3

※主疾患のみ。重複あり。

(14) 入院状況

病院名	診療科目	症状・病名	日数
森山病院	脳外科	胃瘻ボタン交換	1
佐野病院	内科	貧血	42
森山病院	脳外科	脳梗塞	10
旭川医療センター	消化器科	S状結腸軸捻転	4
佐野病院	内科	胃瘻ボタン交換	2
旭川医療センター	神経内科	精査	20
森山病院	循環器内科	誤嚥性肺炎	28
森山病院	脳外科	肝機能精査	5
森山病院	脳外科	胃瘻ボタン交換	1
佐野病院	内科	血圧低下	53
佐野病院	内科	誤嚥性肺炎	36
旭川医療センター	内科	誤嚥性肺炎	20
旭川赤十字病院	脳外科	痙攣発作	12
森山病院	脳外科	胃瘻ボタン交換	1
佐野病院	内科	胃瘻ボタン交換	2
旭川赤十字病院	脳外科	脳出血	24
森山病院	脳外科	胸部不快	6
旭川医療センター	神経内科	低栄養	35
森山病院	脳外科	胃瘻ボタン交換	1
旭川医療センター	呼吸器科	誤嚥性肺炎	39
旭川医療センター	消化器科	総胆管結石	15
大西病院	内科	脳出血	33
佐野病院	内科	胃瘻ボタン交換	2
市立旭川病院	皮膚科	蜂窩織炎	17
森山病院	脳外科	脳梗塞疑い	1

2. 事故発生 の統計 (1) 事故の内容

内 容	特養	ショート	合計
転倒	54	21	75
転落	48	7	55
ぶつけた	5	0	5
誤飲(誤嚥)	1	0	1
誤投薬	5	2	7
投薬忘れ	21	5	26
異食	2	0	2
その他	13	2	15
圧迫	0	0	0
搔いた	0	0	0
不明	8	1	9
	157	38	195

(2) けがの程度

程 度	特養	ショート	合計
無傷	110	29	139
発赤 (後に消失)	3	3	6
擦り傷	3	3	6
切り傷	4	1	5
内出血	26	0	26
やけど	0	0	0
腫れ	5	1	6
骨折	2	0	2
死亡	0	0	0
その他	2	0	2
打撲	0	0	0
表皮剥離	0	1	1
出血	2	0	2
	157	38	195

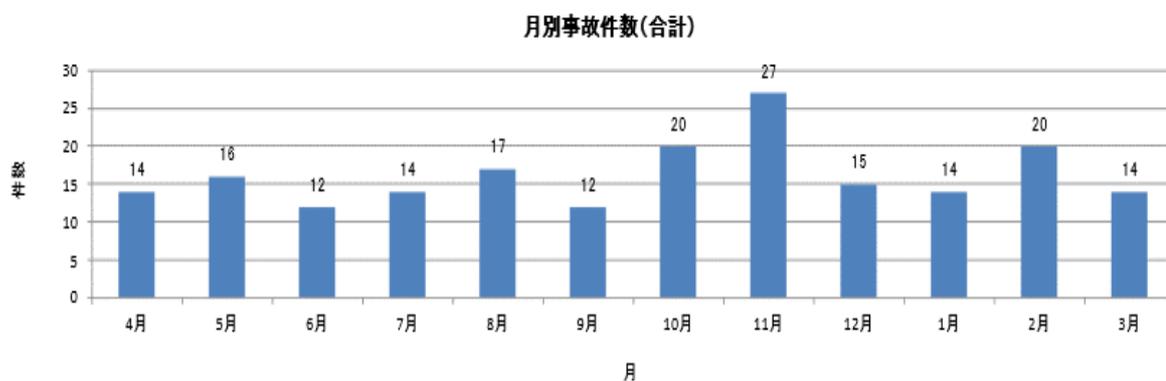
(3) 事故の種類

種 類	特養	ショート	合計
介助中	45	8	53
単独	98	28	126
自傷	0	0	0
	143	36	179

(4) 事故の発生（発見）場所

場 所	件数
リビング	16
浴室	0
トイレ	4
居室	8
廊下	6
食堂	1
その他屋内	2
屋外	0
不明（後に発見）	1
	38

(5) 月別事故発生件数



3. 苦情の状況

(1) 苦情の内容と対応

なし

令和2年度 部門(事業所)別活動報告

部門(事業所)名 生活福祉課

評価基準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どりの結果 C:取り組んだが結果不十分 D:全くアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との運動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容	
1	(1)	根拠に基づいたケアサービスの提供と、多職種協働でトータルケア(総合的視点による予防的ケア)を実践。	①従来のケアシステムを運用しながら、ケアチェックと多職種協働によるトータルケアを実践し病気の重症化や再発を予防します。(目標:新規受診数前年比-10%) ③多職種によるカンファレンスを速やかに開催し要因分析と対応策をたてケアします。(目標:年間入院日数330日以内)新たな疾患、病気の再発の予防に努めます	相談員 ケア ナー ジャー	ケアチェック、個別カンファレンス実施(継続) 定期カンファレンス(月1回)		特養勉強会①				B	ケアチェック、個別カンファレンス実施(継続) 定期カンファレンス(月1回)の実施 リーダー勉強会②					リーダー勉強会③	・新規受診数 前年比-10%。 ・年間入院日数330日以内。	B	新規受診数は前年度比-9%入院は昨年より-260日となったが、案件数は436と目標を上回っていました。	
2	(1)	尊厳を守り、痛みや苦しみを緩和し、個々にあわせて、より良質なケアサービスを提供。	①下剤服用による苦痛、認知症の周辺症状の悪化を予防するため下剤使用の見直しを継続し、自然排便のための補助療法等を充実させることで、刺激性下剤常用者 全入居者の6%以内(3人以内)をめざす。 ②長期見直しされていない向精神薬、眠剤、その他の薬剤について、薬剤の特性を理解し、通常期待される効果が認められていない、または、副作用が強く出ている場合など、本人の状態を踏まえたうえで医師と相談、見直しを図る。 ③誤嚥性肺炎を起こさないよう食事方法の見直しと口腔ケア研修を実施しケアの向上を図る。また、本人の痛みや痛みを緩和するために、喀痰吸引がすすめるようなケア方法を実施する。 ④尊厳ある排便をめざしその方に合わせた排泄方法、オムツ形態を見直すため、CST委員会を立ち上げます。また、尿失禁のある方に対し、排泄のタイミングを把握し、できる限りトイレでの排泄をしていただくことで清潔な状態を保つ。 ④ポジショニングの研修を実施し、拘縮と褥瘡を防ぐ。	看護師 主任	ナース会議、ユニット会議内にて検討(継続) CST委員会立ち上げ 各ユニット会議で口腔ケアの状況確認				「口腔ケア研修」準備	「口腔ケア研修」の実施	・上半期下剤服用排便状況評価 ・上半期誤嚥性肺炎の状況確認	B	ナース会議、ユニット会議内にて検討(継続) 「ポジショニング」研修準備					「ポジショニング」研修実施	・刺激性下剤常用者 全入居者の6%以内(3人) ・向精神薬、眠剤等の服用者 全入居者の12%以内を目指す。 ・入居者の状況に合わせ、随時排泄ケア(トイレの使用、おむつの使用)について検討し、排便に関する改善を図る。 ・口腔ケアの見直しと徹底を図り、誤嚥性肺炎を5件以内とする。	B	刺激性下剤使用者は1名向精神薬・眠剤は13人と全体の26%オムツ使用はパッドも入れると72%であるが、使用しながらトイレでの排泄つを実践している口腔ケアは不十分で課題はあるが、誤嚥性肺炎は昨年より1件減り4件であった。
3	(2)	自立支援を視点におき、生き生きと暮らせる生活と環境を創る。	①担当スタッフが入居者個別に課題分析、計画の立案、目標に向けたケア(介護過程)を展開しQOL及びADLの向上を目指す。 ②残存機能を活かした役割を持っていただくことで生き生きとした暮らしができるよう、毎月のユニット会議で検討する。 ③アクティビティ(外出、季節行事、レクリエーション活動、手作りおやつなど)を充実させ、スタッフも一緒に楽しめるイベントを計画的に実施する。 ④施設内環境の整理・整頓・清潔を徹底し、また季節感を感じられる潤いある環境をつくることで、ご利用者が安心し落ち着いて暮らせる環境をつくる。	リーダー	休園祭の開催 担当付付(総合職)	春の一斉清掃 ・エアコン稼働	・外出行事の実施(散歩・買物・外食など)			・担当による介護過程の展開(1人ケース) ・流しソーマン	C	担当による介護過程の展開(継続) 秋の一斉清掃 ・例会						・年末大掃除	・各担当が介護過程を展開できる ・計画通りに行事が実施できる	C	行事はコロナ禍でほとんどじっとできなかった。しかし、その中でも体操や散歩、行事を楽しむことを実施した。介護過程の展開についても内容に不十分さはあるが、実施した。環境はエアコンの導入により快適に改善された。
4	(1)	安心して生活できる施設づくり。	①事故に対する危険予測の意識を高めるための研修会を開催するほか、ヒヤリハットと過去の事故事例をユニット会議内において継続的に周知し予防意識を啓発します。(目標:事故件数、前年度より、20%減少、骨折事故ゼロ、服薬に関する事故を-50%) ②高齢者虐待や身体拘束予防の研修会の実施のほか、毎月のユニット会議において身体拘束(及び不適切なケア)を議題にあげ、対応について全員で検討、共有する。(目標:身体拘束と虐待及び不適切なケア0件) ③医師及び感染症対策委員会と連携しながら、ノロウイルス、インフルエンザを予防する。(目標:インフルエンザ・ノロウイルス集団(5名以上)発症0件)	主任	事故発生時の対応について研修 ・肺炎球菌ワクチン接種対象者の統計 ヒヤリハットメモの導入	肺炎球菌ワクチン接種 ・加屋器設置	食中毒予防研修(法人本部) ・事故の傾向調査・分析・報告			・身体拘束高齢者虐待予防研修	C	インフルエンザ・ノロウイルス感染予防研修 ・インフルエンザ・ノロウイルス感染予防研修 ・インフルエンザ・ノロウイルス感染予防研修						インフルエンザ・ノロウイルス注意喚起 ・インフルエンザ・ノロウイルス注意喚起 ・インフルエンザ・ノロウイルス注意喚起 ・インフルエンザ・ノロウイルス注意喚起 ・インフルエンザ・ノロウイルス注意喚起	・インフルエンザ・ノロウイルス集団発症0件。 ・事故件数、前年度より、20%減少。 ・骨折事故ゼロ。 ・服薬に関する事故を-50%(12件以内)。 ・身体拘束と虐待及び不適切なケア0件。	C	・感染症の発症はゼロ件であった。 ・事故件数(157件と同じ方)の事故が起きました。 ・服薬における事故も27件と多くなってしまった。 ・不適切なケアはなかった。

令和2年度 部門(事業所)別活動報告

部門(事業所)名 生活福祉課

評価基準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どりの結果 C:取り組んだが結果不十分 D:全くアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との運動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容		
5	(4)	口から食べ続けられること にこだわり、安全に、美味しく、楽しめる食事を提供する。	①日々の生活の中で、食を通した生活の質の向上として、季節感のあるものを食べることに、四季の移り変わりを感じて頂けるよう、行事・祝祭の提示の提案・実施をする。	栄養士	計画	・昭和の日祝祭 ・春祭りの日祝祭、こどもの日祝祭 ・さつき祭メニュー検討・試食会		・春の日祝祭、土用の日の日祝祭 ・新秋祭メニュー検討・試食会	・七夕祝祭	・十五夜の日祝祭、秋分の日祝祭 ・新年会メニュー検討・試食会	B	・体育の日祝祭	・文化の日祝祭、勤労感謝の日祝祭	・天皇誕生日祝祭 ・ライオンズクリスマス委員会 ・もちつき	・成人の日祝祭	・部分の日祝祭、建国記念日	・ひな祭りの祝祭、春分の日祝祭	・季節感を感じて頂くための年間食事計画を予定通り実施出来る。	B	コロナ禍ではあったが計画通り実施できた 秋に行った焼き肉会は総務からの協力も得て、楽しんでいただくことができた。		
			②嚥下機能の低下により食事形態の調整が必要な方も、常食の方と同じような見た目四季を感じられるおやつを食べていただける機会を作るために、ソフト食の手作りおやつを提供する。	栄養士	計画	手作りおやつ、かしわ餅							B								B	季節行事に合わせ、常食に近い形で美味しく作ることができた。
			③献立のみではなく、食器へ配慮し、見た目にも楽しく食べやすい食事を提供する。	栄養士	計画			新規食器購入検討(小鉢)	新規食器購入(小鉢)	新規食器購入検討(茶碗)			C	新規食器購入(茶碗)			不足食器購入	不足食器購入			・計画的に食器の購入を行い、見た目にも良い食事提供を実施することが出来る。	C
6	(3)	特養における管理栄養士の役割の学び、入居者の健康の維持・向上のための栄養ケアを実践します。	①毎月の体重の増減を確認し、改善策を都度リーダーと連携して立案し、実施する。 ②食事量、水分量、排泄状況のダブルチェックを毎週行い、食を通してアプローチを提案し実施する。	栄養士	計画	・体重増減の確認と対応、報告 ・ダブルチェック					B								B	体重を栄養マネジメントと各会議で把握し、栄養補助食品等の導入も含め実施した。		
			③排泄困難者に対して、食を通して個々に合わせたアプローチする。	栄養士	計画	①状態観察、実施、評価						C									C	食事でのあるアプローチは十分でなかった
				栄養士	実施																	
7	(4)	外部委託業者との連携強化。	①衛生管理及び給食設備を定期的に確認し、食中毒を予防する。	栄養士	計画	①給食設備の確認 ②衛生管理方法についての確認・見直し		食中毒予防研修(ユニット会議内)			B								事故や食中毒なく食事提供を行うことができる。	B	衛生面での事故はなく実施できた	
			②委託業者との情報交換、協力体制を密にするため、毎朝のミーティングと月1回の給食運営会議を実施。	栄養士	計画	①ミーティング内容検討・業務内容調整	①ミーティング実施						C								C	情報共有はしていたが、多職種の連携までには至らなかった。
			③よりおいしい食事の提供をめざし、新たな食材の導入の検討と厨房の業務(調理行程など)の効率化。	栄養士	計画	厨房業務オペレーションの確認と効率化の検討							C								C	炊事食が十分でなく、ソフト食に移行してしまっていた。
8	(4)	口から食べ続けられること にこだわり、安全に、美味しく、楽しめる食事を提供、外部委託業者との連携強化。	①よりおいしい食事の提供をめざし、新たな食材の導入の検討と厨房の業務(調理行程など)の効率化。 ②委託契約額の適正化。	栄養士	計画	厨房業務オペレーションの確認と効率化の検討					A								A	委託業者と協議を進め次年度減額に結びつけることができた		
			実施																			
9	(6)	スタッフ個々の基礎介護力と実践力の向上。	①全職種、全職員を対象とした研修を継続実施し、より実践的な知識、技術を身につける専門性と実践力の向上を図る。 ②根拠に基づき各研修に連動した具体的なOJTを取り入れた新任教育を継続実施する。またエルダー面談や定期面談を計画的に実施する。	課長主任	計画	・エルダー面談(毎週)	・エルダー面談(毎週)	・エルダー面談(隔週) ・前期定期面談 ・救急救命講習 ・避難訓練	・食中毒予防研修 ・エルダー面談	・エルダー面談(第4週) ・自衛隊研修	・身体拘束、高齢者虐待予防研修 ・エルダー面談 ・基礎介護研修 ・自然災害想定訓練	B	・エルダー面談 ・コミュニケーション研修 ・避難訓練(夜間想定)	・接遇マナー研修 ・基礎介護研修② ・ボジショニング研修	・後期定期面談 ・基礎介護研修③ ・感染症予防研修	・基礎介護研修④ ・基礎介護研修(医療)	・エルダー面談 ・接遇マナー研修	・計画通り研修を実施する。 ・計画通り面談(エルダー・定期)を実施する。	B	コロナ禍で全部の研修はでき無かったが、工夫しながら概ね実施できた		
			実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施				
10	(5)	ご家族や地域とのつながりを大切にし、積極的に交流の機会をもつ。	①ご入居者とご家族と一緒に楽しめる行事を企画・実施する。(目標:さつき祭、新秋祭などの全体行事のほか、各ユニット、ご家族を招待し年に1回以上開催する)	リーダー主任	計画	・花壇整備 ・北野小交流① ・チャレンジデー	・廣橋義塾学校交流会①	・さつき祭・焼肉 ・廣橋義塾交流会②	・熱夏フェスタ ・嵐山御典	・新秋祭 ・長生感謝祭 ・廣橋義塾交流会③		C	・北野小疑似体験 ・秋のチャレンジデー	・北野小交流②	・ライオンズ委員会 ・もちつき	・初詣 ・新年会	・部分	・計画通り行事を実施することができる。	C	コロナ禍でほとんどの行事が中止になり、家族と面会はできなかった。		
			実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施				

令和2年度 部門(事業所)別活動報告

部門(事業所)名 生活福祉課

評価基準]S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:取り組んだが結果不十分 D:全くアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との運動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容	
11	(6)	チームワークの向上と働きがいと魅力ある職場環境をつくり、退職者ゼロを目指す。	①有給休暇(7連休または3連休、4連休2回)の計画的付与を継続する。 ②休日の会議、研修参加について改善を図る。 ③スタッフの成長とチームワークの向上、ユニット活動の活性化を目的とし、ユニット間の人事異動を定例実施する。 ④業務改善を図り、サービス残業や残業を減らす ⑤実習生の積極的な受入を図り、介護の魅力を伝えて行く(実習指導者研修の受講1名)	課長主任	計画	・各会議内で業務改善について検討(継続) ・歓迎会	・リフレッシュ休暇取得開始	・ユニット異動	・さつき祭		・新秋祭	B			・忘年会	・新年会			・希望者全員が長期休暇(7連休または分割した連休)を取得できる。 ・30分以上のサービス残業ゼロ。 ・新任職員(1年未満)の職員の退職ゼロ。	B	新任職員も定着し退職はなかった。連休についても予定通り取得できた。
					実施	実施	実施	実施	未実施	縮小				未実施	縮小						
12	(8)	適正収益を確保と安定した運営。 ②新たな加算の取得に向けた体制を整え取得を目指す。	①入院者数の減少、入退居の迅速な手続きにより空床を減らし稼働率の維持と向上を目指す。	課長主任	計画	会議で入院者・退居者のリファレンスの実施。						B	会議で入院者・退居者の原因分析を実施。					・年間稼働率:特養98%以上、ショート95%以上。 ・入退居時の空床日数平均7日間以内。 ・特養:目標介護保険収入210,121,000円。 ・ショート:目標介護保険収入32,998,000円。 ・新たな加算の取得	B	稼働率については目標は下回ったが前年度よりは大きく伸びた。特養97.4%、ショート90.2%であった。収入については要介護度の変更もあり、上回る事ができた。	
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施				

令和2年度 鷹栖町デイサービスセンターはびねす事業報告

1. 総括(今年度の取り組みの成果)

令和2年度は、「リハビリテーションの充実」「環境改善」「アクティビティの充実」「楽しくおいしい食事」「介護予防と中重度化対応」の5項目の取り組みを継続して行った。

「リハビリテーションの充実」は、個別のリハビリテーションのコーナーを設置した。e-ボール、セラバンド、軽量ダンベル、指先リハビリ等各自デイサービスの活動の合間に組み入れるように設置した。それに合わせて、リハビリスタンプラリーも行い、リハビリやスポーツをするごとに、スタンプを押し一定の数をためると、プレゼントが当たるイベントを開催した。多くの利用者がデイでの活動の合間の時間をリハビリに繋げて行っている。結果、リハビリを自主的に行う利用者が、前年度と比べると増加した。身体能力の向上を人に頼るだけでなく、個別リハビリの環境を利用し自ら進んで熱心に取り組まれている。

「環境改善」は、昨年3月からの取り組みで、コロナウイルス感染予防の為に、ホール全体にテーブルを設置した。ソーシャルディスタンスを保てる様に、人と人との距離を取るように配置した。また、向かい合わせの利用者の飛沫感染予防のため、卓上にシールドの設置を行う。その他にも、アルコール自動噴霧機の設置や非接触型の体温計、非接触型の血圧計を設置した。

「アクティビティの充実」は、コロナウイルス感染予防の為に、接触の少ないハンドメイド作品づくりを強化。担当の職員を増員し様々なアイデアを出し合い、作品の種類を増やし、多種多様なハンドメイド作品を作ることが出来た。ハンドメイドアクティビティの参加常連の利用者もでき、楽しいデイサービスを実現出来た。

「楽しくおいしい食事」は感染予防を優先しデイサービスで人気の鍋や焼き肉パーティーは残念ながら中止した。代わりに祝膳を提供し、普段のデイの食事とはひと味違う食事を提供した。

「介護予防と中重度化対応」は、職員による毎日の健康立ち話の開催。脱水・誤嚥性肺炎・下剤・認知症予防・生活不活発病の5つのテーマを行った。また、今年度はコロナウイルス感染予防の講座も追加した。中重度化予防では、デイサービスでの困難事例を会議の中で話し合い、病状の説明や対応方法を周知しケアの統一を図った。今年度は介護度が高めの方の新規利用が多く、年度初めの4月の平均介護度は1.5に対し年度末には1.76となる。初回利用時のアセスメントから、対応方法の見直しを迅速に行った。ショートステイとの連携もあり、デイサービスの利用継続が出来ているケースもあった。

今年度はコロナウイルスの流行もあり、予定していたイベントを中止または縮小する事を余儀なくされた。そのような中、感染予防の為に、デイサービス利用を控え自宅から出ないで生活されている利用者もいた。1ヶ月以上の自宅待機状態の中、身体機能の低下は顕著であり、デイ再開の頃には以前のように利用することが出来ず、サービスの移行をされる方が数名いた。

コロナウイルスの影響もあったのだが、それを上回るニーズがあり、実利用者数の月平均は、令和元年度94.9名から令和2年度は102.4名と増加。平均介護度も高くなり、収入

の増加につながった。(令和元年度介護保険収入 59,843,000 円 令和2年度介護保険収入 66,010,000 円)

2. 展望（次年度に向けて）

令和3年度は、「リハビリテーションの充実」「環境改善」「アクティビティの充実」「楽しくておいしい食事」「介護予防と中重度化」の取り組みを継続する。中でも重度化の取り組みを強化し「住み慣れた地域」で少しでも長く生活できる様に、ショートステイとの連携や病院との医療連携を積極的におこなう。より多くの高齢者の健康づくりに関わられるよう職員や環境の見直しを行い、更に活気のあるデイサービスセンターとする。そして、コロナ禍でも安心して楽しく利用出来る様に、引き続き感染対策の強化を行う。

3. 運営状況・統計資料

(1) 業績

<事業収入>

(単位:千円)

目標介護保険収入 (A)	実際介護保険収入 (B)	達成率 (B) / (A) × 100	前年度 介護保険収入(C)	伸長率 (B) / (C) × 100
65,944	66,010	100	59,843	110.3

<1日の平均利用者数>

目標 平均利用者数(A)	実際 平均利用者数(B)	達成率 (B) / (A) × 100	前年度 平均利用者数(C)	伸長率 (B) / (C) × 100
27名	23.9名	88.5%	22.9名	104.3%

(2) 利用者年齢構成

(単位:人)

年齢	男性	女性	合計
40 ~ 60	2	0	2
60 ~ 64	0	0	0
65 ~ 69	0	1	1
70 ~ 74	3	2	5
75 ~ 79	6	5	11
80 ~ 84	7	23	30
85 ~ 89	16	26	42
90 ~	14	38	52
合計	47	95	142
平均年齢	84.8	87.3	
最低年齢	48	69	
最高年齢	97	99	

(3) 事故発生状況

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
転倒	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	3
転落	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	4
傷をつくる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食・誤食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨折	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
原因不明の傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
爪切り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投薬管理ミス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
破損事故	1	0	1	0	1	0	1	0	2	1	0	0	7
衣服破損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
合計	1	0	1	0	2	2	1	0	3	3	1	3	17

(4) 職員研修

< 苑内研修参加状況 >

日 程	研 修 内 容	参加人数
令和2年 4月 20日	接遇マナー研修	7名
9月10.17日	基礎介護研修（中級：移乗）	5名
10月8.15日	基礎介護研修（中級：食事）	5名
11月12日2月12日	基礎介護研修（中級：排泄）	5名

< 外部研修参加状況 >

日 程	研 修 名	参加者
令和3年3月6.7日	全国先端ケア研究会	谷・成田

(5) デイサービスセンター会議実施状況

開催月	内 容	参加人数
令和2年 4月 20日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・令和2年度行動計画について	7名
5月 18日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・接遇マナー研修	7名
6月 22日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
7月 20日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告	7名

		環境改善・活動計画評価・	
8月	24日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	7名
9月	28日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	7名
10月	26日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価・接遇マナー研修	6名
11月	30日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
12月	21日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
令和3年 1月	18日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
2月	22日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告・活動計画評価	6名
3月	22日	各担当活動報告・各会議報告・業務管理報告 環境改善・事故報告	5名

(6) ボランティア受け入れ状況

①ボランティア受入実績

※コロナ感染予防の為 ボランティア中止

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
延べ人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②ボランティア協力団体

団体名	活動内容
なし	なし

(7) 行事

※コロナ感染予防の為 外出行事、ソーシャルディスタンスを保つ事が困難な行事を中止

日時	行事名	場所	担当者
令和2年 4月18日	アロママッサージ	デイホール	成田
5月8日	春の絵手紙	デイホール	成田
5月26日	布マスク作り	デイホール	成田
6月1.2日	夏の絵手紙	デイホール	成田

6月23日	布ブローチ	デイホール	新井
7月25.28日	ペーパークイリング	デイホール	成田
8月28日	切り絵	デイホール	新井
9月24日	タイルアート	デイホール	新井
10月5日	パークゴルフ大会	四季の里	大矢
10月6.13日	羊毛フェルト	デイホール	谷
10月15.16.17日	ネイルケア	デイホール	成田
11月6日	こけ玉	デイホール	谷
11月20日	ネイルケア	デイホール	成田
11月27日	はびねすカフェ	デイホール	石坂
12月8.15日	しめ縄作り	デイホール	近藤
12月23日	ネイルケア	デイホール	成田
令和3年 1月15日	羊毛フェルト	デイホール	谷
1月19日	つまみ	デイホール	岩井
1月23日	はびねすカフェ	デイホール	石坂
2月4.11.25日	つまみ	デイホール	岩井
2月16日	ネイルケア	デイホール	成田

4. 苦情の状況

(1) 苦情の内容と対応

受付日	内容	原因	改善状況
なし	なし	なし	なし

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 デイサービスはびねす [評価基準] S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容					
1.2.3	(1)	魅力あるデイサービス充実したアクティビティ	常に事業所内が清潔感に包まれ、利用者にとって心地よい居場所と空間を整える。	谷/成田/藤川	計画		リクライニングチェア導入準備・谷	テーブルクロス(夏)藤川					B	図書コーナー開設準備 谷	テーブルクロス(冬)藤川					①テーブルクロスのはり替えによる季節毎のホールの雰囲気の変更 ②ホールに調和するリクライニングチェア購入 ③図書専用コーナーの設置(本棚購入)落ち着いて読書ができる環境の整備	C	しつらえの定期的な変更を行った。ソーシャルディスタンスを保つために、テーブル数が増えそれに対応するテーブルクロスを購入が必要、図書コーナーは予算の都合で来年度以降に検討。				
					実施		実施	実施							未実施	ブルクロス実施										
			魅力ある製作レクリエーション、楽しめる脳トレを提供しご利用者様に楽しい時間を過ごしていただく。	成田/井上新井	計画		ハンドメイド脳トレ 成田/新井								A							①月1〜3回製作レクの実施	S	ハンドメイドに力を入れることができた。未経験の制作物も多数あり、利用者の皆さんに楽しんでもらえた。脳トレの教材の作成に工夫が必要と考える。		
					実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施					
			デイサービスのプログラムを見直し、活気のあるデイサービスを目指す。	成田/大河原	計画		AMアクティビティ(毎月必ず新しいアクティビティの導入) 成田			AMアクティビティ 大河					C							①AMにアクティビティを毎日提供できている	B	午前中のレクリエーションを実施刷ることが出来ていた。手の空いている利用者の参加ということもあり、デイサービス全体の活気はと言えなかった。		
					実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施					
		外出レクリエーションの充実を図り、活動範囲の拡大を図る。	井上/石坂	計画				スペシャル外出 空港テラス 井上・近藤	スペシャル外出 美瑛ドライブ 成田				スペシャル外出 富良野 谷・大矢・大河原	D	スペシャル外出 動物園 藤川・石坂						①活動範囲の拡大が出来ている ②非日常的な体験を利用者と職員が共に共有する事が出来る(思い出を作る)	D	コロナ感染予防のため中止する。今後のコロナ禍での実施方法の検討を行う。			
				実施				未実施	未実施			未実施		未実施												
		食事を毎月行い、「馴染みの仲間たちとのおいしい食事の場」を提供する。	柳原藤川/近藤	計画		食事会			食事会(BBQ)	食事会(夏祭り)				D				食事会(新年会)	食事会(ご当地鍋祭)	食事会(ご当地鍋祭)	①食事会の定期開催「馴染みの仲間たちとのおいしい食事の場」の継続					
				実施		未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施		未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施						
		4	(1)	自立支援とリハビリメニューの充実	生活目標の設定・掲示をして、生活意欲が向上できるようにする。	大矢/大河原	計画							生活目標リニューアル 大矢	C						生活目標立案 大矢	①生活目標達成者15名 ②夏祭り・新年会に表彰各一名行える	D	夏祭り、新年会の中止に伴い開催できず。		
							実施									実施										
					非マシンによる自主トレーニングを提供し、リハビリテーションプログラムの拡充を図る。	大河原/大矢	計画										D				リハビリアイテム検討	リハビリアイテム導入	①リハビリアイテム(テーブルで行えるサイズのリハビリ)3種類導入	C	テーブルで行えるリハビリ、2種提供(回想療法、セラバンドコーナーの設置)3種目の設置はできず。	
							実施														実施	実施				
					デイサービスセンターの中庭を活動、休息の場として整備する。	大矢/大河原	計画			パークゴルフ場 大矢							B							①パークゴルフ場の整備、休憩できる環境の整備	C	実施する。時折外での行事に使用するも、スタッフの配置により外に出られない日が多くあった。
							実施			実施																
掲示物の更新を行い、介護予防の啓発コーナーの充実を図る。	大河原			計画		掲示物入れ替え 大河原		掲示物入れ替え 大河原		掲示物入れ替え 大河原						掲示物入れ替え 大河原					①定期的な回覧物の入れ替えができる	A	定期的な掲示物の貼り換えにより、飽きの来ない個人リハビリコーナーの継続ができています。アップテンポ体操は午後のレクリエーションの導入として定着し、午後の活気ある活動のきっかけになっている。また、すべての介護職員が実施できるようになっている。			
				実施		実施		実施		実施					実施		実施		実施							
元気の出る集団体操の継続	大矢/大河原			計画		アップテンポ体操継続 大矢															①アップテンポの体操の導入により楽しい時間を過ごしていただく(PMレク導入に使用し、活気のある午後プログラムの流れを作る) ②介護職員が実施出来る					
				実施		実施		実施		実施		実施			実施		実施		実施							

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 デイサービスはびねす [評価基準] S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容
5.6	(2)	介護予防と重度化予防	総合記録シートの導入とケアチェックを行い入院リスクの低減、中重度化に対応する。	成田/谷/藤川	計画	総合記録シートチェック体重表作成藤川													入院による休止件数 2割削減 (R1 32名 R2 26名)	B	R2入院による休止(1か月利用なし) 11名と昨年(32名)と比べると少なくなっている。新規利用や体調変化時の緊急のカンパレンスが効果を表していると思われるが、定期的な記録のチェックをさらに強化することで、入院からの休止を防ぐことが出来ると思われる。
			実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施					
			学習会(健康立ち話)の実施による利用者の健康リスクの意識啓発を行う。	谷/成田/藤川	計画	健康立ち話															職員全員(パート含む)が健康立ち話(15分程度)の運営が出来る
実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施							
			認知症予防のための学習療法の充実をはかる。	近藤/成田	計画	学習療法実施													12名の学習療法の実施 (R1 8名)	C	年間通して8名の利用と伸びがない。原因は担当者会議での、周知や勧め方に問題がある。日ごとの、対応人数にも限りがあるため、曜日ごとの調整や周知、宣伝を行うことが必要。
			実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施					
7	(2)	安心して利用できるデイサービスづくり	事故・感染症の予防を行い安心・安全なデイサービスをつくる。	藤川/井上	計画	感染症対策実施													インフルエンザ・ノロウイルス・コロナウイルス 感染0件 事故発生50%削減 (R1 24件見込み R2 12件)	S	感染0件 事故8件 事故件数が大幅に減少(30%減少) 転倒ハイルスク者の毎朝の確認が効果的であった。感染はコロナウイルスの対応もありマスク常時着用のため、インフルエンザ予防にもつながった。
			実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施						
			緊急時に迅速に対応できる様に情報の整理を行う。研修に参加し適切な対応ができるように備える。デイ会議にて、リスクの高い方のカンパレンスを行う。	藤川/井上	計画	ケースカンパレンス															会議にて困難事例の検討を行う
実施	実施	実施	実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施								
			病欠の利用者の情報の収集を行い、医療連携を迅速に行える様に相談助言を行う。	藤川/井上	計画														入院による休止件数 2割削減 (R1 32名見込み R2 26名)	B	R2入院による休止(1か月利用なし) 11名 今年度は入院休止が少なく経過したが、病欠情報の情報収集は思うようにできなかった。医療連携は病欠時に積極的に病院に看護師が連携をとり迅速に行っている。
			実施		実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施							
8	(1)	地域資源の活用	地域のボランティア団体との連携を図り、プログラムを充実させる。(レクリエーションボランティアの検討・導入)	谷/成田	計画									レクボランティア ケアアシスタント導入検討	レクボランティア ケアアシスタント導入				①ケアアシスタント導入 ②学習療法サポーターの継続	D	コロナ感染予防のため中止する。今後のコロナ禍での実施方法の検討を行う。
					実施								未実施	未実施							
9	(2)	ケアスキル 接遇マナー向上	研修・勉強会・接遇マナーに参加しケアスキル向上、接遇マナーの基本を学ぶ。	谷/成田	計画	新任職員研修 石坂・近藤	接遇マナー研修			全国老協研究会 マネジメン				認知症実践者研修 藤川	全国老協研究会	チームマネジメント 研修			基礎介護研修参加 接遇マナー研修の実施 接遇マナーに関する苦情0件 重度化への対応 (平均介護度 R1 1.47 R2 1.6)	C	接遇マナーに関する苦情0件 声かけなど、まだ不十分などあり、実際の業務現場での指示、指導が必要 平均介護度 1.64
					実施	実施	実施	未実施	未実施	未実施	未実施	実施	実施	実施	実施						

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 デイサービスはびねす [評価基準] S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容				
10	(3)/(4)	スタッフのやりがいと業務改善	業務改善を定期的に行い、無理無駄を削減する。	谷/成田	計画	ブログ掲載計画担当表 作成 谷 通所計画書整理 谷・大矢 モニタリング担当作成 成田 相談員時間確保(1日/3時間) 谷							ブログ掲載計画担当表 作成 谷 通所計画書整理 谷・大矢 モニタリング担当作成 成田 相談員時間確保(1日/3時間) 谷						オペレーションの見直しを行い、効率化を図る。業務時間内に行える業務を増加させる(環境整備、室内しつらえ、ハンドメイド準備、買い出し等)	C	極力業務中に準備行えるように取り組んだが、年度後半に人員不足になり、自宅に持ち帰り準備することが、多く見受けられた。来年度の課題。				
			実施		未実施/実施																				
			スタッフ自身も活き活きと働けるよう、長期休暇(7連休)を計画的に取得する。	谷/成田	計画																希望者全員のリフレッシュ休暇取得(パートふくむ)	A	おおむね希望通りの休暇の取得ができた。		
			実施																						
			職員懇親会を定期的に行い、チームワーク向上を図る。	谷/成田	計画	職員歓迎会							職員懇親会						年2回交流会の開催	D	コロナ感染予防のため中止する。今後のコロナ禍での実施方法の検討を行う。				
			実施			未実施																			
11	(4)	適正収益の確保	老人会内覧会の開催し新規利用者の増加、介護予防の周知を図る。	谷 大河原	計画							老人会内覧会								月間利用者数 平均27.0名以上 目標収益 64,198,000円 ※登録利用者数、定員の見直しを迅速に行う	C	平均利用者 23.9名 実績収益 66,010,143円 平均利用者の数が3.1名少ない。利用者の介護度の変化により、収入が増えた状況。コロナ禍の状況の中でも安心して利用できるデイサービスを周知し、新規利用、入院休止減少を行う必要がある。			
			実施																						
			新規パンフレット準備・作成	谷	計画	画像収集/全員									新規パンフレット導入検討	新パンフレット作成									
			実施		未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施														
			適切な利益の確保し、健全な経営ができる様にする。 (令和元年 平均利用者数 23.0名 介護報酬 59,957,000円 見込み) (令和2年 平均利用者数 27.0名 介護報酬 64,198,000円)	谷	計画	平均利用者数24.0名	平均利用者数25.0名	平均利用者数26.0名	平均利用者数27.0名	平均利用者数27.0名	平均利用者数28.0名					平均利用者数28.0名	平均利用者数28.0名	平均利用者数28.0名	平均利用者数28.0名	平均利用者数28.0名					
			実施		24.2	22.2	24.7	23.7	24.1	24.8						24.4	25.1	23.0	23.3	23.8			23.9		

令和2年度 鷹栖町介護センターさつき苑事業報告

1. 総括

令和2年度、業務体制に関しては9月より1名主任介護支援専門員が欠員補充され退職者はなく安定した活動を実施することができた。

今年度よりフレックスタイム制度の導入により、ライフスタイルに合わせた働き方の体制ができ、働きやすい良い職場づくりを整備することができた。

居宅介護支援事業所においても新型コロナウイルス感染対策予防を徹底した。

通常のケアマネジメント業務は、自宅や病院訪問前に電話やメールによる相談対応を行い、訪問時は検温、消毒、マスク交換、短時間対応を行った。サービス担当者会議や介護サービス事業所への訪問などは、個々の状況に応じた感染対策を実施した。

研修関係は、休止、延期が相次いだり、オンライン研修に切り替え参加し、新たな学ぶ手段を構築できた。地域貢献活動の出前講座は、予定通り実施され講師として活動することができた。

適正利益確保目標人数平均145名としていたが、実施エリアを春光・春光台へ広げ、要支援者の受け入れ人数を増加させたことで平均165名の登録となり、目標より20名増と大幅に受け入れ目標達成できた。

利用者動向を前年度と比較すると、新規89名(+19名)入院者191名(+60名)停止者41名(±0名)で、新規が増加し、停止者が少なく安定した事業所運営を実施できた。

課題は登録人数増加により申請、連携などの細かな調整ミスや書類遅延がありチェック体制が不十分であった。

2. 次年度に向けた展望

次年度は介護報酬改定に伴い感染対策、災害、ハラスメント対策など事業所運営に関する事項について法律に基づき実施したい。また、急激な登録人数増加により事業所内の業務の統一化や業務管理の仕組みづくり、ケアマネジャー間のチームワークの強化が求められている。引き続き利用者や家族に最善のケアマネジメントが提供できるように、より効果的・効率的な仕事の手段や方法を考え、ケアマネジャーひとりひとりが行動し、成果を上げられるよう活動する。

また地域包括支援センターとの連携を強化、居宅、小規模多機能、サ高住、入居施設など全体の動向を把握し、ひとりでも多くの方が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう総合相談窓口としての役割を担えるよう努める。

3. 運営状況・統計資料

(1) 収益

<事業収入>

(単位：千円)

目標介護保険収入 (A)	実際介護保険収入 (B)	達成率 (B) / (A) ×100	前年度 介護保険収入 (C)	伸長率 (B) / (C) ×100
21,736,000	24,771,530	114.0%	20,699,680	119.7%

(2) 居宅サービス利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成12年度	67	77	78	75	77	80	74	82	81	76	78	82	77
平成13年度	78	82	79	87	87	89	88	98	93	92	103	107	90
平成14年度	104	108	106	110	110	116	109	108	102	98	100	107	107
平成15年度	109	110	114	115	118	117	119	121	116	121	125	126	118
平成16年度	142	142	143	145	143	145	148	146	145	148	151	154	146
平成17年度	158	151	155	158	156	155	156	156	157	152	148	145	154
平成18年度	147	143	141	140	135	128	129	129	124	123	113	115	130
平成19年度	114	116	113	104	106	105	106	104	101	104	106	109	107
平成20年度	114	114	112	114	111	105	113	113	113	112	112	113	112
平成21年度	110	96	92	88	89	90	91	86	87	88	92	94	92
平成22年度	96	92	94	97	99	97	101	96	99	88	91	94	95
平成23年度	91	92	99	100	107	104	107	105	104	101	102	107	102
平成24年度	110	113	113	113	116	110	109	118	112	113	110	115	112
平成25年度	115	118	119	114	117	118	118	123	119	115	112	119	117
平成26年度	113	116	116	115	120	116	123	120	118	125	124	120	118
平成27年度	122	120	120	121	123	118	116	116	114	108	117	122	118
平成28年度	126	121	121	123	122	123	123	124	127	127	126	125	124
平成29年度	132	139	139	140	137	135	138	141	141	141	132	128	136
平成30年度	128	130	130	128	132	132	130	129	132	127	126	118	128
平成31年度	128	132	137	142	141	141	142	141	141	139	138	134	138
令和2年度	148	152	163	161	170	180	178	172	171	177	184	181	169

(3) 上記利用者の要介護度分布

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
要支援1	6	8	8	7	9	11	11	13	10	14	13	18	28
要支援2	17	13	13	12	12	11	9	9	11	15	18	19	27
要介護1	25	32	36	42	45	52	57	43	48	53	55	57	59
要介護2	34	23	19	19	24	23	22	32	32	25	22	22	32
要介護3	17	9	10	10	9	10	10	5	7	8	9	7	9
要介護4	8	3	6	9	9	9	7	6	8	7	5	6	8
要介護5	7	5	3	3	3	6	9	8	7	6	9	6	5

※人数は、各年度の平均人数

(4) 苑内・苑外研修参加状況

① 苑内研修

月 日	内 容	講師等	参加者
9月11日	新任職員研修	各関係者	1名
9月21日	基礎介護研修トランスファー	大矢・大河原PT	5名
10月15日	基礎介護研修 食事ケア・中級	谷課長	5名
10月19日	ネクストリーダー研修	施設長	1名
10月27日	感染対策研修	藤川看護師	5名
11月12日	基礎介護研修排泄ケア	森課長補佐	2名
2月13日	基礎介護研修排泄ケア	森課長補佐	1名
3月29日	外国人スタッフの基本的な理解について	施設長・尾上部長	5名

② 苑外研修

月 日	内 容	主催	参加者
8月11日	ネクストリーダー研修	高齢者ケア研究会 泉田 照雄先生	1名
9月7日	主任介護支援専門員実践報告会	旭川市11圏域地域 包括支援センター	2名
9月8日	居宅介護支援合同事例検討会	誠徳園 居宅介護支援事業所	4名
3月6～7日	第11回全国先端ケア研究会 in 北海道旭川	高齢者ケア研究会	3名
3月22日	アンガーマネジメント研修	高齢者ケア研修会	1名

(5) ケアマネ会議内容

月 日	内 容
4月14日	1 ケース 情報共有
4月21日	2 ケース 情報共有 その他フレックスタイム導入検討
4月28日	情報共有 利用者動向 入院者の進捗状況
5月12日	6 ケース 情報共有
5月19日	1 ケース カンファレンス
5月26日	2 ケース情報共有 利用者動向 入院者の進捗状況
6月2日	1 ケース情報共有
6月9日	1 ケース 情報共有 業績報告 活動計画進捗状況
6月12日	ぬくもりの家たかほ情報共有
6月16日	6 ケース 情報共有
6月23日	2 ケース 情報共有 業績報告
7月7日	コロナ感染対策研修
7月14日	8 ケース 情報共有
7月21日	8 ケース情報共有
7月28日	1 ケース情報共有 業績報告
8月11日	2 ケース情報共有
8月18日	2 ケース情報共有 活動
8月25日	3 ケース情報共有 他事業所合同研修の周知
9月1日	11 ケース情報共有
9月8日	カンファレンス
9月15日	1 ケース情報共有
9月22日	12 ケース情報共有
9月29日	9 ケース情報共有
10月6日	7 ケース情報共有
10月13日	1 ケースカンファレンス
10月20日	10 ケースカンファレンス
10月27日	業務の仕組み変更
11月3日	活動計画の報告 10 ケースカンファレンス
11月10日	1 ケースカンファレンス
11月17日	11 名情報共有
11月24日	4 件情報共有
12月1日	5 件情報共有 請求業務の統一
12月8日	4 件情報共有
12月15日	9 件情報共有 1 件カンファレンス
12月22日	業績報告 カンファレンス
1月12日	入退院支援についてコロナ感染対策検討
1月19日	9 件情報共有 活動計画
1月26日	6 件情報共有 利用者動向 業績管理
2月2日	14 件情報共有
2月9日	11 件情報共有 居宅サービスガイドラインについて
2月16日	8 件情報共有
2月22日	14 件情報共有 利用者動向

3月2日	8件 情報共有
3月12日	14件情報共有
3月16日	8件情報共有
3月22日	4件情報共有
3月30日	5件情報共有

(6) 出前講座

月 日	内 容	講 師
12月17日	認知症サポーターキャラバンメイト養成講座	坂 林
2月18日	鷹栖町介護に関する入門的研修	佐 藤

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 介護センターさつき苑

(評価基準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容										
					計画	実施人数	計画	実施人数	計画	実施人数		計画	実施人数	計画	実施人数	計画	実施人数				計画	実施人数	計画	実施人数						
1	(1)	利用者の課題に対し具体的なケアの方針がたえられるように、在宅版トータルケアシートの活用と多職種連携を強化	①在宅版トータルケアシート導入とケアチェック強化(ケアマネー1人4ケースを目標)	坂林 佐藤	計画														平均4ケース実施	C	在宅版トータルケアシートの導入においては、1人平均4ケースの達成に至らなかった。ケアチェックの強化についてはサービス事業者間での状況把握や課題の共有に役立てることができている。									
					実施	佐々木 2 坂林 5 佐藤 2 山本 3 佐藤 5	佐々木 1 坂林 4 佐藤 3 山本 3 佐藤 5	佐々木 1 坂林 4 佐藤 3 山本 4 佐藤 5	佐々木 1 坂林 4 佐藤 3 山本 4 佐藤 5	佐々木 2 坂林 4 佐藤 3 山本 4 佐藤 5	佐々木 3 坂林 4 佐藤 3 山本 4 佐藤 5	佐々木 3 坂林 2 佐藤 2 山本 4 佐藤 5	佐々木 3 坂林 2 佐藤 2 山本 4 佐藤 5	佐々木 3 坂林 2 佐藤 1 山本 4 佐藤 5	佐々木 3 坂林 2 佐藤 1 山本 4 佐藤 5	佐々木 3 坂林 2 佐藤 1 山本 3 佐藤 5	佐々木 3 坂林 2 佐藤 1 山本 3 佐藤 5													
					計画																				CM会議にて1人1事例の要因分析を実施	A	CM会議で1事例を上げていくことについては、月ごとに予め担当を決めることにより概ね実施できており、要因分析にもつながっている。			
					実施	佐々木 坂林 佐藤 山本 佐藤 河田																								
					計画	随時実施																						1人1ケースを確実に実施	B	年度を通して、新型コロナウイルスの感染拡大・蔓延により、積極的な外出支援が実施できなかった。
					実施	社会情勢により見合わせ	山本(清水様と畑)	山本(清水様と畑)	山本(清水様と畑)	社会情勢により見合わせ																				
2	(2)	病院別連携方法マニュアルを作成し入退院支援・医療連携を強化	①病院別の連携ポイントについてのマニュアルを作成 ②医療連携研修の参加	佐藤 佐々木	計画	書式検討 マニュアル作成												①マニュアルを作成し活用 ②一人1回以上研修に参加	①B ②D	①病院別のマニュアルは作成できた。 ②医療連携の研修については、コロナ禍で受講ができなかった。										
					実施	作成中	作成中	作成済	未実施																					
3	(3)	専門的知識と技術の向上	①法人内研修(基礎介護力向上・マネー接遇研修等)に参加して、知識・技術を取得。 ②ア地域ケア会議・イ法人内で地域ケアマネジメント会議にて積極的にケアマネージャーが事例提供を実施。 ③外部研修を受講し最新の知識・技術を取得。 ④介護支援専門員法令研修の受講と年2回自己点検用紙にて自己点検を実施。 ⑤ケアマネージャーの接遇及びケアマネジメントの満足度を把握する為、満足度調査を実施。 ⑥職員面談の実施 ⑦サービス向上発表の実施	佐藤 坂林	計画					ネットリーダー研修	セルフマネジメント研修 トランスフォー								①マニュアルを作成し活用 ②一人1回以上研修に参加	B	法人内研修は計画通りに参加でき、基本的な知識・技術を確認し習得できた。									
					実施					山本	トランスフォー 全員参加																			
					計画	翌月 事例提供者の選定	アイ	アイ	アイ	アイ	アイ	アイ									月一1件以上の事例提供の実施	C	会議が中止となることもあり、一人1件以上の事例提供はできなかった。							
					実施	アイ イ会議なし	アイ イ会議なし	アイ イ会議なし																						
					計画	外部研修 受講															外部研修を1人2研修受け、知識技術の習得ができる	C	研修を受けた人と受けていない人の 隔りが出た。コロナ禍で研修が 減っているが、今後オンライン 研修を活用していく。							
					実施																									
					計画																	法定研修の参加と、自己点検シート で自己評価し、専門職としての振り返りができる	B	法定研修は受講済み、主任ケアマネ の研修は自己都合で受講できな かった。						
					実施																									
					計画																	計画通りに実施できている。	B	満足度調査を実施し、集計・情報を 踏まえ、次年度の計画に活かす						
					実施																									
					計画																	面談を実施	C	年2回の面談はできなかったが、必要に 応じて実施。						
					実施																									
計画																	サービス向上発表会が延期となっ ているが、発表に向けての準備はでき ている。(発表者:山本正広)	B	②及び③については計画通り実施 できた。											
実施																														
4	(4)	地域への貢献	①ヘルスリテラシー講座等地域住民に対する貢献活動を実施 ②認知症サポーターキャラバンイベント活動の実施 ③その他依頼ある講座について実施	山本 坂林	計画													講座を4回以上計画通りに実施	B											
					実施																									

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 介護センターさつき苑

(評価基準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容	
					計画	実施	計画	実施	計画	実施		計画	実施	計画	実施	計画	実施				計画
5	(5)	マネジメント管理及び事業所運営管理を円滑に実施	①担当人数の把握・新規相談の初期対応の指導強化 ②サービス付き高齢者住宅 たかほケアマネジメント管理 ③請求業務・帳票整理・事業報告作成・予算管理・事業計画策定会議・活動計画実施状況管理	佐々木	計画	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	B	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	インテーク6件	・各ケアマネ年間12名以上インテークのマネジメントを実施	B	年間12名のインテークは山本正広ケアマネが実施できた。
					実施	坂林2 佐藤2 山本2	坂林0 佐藤1 山本1	坂林2 佐藤0 山本1	坂林2 佐藤2 山本1	坂林2 佐藤0 山本1	坂林1 佐藤1 山本正1 山本裕2		山本正2 山本裕1	佐藤2	坂林2 山本裕1 山本正1	佐藤4 坂林4 山本正1 山本裕1	佐藤1 山本正3	坂林2 山本正2 山本裕1			
					計画	4/1 たかほ管理	5月1日	6月1日	7月1日	8月3日	9月1日	B	10月1日	11月2日	12月1日	1月4日	2月1日	3月1日	・たかほケアマネジメントについて管理できる	C	介護支援専門員証の更新システムチェックなど管理不足 次年度はチェックできるように運営体制を整え管理予定
					実施	4/2 実施済	5/8 実施済	6/1 実施済	7/1 実施済	8/3 実施済	9/9 実施済		10/14 実施済	11/18 実施済	12/9 実施済	1/11 実施済	2/10 実施済	3/10 実施済			
					計画	請求佐藤 事業報告 活動計画	請求坂林 活動計画	請求佐藤 活動計画	請求坂林 活動計画	請求山本 活動計画	請求山本 活動計画	B	請求坂林 活動計画	請求佐藤 活動計画	請求山本 活動計画	請求坂林 事業報告作成 次年度予算 活動計画	請求佐藤 事業報告作成 次年度予算 活動計画	請求山本 事業報告作成 次年度予算 活動計画	・事業所の業務を計画的に実施できる	A	請求・提供表などマニュアルを作成 できたい
					実施	請求 佐藤実施済	請求 坂林実施済	請求 佐藤実施済	請求 坂林・山本 実施済	請求 佐藤・山本 実施済	請求 山本正 実施済		請求 山本・坂林 実施済	請求 山本・佐藤 実施済	実施済	実施済	実施済	実施済			
6	(6)	適正利益の確保とリフレッシュ休暇の推進	①目標利用者人数(初期140名→期中145名→期末150名・年間平均利用者数145名) ②目標収益:22,705(千円)(前年度当初予算21,737千円) ③目標に対する実績確認及び分析 ④集中減算資料を年2回(3月～8月・9月～2月)作成する ⑤全職員がリフレッシュ休暇を取得できるように業務管理を行う ⑥新規利用者確保の営業活動を実施(8月 1月の2回) ⑦新規者人数(1ヶ月6名を目標 年間72名以上) ⑧停止者人数(1ヶ月4名以下を目標 年間48名以下)	佐々木	計画	初期141名	141	143	144	145	145	A	147	147	147	148	149	期末150名	平均目標145名を達成	A	平均165名を達成できた。
					実施	148名	152名	163名	159名	167名	174名		174名	172名	171名	177名	184名	181名			
					計画	1892	3784	5676	7568	9460	11,353	A	13,245	15,137	17,029	18,921	20,813	22,705	・目標収益を達成	B	目標を達成することができた。
					実施	介護1,589 支援196 計1,785	介護1,652 支援198 計1,793	介護1,722 支援224 計1,946	介護1,688 支援221 計1,909	介護1,753 支援227 計1,980	介護1,990 支援232 計2,222		介護1,860 支援221 計2,081	介護1,860 支援221 計2,081	介護1,860 支援221 計2,081	介護1,827 支援253 計2,080	介護1,776 支援292 計2,068	介護1,776 支援292 計2,068			
					計画	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	B	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	未達成時 営業活動	・目標を達成するために新規利用者 動向を分析	B	今年度は最高の登録人数となった、 次年度は要介護の登録人数増
					実施	実施済	達成	達成	達成	達成	達成		達成	達成	達成	達成	達成	達成			
					計画						集中減算 作成	B						集中減算 作成	・2回集中減算資料を作成し提出	B	予定通り実施済み
					実施						実施							実施			
					計画				佐藤(恭)	佐々木	B	坂林	佐藤(晴)		山本(正)	・全員が取得	C	佐藤(晴)ケアマネ・山本(正)ケア マネが取得できなかった。次年度計画的 に取得を促進する。			
					実施				佐藤(恭)	佐々木		坂林	延期		未取得						
					計画					病院 老健	D			病院 老健	・営業先からの紹介件数5件	D	コロナにより思うように営業活動が できなかった。次年度は全体の状況を 把握しながら、				
					実施					コロナにて 自粛				コロナにて 自粛							
計画	目標6件	目標6件 計12件	目標6件 計18	目標6件 計24	目標6件 計30	目標6件 計36	B	目標6件 計42	目標6件 計48	目標6件 計54	目標6件 計60	目標6件 計66	目標6件 計72	・年間目標72件を達成	A	トータル89名であり、目標を達成す ることができた。					
実施	9名	6名 計15名	8名 計23名	7名 計30名	8名 計38名	13名 計51名		4名 計55名	4名 計59名	5名 計64名	14名 計78名	6名 計84名	5名 計89名								
計画	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	B	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	目標 4件以下	・年間目標48件以下を達成 合計41名	A	トータル41名であり、目標を達成す ることができた。					
実施	2名	5名 未達成	2名	3名	2名	3名		3名	4名	5名	5名	2名	5名								

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 介護センターさつき苑

(評価基準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容					
					計画	実施	計画	実施	計画	実施		計画	実施	計画	実施	計画	実施				計画	実施	計画	実施	
7	(7)	特定事業所加算Ⅱの算定要件を確実に実施し適正利益を確保	①利用者に関する情報またはサービス提供に当たった際の留意事項に係る伝達等を目的とした会議を週1回以上開催(ケアマネ会議 毎週火曜日 13:30~)	佐々木	計画	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	B	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	会議実施記録作成	・会議を毎週実施する	A	計画通り実施、業務効率化の観点から書式の見直し、会議方法等の改善が図れた。				
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施					
					計画	連絡体制作成	実績確認	実績確認	実績確認	実績確認	実績確認	実績確認	D	実績確認	実績確認	実績確認	実績確認	実績確認	実績確認	実績確認	実績確認	・連絡体制の作成・更新	C	携帯電話、緊急連絡先一覧を作成できた。	
					実施	未実施				ラインワークス															
					計画	1人当たり39名以下								→	B	1人当たり39名以下						→		A	・39名以下であることを確認
					実施	佐々木27 坂林36 佐藤恭36 山本31 佐藤晴9 河田予防57	佐々木27 坂林36 佐藤恭36 山本31 佐藤晴9 河田予防58	佐々木27 坂林36 佐藤恭36 山本31 佐藤晴9 河田予防59	佐々木27 坂林36 佐藤恭36 山本31 佐藤晴9 河田予防60	佐々木27 坂林36 佐藤恭35 山本30 佐藤晴9 河田予防60	佐々木25 坂林28 佐藤恭31 山本正28 山本裕29 佐藤晴9 河田予防42	佐々木25 坂林28 佐藤恭31 山本正28 山本裕29 佐藤晴9 河田予防42	佐々木25 坂林28 佐藤恭31 山本正28 山本裕29 佐藤晴9 河田予防42	佐々木25 坂林28 佐藤恭31 山本正28 山本裕29 佐藤晴9 河田予防42	・39名以下であることを確認	A	39名以下であることを確認できた。								
					計画	研修目標設定			進捗状況把握			進捗状況把握	C						進捗状況把握			達成状況記録	・目標を持って仕事を実施できる	C	コロナにより計画的な研修が実施できなかった。
					実施	目標設定済み				未実施			未実施						実施済						
					計画	体制フローチャート更新	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	C	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	地域ケア会議	・体制整備にて実施状況を管理できる	C	計画通り地域ケア会議には参加したがマニュアル整備にまで着手できなかった。
					実施	会議実施	会議実施	会議実施	会議実施																
					計画								D							実習受け入れ			・実習受け入れを実施できる ※主任介護支援専門員更新研修の要件	D	今年度は依頼がなかった。
					実施															なし					
計画	誠徳園訪問		事例検討会参加					C	事例検討会参加						事例検討会参加			・他法人の居宅介護支援事業所と事例検討会を3回実施できる	C	1回実施できたが、コロナにより1回中止となった。					
実施	コロナ終息後		未実施					10/7に延期							コロナ対策で中止										
計画	書類作成回覧	書類作成回覧	書類作成回覧	書類作成回覧	書類作成回覧	書類作成回覧	書類作成回覧	D	書類作成回覧	・事業所加算Ⅱの要件を毎月確認できる	D	法律上で必要ない書式ではあるがチェックしやすいかと計画に入れた。着手できなかった。													
実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施								
8	(8)	事業所の災害対策の体制を構築	①緊急時・利用者台帳・地図の更新	山本坂林	計画		(台帳更新)				台帳・地図更新	A						台帳・地図更新	・2回/年情報を更新できる	A	計画通り実施できた。				
					実施			実施			実施					実施		実施							

令和2年度 多機能型グループホーム鷹栖なごみの家事業報告

1. 総括

令和2年度は『知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づく介護サービスの提供』『主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める』『職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる』『業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益の確保』の4つの重点目標をかかげ取り組んだ。

1) 「知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づく介護サービスの提供」

毎月カンファレンスを実施しケアの見直しと統一を図ると共に、困難ケースにおいても状態悪化の予防に努めた。事故件数については、前年度より9件増。事故後の分析や再発防止に努めたが減少には至らず。

食事については、嚥下や咀嚼が困難な方へソフト食の提供、病状や状態に合わせて栄養補助食品との併用、副食の一部をソフト食で提供するなど、食事摂取量の維持に努めた。また、状態悪化により食事量が急激に減少した方がソフト食を提示したことで摂取量が安定し、結果、状態悪化を抑え徐々に常食に戻すことができ改めて口から食べることの重要性を確信できた。

疾病の管理では、入居者の重度化にともない早めに医療機関へ相談したことで、昨年度延べ9名だった入院者が今年度3名に減少。入院日数も74日から67日と減らすことができた。

感染症対応では、特に新型コロナウイルス感染予防の強化に努めた。卓上シールド・自動手指消毒器の設置、非接触型体温計の使用、手すりドアノブ等の消毒や感染状況に合わせて面会中止、面会制限（玄関での面会・窓越し面会）を実施した。全職員が防護服着脱の実技訓練を行ったが想像以上に難しく繰り返しの訓練の必要性を感じた。また、個々の私生活においても感染予防対策の徹底と強化に努めた。結果、感染症・集団感染共にゼロを維持することができた。

2) 「主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める」

各担当利用者のADL（日常生活動作）とQOL（生活の質）の向上を図るため、介護過程の展開（アセスメント、計画、実施、評価）の取り組みを掲げていたが、全職員の実践には至らなかった。

3) 「職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる」

継続し面談制度を実施したが、体調の悪化で1名の離職があった。有給休暇取得については、日数にばらつきはあったも全職員が5日以上の有給取得と常勤職員全員が連続休暇（7日間）を取得することで、リフレッシュを図ることができた。また、Hug（移乗サポートロボット）の導入は、小柄の職員や懐妊中の職員も無理なく移乗ができ介護負担の軽減に大きく繋がった。

4) 「業務の効率化と適正利益の確保」

ケアアシスタントの導入に伴いオペレーションシートや従来のマニュアルの見直したことで、業務分担を具体的かつ明確にすることにより業務の効率化を図った。

適正利益の確保については、入院に伴う空床延べ日数が67日と目標の50日に抑えることはできなかった。退居から新規入居までの空床延べ日数については30日。目標の7日以内の入居には至らなかったが、少しでも迅速な入居に繋げることができるよう小規模多機能ホームと連携を図った。年間平均稼働率は、98.5%と目標稼働率の98%を達成することができた。

2. 次年度に向けての展望

令和3年度は、引き続き「知識・技術の専門性の向上を図り、安全で根拠に基づく介護サービスを提供する」「主体性をもって介護過程を展開し利用者の満足度を高める」「職員のチームワークが向上し、やりがいと働きがいのある職場をつくる」「業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する」の4つを重点目標にかかげ、確実に実施できるようより具体的な計画を立て取り組む。

ケアについては、特変を早期に発見できるようダブルチェック、カンファレンスを更に強化し入居者の重度化にしっかり対応できる力をつける。また、楽しみや喜びのあるアクティビティーを計画・実施しQOLの向上に努める。

シルエット見守りセンサを導入することで、夜勤時の介護負担と不安の解消を図りたい。導入に向けてはユニット異動、人員配置の見直しが必要なため小規模多機能ホームと連携し計画的に実施する。また、ICT・IOT化の推進をすることで職員の業務負担軽減と更なる業務の効率化を図る。

新型コロナウイルスワクチン予防接種を推進し、基本的な感染予防を徹底することで対面での面会や外出、行事の再開など以前の暮らしに少しでも近づくことで入居者の更なるQOLの向上を図る。

新たな加算を取得し、LIFEとの情報連携を推進することでケアの質向上を目指す。入院延べ日数60日、目標稼働率98%を達成し適正利益の確保を図る。

3. 運営状況・統計資料

(1) 稼働状況

目標ベッド稼働率(A)	実際ベッド稼働率(B)	達成率 (B) / (A) × 100	前年度ベッド稼働率(C)
98.0%	98.5%	100.5%	98.3%

(2) グループホーム会議開催状況

日 時	議 題 内 容
4月21日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・R2年度事業計画・事業報告について・給食関係・その他
5月19日	新型コロナウイルス流行に伴い書面で対応 (ケアカンファレンス・事故報告・その他)
6月16日	新型コロナウイルス流行に伴い書面で対応 (ケアカンファレンス・事故報告・その他)
7月21日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・その他
8月17日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・その他
9月15日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係 その他
10月20日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係 その他
11月17日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係 キックオフミーティング
12月15日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・行事・給食関係 その他
1月19日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・その他
2月16日	荒天に伴い書面で対応 (ケアカンファレンス・事故報告・その他)
3月17日	ケアカンファレンス・身体拘束廃止委員会・事故報告・給食関係・その他

(3) 環境整備他

日 時	内 容	ユニット	業 者
5月上旬	卓上シールド (コロナウイルス感染予防)	全体	職員手作り
6月中旬	給湯器取替工事	洋	大洋設備 (株)
6月中旬	台所流し台混合栓取替	洋	(株) 斉藤工業所
7月下旬	マジックブレット	和・洋	(株) ヤマダ電機

7月下旬	居室洗面台排水管修理	和	(株) 齋藤工業所
8月中旬	ホシザキ冷凍庫保守点検	全体	ホシザキ北海道(株)
8月中旬	浴室床タイル目地詰め修繕	全体	(株) 盛永組
8月下旬	卓上シールド (コロナウイルス感染予防)	交流スペース	(株) テラニシ
8月下旬	非接触式温度計 (コロナウイルス感染予防)	全体	楽天市場
8月下旬	自動手指消毒器 (コロナウイルス感染予防)	全体	楽天市場
8月下旬	定量止水付サーモスタットバス水栓修理	洋・イス浴	(株) 齋藤工業所
9月上旬	床フローア補修等工事	全体	(株) 盛永組
9月下旬	床洗浄ワックス塗布	全体	旭川ヒューマンサービスセンター
9月下旬	冷蔵庫購入	和	(株) ヤマダ電機
10月下旬	加湿器購入	和	(株) ヤマダ電機
1月下旬	感染症廃棄物容器スタンド	全体	(株)アンビエンテ丸大
2月上旬	灯油配管閉塞修理	全体	大洋設備 (株)
2月上旬	照明器具購入	和	(株) ヤマダ電機
2月中旬	非常用電池取替	全体	五光トータル防災 (株)
2月中旬	自動洗浄装置取替	洋	(株) 齋藤工業所
3月上旬	食洗機修理 (ハンドル交換)	洋	パナソニック LSテクノサービス
3月中旬	電動ベッド手元スイッチ購入	和	合同会社セカンドライフ
3月下旬	居室洗面台排水管修理	和	(株) 齋藤工業所

(4) ボランティア状況

新型コロナウイルス感染予防のため外部ボランティア受入を原則中止。

感染状況を把握した上で秋の一斉清掃 (草取り) のみボランティア依頼。

(5) 行事活動状況

日 時	行 事 名	場 所
5月9日	お花見ドライブ	パレットヒルズ
8月1日	夕涼み会	なごみの家
11月24日	クリスマス会	なごみの家
12月24日	クリスマス会	なごみの家
12月26日	忘年会	なごみの家
2月3日	節分	なごみの家

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 多機能型グループホーム鷹栖なごみの家

準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容				
1	(1)	安全で根拠に基づくサービスの提供	ケアチェック、根拠に基づきカンファレンスを実施し、中重度化に対応したケアを提供する	主任 リーダー	計画	Wチェック モニタリング カンファレンス							Wチェック モニタリング カンファレンス						ケア困難ケースにおいて随時ケースカンファレンスをし本人の状態を維持する。	B	会議以外でも、都度困難事例のカンファレンスを行い、状態悪化の予防に努めた。			
			アセスメントシートの定期更新(ケアプラン更新時)	主任 リーダー	計画	ケアプラン更新 新アセスメントシート更新								ケアプラン更新 新アセスメントシート更新						アセスメントシートの定期更新を実施する。	B	ケアプラン更新時にアセスメントシートの更新を実施。		
			安全で予防的なケアに努め、事故及び事故の再発を防ぐ	主任 リーダー	計画	毎月の会議での事故報告・分析								救命救急研修							転倒、転落事故 11件→5件 打撲 1件→0件 (事故件数R1年15件→R2年10件)	C	事故件数35件(昨年26件) 転倒転落事故21件(昨年15件) 打撲0件(昨年1件) 無断外出4件(昨年0件) 業に関する事故3件(昨年8件) その他7件(昨年2件) <表皮剥離1件・内出血4件・爪切り2件>	
			身体拘束及び虐待防止の取り組みを継続して行う(年2回研修実施)	リーダー	計画					虐待予防研修	ターミナルケア研修									虐待予防研修		年2回研修を実施する。 身体拘束・虐待0件。	B	7月・12月に研修を実施。 身体拘束・虐待0件
2	(1)	安全で美味しい食事の提供	より見た目もきれいで美味しいソフト食の提供	リーダー 栄養士	計画	ソフト食の提供						ソフト食の見直し	ソフト食の提供					ソフト食の評価		嚥下困難な方が安全に食事(口腔摂取)ができる。	B	統一した固さのソフト食を出せるよう努めている。限られた時間の中で見た目もきれいに作れるよう配慮している。入居者の状況に合わせて副食の一部をソフト食で提示し食事量の維持に努めた。		
			現病の悪化、既往症の再発予防するための治療食の充実化	リーダー 栄養士	計画	治療食提供								治療食提供						治療食評価		現病の悪化、既往症の再発予防する。	B	必要な方に治療食を提示し、現病の悪化、既往症の再発予防に努めた。現病の悪化、既往症の再発0名。
3	(1)	疾病の管理と医療的ケアの充実	ケアチェックを強化し病気の早期発見及び重症化や再発を防ぐ	主任 リーダー 看護師	計画	体調不良者・入院者の分析				健康診断		診断結果の分析(昨年との比較)							体調不良者・入院者の分析		病気の発症を防ぎ重症化や再発をさせない。 (入院延べ日数日R1年74日→R2年50日)	C	誤嚥性肺炎による入院1名(IVH治療を選択され退去) 骨折による入院1名	
			誤嚥性肺炎による入院者0名	主任 リーダー 看護師	計画	食事チェック 口腔ケアの徹底								食事チェック 口腔ケアの徹底									誤嚥性肺炎による入院者0名 (R1年1名→R2年0名)	C
4	(1)	食中毒・感染症の予防	食中毒、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、コロナウイルス)の予防策を徹底と免疫力の向上を図り感染を防ぐ	主任 リーダー	計画	ヨーグルト提供															食中毒、感染症の集団感染0件	B	食中毒、感染症の集団感染0件	
5	(2)	基礎介護力の向上	法人全体で段階ごとの基礎介護研修と外部研修の計画・実施で、より実践的な知識、技術を身につけ専門性の向上を図る	主任 リーダー	計画			新任職員研修	基礎介護研修	基礎介護(トランスファー)		基礎介護研修 認知症実践 リーダー研修	基礎介護研修 認知症実践 リーダー研修		基礎介護研修	基礎介護研修 高齢者ケア研究 完全参加						経験・スキルに合わせた研修の実施により職員のケアのレベルアップができる。 外部研修に参加しケアの向上を図る。(職場に1つ以上還元する。)	B	コロナ感染予防のため外部研修は中止。基礎介護力向上研修については感染状況に応じて実施となった。テキストの見直しもあり職員のケアのレベルアップに繋がった。
								中止	済	済	B	基礎介護力向上研修 認知症実践 リーダー研修 研修中止	基礎介護力向上研修 認知症実践 リーダー研修 研修中止		中止	基礎介護力向上研修(11月分) 高齢者ケア研究 完全参加								
6	(3)	心身機能の維持向上を図る暮らしの充実	利用者の課題を分析し、計画の立案、目標に向けたケアの展開とリハビリの実施によりQOL及びADLの向上を目指す	リーダー 各担当	計画				アセスメント(情報収集・課題分析)実施・ケアプラン立案	ケアプランに 基づくケアの実施		モニタリングと ケアプラン見直し	ケアプラン評価						モニタリングと ケアプラン見直し		ケアプラン評価 確認(面談)	全職員が、担当利用者のADLとQOLそれぞれの向上を目指したプランを立て、取り組み、成果をふりかえる。	C	全職員が計画するには至っておらず。
7	(4)	開かれた事業所づくり	利用者、職員が地域社会の一員として豊かに暮らせるよう積極的に地域行事に参加する	課長 主任	計画	チャレンジ デー参加				慰霊祭 町民祭り											地域の催しに積極的に参加し、天気のよい日は散歩を日常のプログラムに取り組み。地域の方になごみの家を知っていただく。	B	コロナ感染予防のため、地域の催しへの参加は中止。 日常の散歩は実施。	
			交流スペースを地域の方に開放する	課長 主任	計画	寺子屋 俳句の会																	地域の方に開放することによりなごみの家の認知度を高める。	D

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 多機能型グループホーム鷹栖なごみの家

準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	取り組み事項	取り組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容		
8	(3)	働きやすい職場づくり	不安を取り除き、上司・部下が心を通い合わせるために、職員面談を実施する退職者を減らし、安定した運営に取り組む(退職者0を目指す)	主任 リーダー	計画	退職者0		面談の実施					退職者0	面談の実施					面接を実施することで不安や悩みを軽減・解消する。	C	面談を行う事で不安や悩みの軽減・解消に努めていたが体調の悪化で退職者が出てしまった。		
			実施			面談実施			B		面談実施	退職者1名											
			課長 主任	計画	連続有給休暇 調整										連続有給休暇 取得						1人7日間の連続休暇を計画的に取得し、リフレッシュを図る。(必ず有給を3日つける) 有給休暇は、年間5日以上とする。	B	リフレッシュ休暇(7日)、5日以上の有給消化(対象者)は計画通り取得できた。
			介護負担の軽減と業務の効率化を図るため、介護ロボットの導入とICT、IOT化の検証	課長 主任	計画		介護ロボット 導入						介護ロボット 導入						介護ロボットの導入とICT、IOT化をすすめ、介護負担の軽減と業務の効率化を図る。	A	介護ロボット(Hug)については予想以上に介護負担の軽減と業務の効率化が図れた。		
			実施		未								C		介護ロボット Hug導入								
9	(3)	チームワークの向上	週目標を継続し、具体的な目標を意識して思いを一つにする	主任 リーダー	計画		毎日の引継ぎで 目標を共有する							毎日の引継ぎで 目標を共有する						思いを一つにすることで、チームワークの強化を図る。	B	持ち回りで1週間の目標を立て、目標を現場と照らし合わせチームワークの強化が図れた。	
			実施		済								B	済									
			主任 リーダー	計画	取り組み内容 決定	取組み									取組み		取り組みの まとめ	サービス向上 発表会 参加		一つのテーマにチームで取り組み成果を出す。	B	コロナ禍のなか出来る範囲でチームで決めた目標に取り組み、取り組んだ日々のケアをサービス向上発表会で発表する事が出来た。	
			業務の見直しを行い業務分担を明確にする	主任 リーダー	計画			業務整理	業務見直し											業務を見直し、業務分担を明確にすることにより、業務の効率を図る。	B	オペレーションシートの見直し、業務分担表等、会議内で検討し都度変更を行っている。	
			実施		済								B										
10	(5)	業務の効率化	従来のマニュアルの見直しと整理	主任 リーダー	計画																従来のマニュアルの見直しと整理	B	ケアアシスタント導入に伴い、清掃マニュアルの見直しを実施。
			実施											B									
			主任 リーダー	計画	ケアアシスタ ント導入										ケアアシスタ ント導入						ケアアシスタントを導入し業務の効率化を図る。	S	ケアアシスタントを導入したことで業務の効率化が図れた。
11	(5)	適正利益の確保	ケアの質向上により入院者数の減少、入退居時の迅速な手続きを行い、目標稼働率98%を達成する	主任 リーダー	計画	稼働率 98%								稼働率 98%						長期入院者を出さない。(入院延べ日数50日) 入退居時の迅速な手続き(7日以内)	C	今年度稼働率 平均98.5% 今年度入院延べ日数 67日(昨年74日)	
			実施	94.4%	98.2%	100.0%	100.0%	95.2%	100.0%		100.0%	100.0%	97.5%	100.0%	100.0%	100.0%							
			主任 リーダー	計画		節約運動 強化月間									節約運動 強化月間						光熱使用量を前年度より3%削減する。	B	電気代: 約2%の削減 灯油代: 単価低下により、約13%の削減 ガス代: 約1.1%の削減 上下水道料: 約1.8%の増
			光熱費に対するコスト意識を高め、節約に努める	主任 リーダー	計画		節約運動 強化月間							節約運動 強化月間									
			実施		済		済						B	済									

令和2年度
多機能型グループホーム鷹栖なごみの家
現況報告書

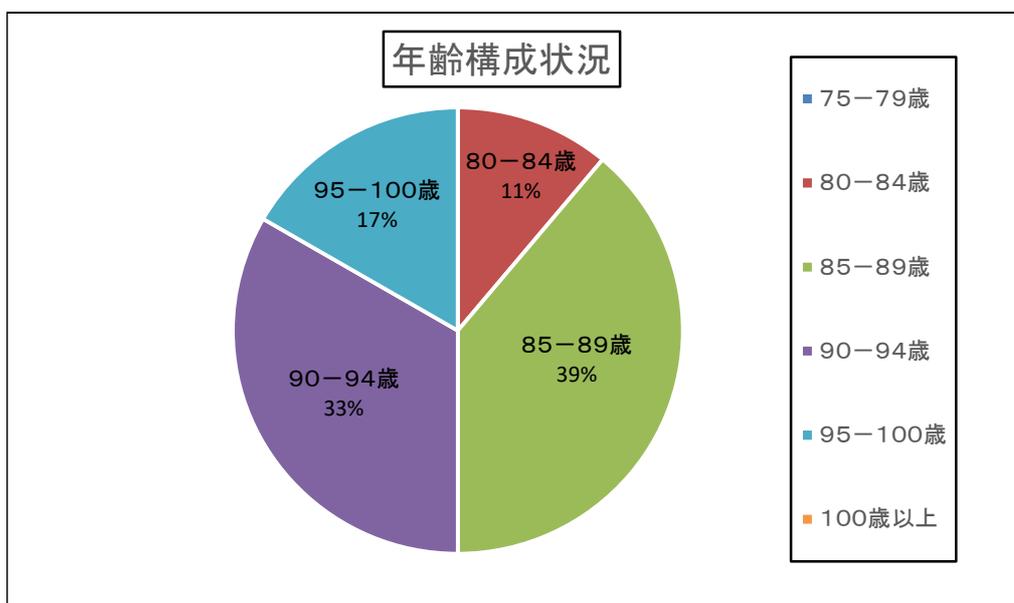
(自：令和2年4月1日 ～ 至：令和3年3月31日)

1 入退所状況

入所者数	退所者数	退所理由	在籍者数	男 性	女 性
4	4	長期入院のため1名 病院にて死去3名	18	2	16

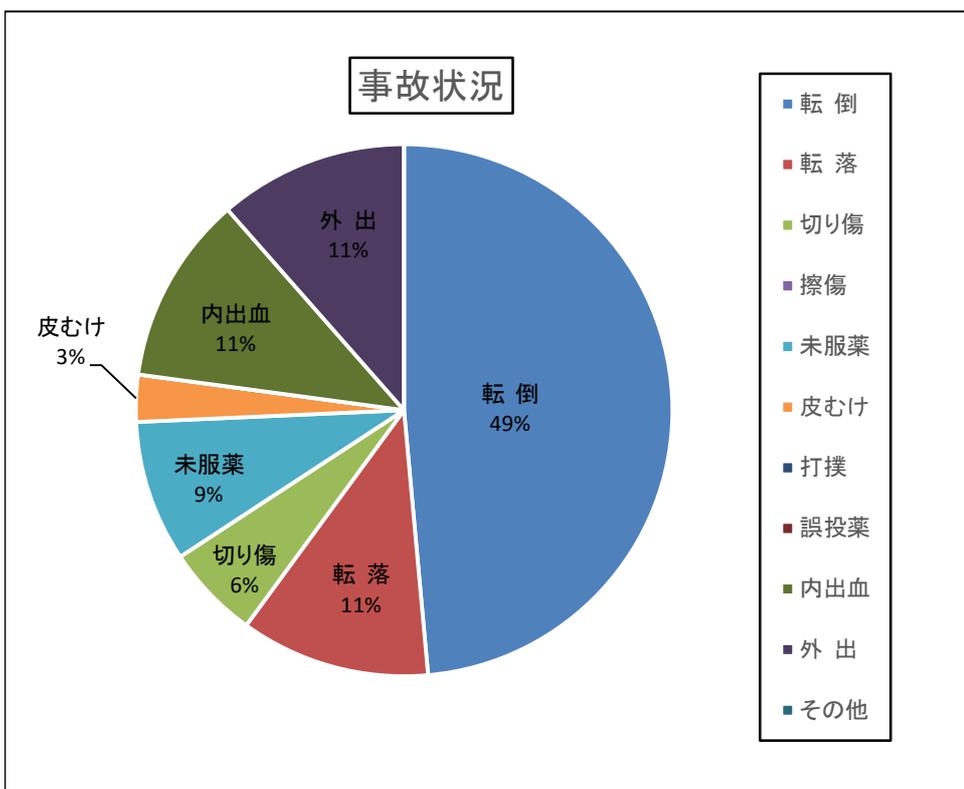
2 年齢別

	男 性	女 性	合 計
75－79歳	0	0	0
80－84歳	1	1	2
85－89歳	1	6	7
90－94歳	0	6	6
95－100歳	0	3	3
100歳以上	0	0	0
合 計	2	16	18
平均年齢	84	90.1	89.5
最高年齢	85	99	
最低年齢	83	83	



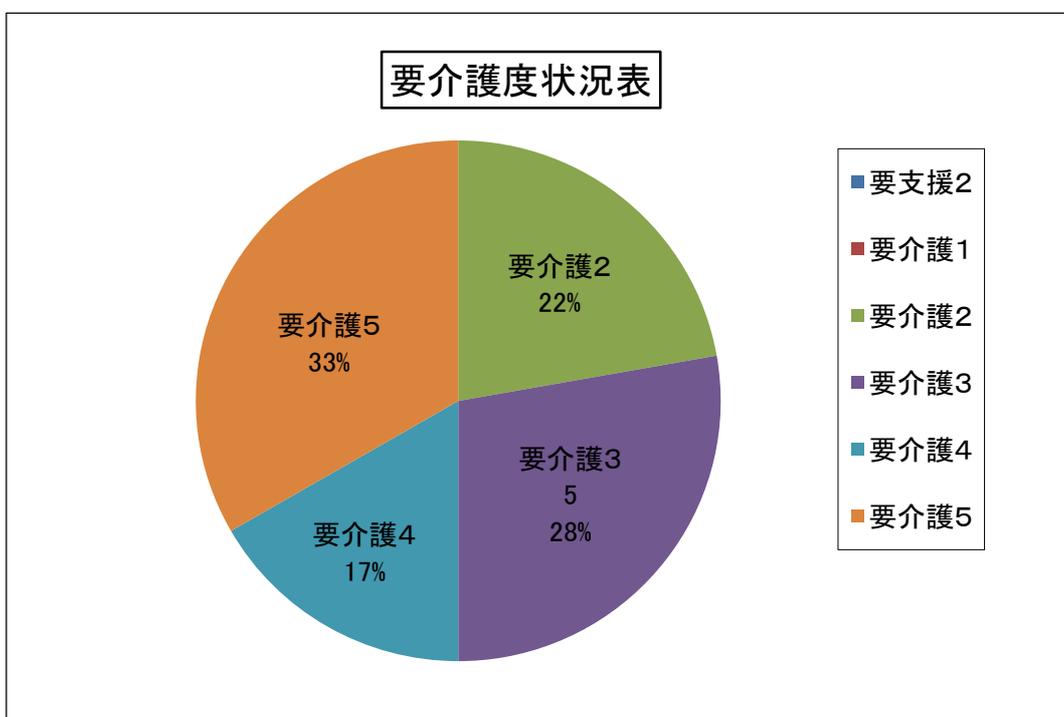
3 事故状況

	洋	和	合計
転倒	5	12	17
転落	1	3	4
切り傷	0	2	2
擦傷	0	0	0
未服薬	1	2	3
皮むけ	1	0	1
打撲	0	0	0
誤投薬	0	0	0
内出血	3	1	4
外出	4	0	4
その他	0	0	0
合計	15	20	35



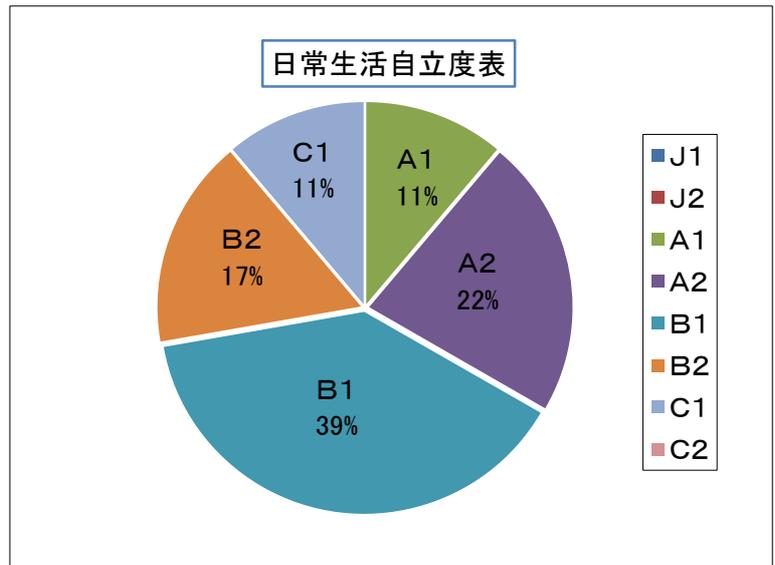
4 要介護度別

	男性	女性	合計	構成比
要支援2	0	0	0	0%
要介護1	0	0	0	0%
要介護2	0	4	4	22%
要介護3	1	4	5	28%
要介護4	0	3	3	17%
要介護5	1	5	6	33%
合計	2	16	18	100%



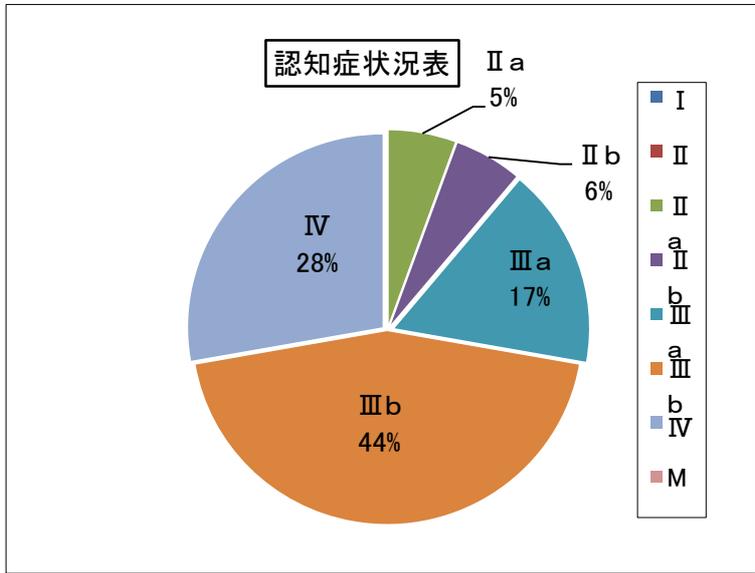
5 日常生活自立度

	洋	和	合計	構成比
J1	0	0	0	0%
J2	0	0	0	0%
A1	1	1	2	11%
A2	2	2	4	22%
B1	4	3	7	39%
B2	2	1	3	17%
C1	0	2	2	11%
C2	0	0	0	0%



6 認知症状況

	洋	和	合計	構成比
I	0	0	0	0%
II	0	0	0	0%
II a	0	1	1	6%
II b	0	1	1	6%
III a	1	2	3	17%
III b	7	1	8	44%
IV	1	4	5	28%
M	0	0	0	0%

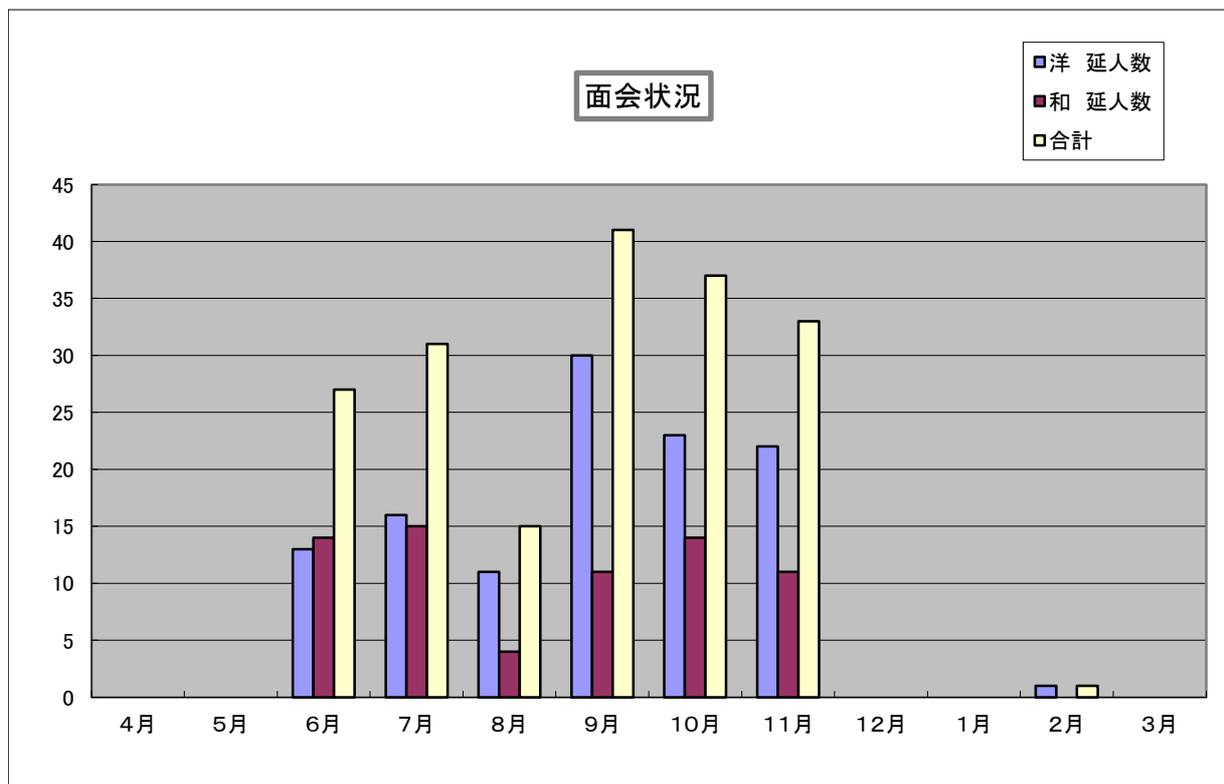


7 入院状況

	実人数	延日数
整形外科系	1	40
精神科系	0	0
内科系	1	21
消化器系	0	0
脳神経系	1	6
合計	3	67

8 面会状況

	洋 延人数	和 延人数	合計
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	13	14	27
7月	16	15	31
8月	11	4	15
9月	30	11	41
10月	23	14	37
11月	22	11	33
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	1	0	1
3月	0	0	0
合計	116	69	185



令和2年度 小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家事業報告

1. 総括

令和2年度は『知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づく介護サービスの提供』『主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める』『職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる』『業務の効率化と適正利益の確保』の4つの重点目標をかかげ取り組んだ。

(1) 「知識・技術の専門性の向上を図り安全で根拠に基づくサービスの提供」

毎月カンファレンスを実施し、ケアの見直しと統一したケアに努めた。困難ケースにおいては、随時ケースカンファレンスを行い、本人の状態の維持に繋げるよう努めた。

事故件数は18件で、中でも薬に関する事故が10件と多く、服薬ルールの徹底が不十分で、再発防止に繋ぐことができなかった。

食事については、嚥下・咀嚼状態の低下が見られる方に安全に召し上がっていただけるよう、適切な食事形態の提供や、食前の口腔内マッサージを行い、食事量の維持、誤嚥予防に努めた。さらに自宅でもマッサージが行えるよう介護者への指導を行う事ができた。また、嗜好を取り入れた季節感のある食事やおやつを提供することで利用者を楽しんでいただいた。

食中毒・感染症の集団感染に関しては、手洗いうがいの徹底、室温・湿度管理や換気・消毒の強化を行ったことと、新型コロナウイルス感染対策については、フロア内のテーブル全てに卓上シールドを製作し設置。自動手指消毒器・非接触型体温計の購入、送迎時には利用者・家族の健康観察記録の確認を徹底し、車輛乗り込み前には手指消毒と、車輛使用後には毎回消毒の実施をした。防護服着脱の実技訓練も行き、さらに職員個々の私生活での感染予防対策の徹底と強化に努めた。疾病の管理では、医療機関との連携を図っていたが3名の方については長期治療が必要となり利用停止となった。

(2) 「主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める」

各担当利用者のADL（日常生活動作）とQOL（生活の質）の向上を図るため介護過程の展開（アセスメント、計画、実施、評価）に連動させながら利用者一人一人の「ハピネスプラン」を計画していたが全利用者の実施はできなかった。実施できた方に対しても評価まで至らなかった。

学習療法に関しては、学習参加人数の増加を目標にしていたが、参加人数を増やすまでには至らなかった。新型コロナウイルス感染予防の関係でサポーターの協力を中止し今年度は職員のみでの学習支援となった。

アクティビティーについては、コロナ禍で外出等制限のある中でも、「心に残る楽しいひととき」を目標に、新たな内容を取り入れ利用者の満足度を高めることができた。

(3) 「職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる」

定期面談を実施することで不安や悩みの軽減を図ることができた。計画的連続休暇については、常勤職員全員が7日間取得することができリフレッシュを図ることができた。有給休暇についてはパート職員も含め5日以上取得することができた。また、グループホームの職員が小規模多機能ホームの勤務を兼務することでなごみの家全体で協力するチーム体制の継続ができた。

(4) 「業務の標準化・見える化・効率化を図り適正利益を確保する」

ケアアシスタントの導入を行い、業務の分担、業務の効率化を図ることができた。

今年度新規登録者は居宅からの以降を含め5名。登録終了者は10名（内長期入院により3名。施設入居4名）月平均登録者数22.7名。目標の23名を達成することはできなかった。登録定員には余裕があったが、継続泊まりや通いの利用頻度が高い方が多くなったことと訪問件数の増加があったことで、泊まり・訪問のニーズのある新規登録者の受け入れができなかった事が要因としてあげられる。

2. 次年度に向けての展望

令和3年度は前年度実施することができなかった活動内容を確実に実施できるよう、より具体的な計画を立て取り組む。

働きやすい職場づくりのため、新たなケアアシスタントの受け入れや介護ロボットの導入、ICT、IoT化の推進をし、職員の業務負担を減らし業務の効率化を図る。さらにリフレッシュ休暇（8連休）の取得を継続する。

『仕事の目的と最適な手段を考えて、自ら進んで行動する』を職場目標にかかげ「介護過程の展開」を職員一人ひとりが自ら進んで取り組み、職員・利用者共に、楽しみ・やりがい・達成感を感じられる暮らしづくりを実践する。

また、利用者の在宅生活の継続が困難にならないよう、生活状況の確認、多職種協働での健康状態の把握・悪化の予測をし、医療連携を密に行うことで入院による登録終了者を減らし、適正利益の確保を図る。

3. 運営状況・統計資料

(1) 小規模多機能ホーム会議開催状況

月 日	議 題 内 容	出席者
4月21日	ケースカンファレンス・褥瘡発症者の状況と対応・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・ケアアシスタント、SH 電話回線、新型コロナウイルス関係、個別入浴介助について・行事について・学習療法月次検討会について	11名
5月19日	新型コロナウイルスの流行に伴い、書面での対応（ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事（チャレンジデー、手作りおやつなど）について・利用者様担当、畑について・学習療法月次検討会について）	12名
6月16日	新型コロナウイルスの流行に伴い、書面での対応（ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事（避難訓練など）について・利用者様、行事の担当について・オペレーションについて・キックオフミーティング・学習療法月次検討会について）	12名
7月21日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・利用者担当、今年度の行事について・学習療法月次検討会について	10名
8月18日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事について・食事形態について・学習療法月次検討会について	10名
9月15日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・行事について・利用者担当について・言葉遣いについて・学習療法月次検討会について	10名
10月20日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・利用者様担当について・学習療法月次検討会	9名
11月17日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事（クリスマス・忘年会）について・利用者様担当、大掃除について・学習療法月次検討会	8名
12月15日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・行事（クリスマス、忘年会、柚子湯など）について・利用者様担当、牛乳、タイムカードについて・学習療法月次検討会・キックオフミーティング	8名
1月19日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告と今後の対応・行事（節分）について・タイムカードについて・学習療法月次検討会	8名

2月16日	荒天に伴い、書面での対応（ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・令和3年度小規模目標・行事・月レク担当・誕生日プレゼントについて・学習療法月次検討会	12名
3月16日	ケースカンファレンス・抑制廃止の取り組み・事故報告と今後の対応・令和3年度SH目標、誕生日について・令和3年度月のレク、行事担当について・小規模サービス評価について・事業計画について・学習療法月次検討会	7名

(2) 小規模多機能ホーム事故状況

月 日	内 容	結 果
6月 5日	未投薬（79才・女性）	異常なし
6月16日	未投薬（76才・女性）	異常なし
8月 3日	重複薬（90才・男性）	異常なし
10月18日	未投薬（91才・女性）	異常なし
11月23日	未投薬（77才・女性）	異常なし
11月23日	転倒（91才・女性）	外傷痛みなし・その後も異常なし
11月26日	単独外出（91才・女性）	自宅へ向かって歩いているのを発見。外傷痛みなし・その後も異常なし
12月 2日	転倒（85才・女性）	背中に赤みがあるも、痛みなし・その後も異常なし
12月 6日	未投薬（79才・女性）	異常なし
12月20日	単独外出（91才・女性）	なごみ近くを歩いているのを発見。外傷痛みなし・その後も異常なし
12月22日	未投薬（77才・女性）	異常なし
1月 7日	転倒（82才・女性）	外傷痛みなし・その後も異常なし
1月16日	未投薬（77才・女性）	異常なし
2月23日	未投薬（79才・女性）	異常なし
3月 3日	尻もち（82才・女性）	外傷痛みなし・その後も異常なし
3月11日	未投薬（90才・女性）	異常なし
3月14日	転落（82才・女性）	右額に発赤、腫れあり冷やす・その後は異常なし
3月31日	転落（82才・女性）	外傷痛みなし・その後も異常なし

(3) 小規模多機能ホーム行事活動報告

日 時	行 事 名	場 所
5月5日	菖蒲湯	なごみの家
5月14日	ドライブ	鷹栖町内
10月20日	ドライブ	嵐山
12月21日	柚子湯	なごみの家
12月26日	忘年会(会食無し)	なごみの家
2月 2日	節分	なごみの家

(4) 手作りおやつ

今年度はコロナの流行に伴い、中止とする。

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 小規模多機能ホーム鷹栖ごみの家

準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容		
1	(1)	安全で根拠に基づくサービスの提供	アセスメントシートの整理と定期的なデータ更新	主任リーダー	計画	データ更新開始							データ更新						アセスメントシートの整理と定期的なデータ更新	C	新規利用者様の導入の為。	
			ダブルチェック、ケースカンファレンスを定期的に行い統一したケアを実施する	主任リーダー	計画	Wチェックモニタリングカンファレンス								Wチェックモニタリングカンファレンス						ケア困難ケースにおいて随時ケースカンファレンスをし本人の状態を維持	B	会議以外でも、都度困難事例のカンファレンスを行い、状態悪化の予防に努めている。
			安全で予防的なケアに努め事故及び事故の再発を防ぐ	主任リーダー	計画	毎月の会議での事故報告・分析	救命救急研修							毎月の会議での事故報告・分析						事故件数前年度比-9件(R1年度24件→R2年度15件)	C	事故件数18件(昨年24件)骨折事故0件薬に関する事故10件転倒転落事故6件その他2件(単独外出2件)
			身体拘束及び虐待防止の取り組みを継続して行う(年2回研修実施)	主任リーダー	計画				虐待予防研修						虐待予防研修					年2回研修を実施する。身体拘束・虐待0件。	B	上期研修を実施。虐待該当なし。
2	(1)	安全で美味しく楽しみのある食事の提供	個別に合わせた適切な食事形態を提供する	主任栄養士	計画	食事ケアチェック						食事ケアチェック						食事形態の多様化により、全員口腔摂取ができ、食事が安定する。	B	個別に合わせた提供方法を検討し、実施した。		
			利用者の嗜好を取り入れた季節感のある食事、行事食の計画し実施する	主任栄養士	計画	出前昭和の日	開校記念日こどもの日憲法記念日	外食ツアー	流し業務			敬老の日秋分の日外食ツアー	体育の日	出前文化の日勤労感謝の日	クリスマス忘年会天候誕生日	おせち料理成人の日	節分	開校記念日室内パーティー	ひな祭り春分の日	満足度調査を実施し、食事に関して90%が良いの評価。	B	行事食、一部未実施はあったが、季節に合わせた物を提供し、食事に関しての満足度調査結果も90%以上良いの評価。
3	(1)	食中毒・感染症の予防	食中毒・感染症(ノロウイルス・インフルエンザ・コロナウイルス)の予防策を徹底し感染を防ぐ(集団感染0件)	主任看護師課長	計画													食中毒、感染症の集団感染0件	B	食中毒・感染症に関しての研修を実施したり、うがい・手洗いの励行し、集団感染の予防に努めている。		
			感染症発症者(ノロウイルス・インフルエンザ・コロナウイルス)の在宅では対応困難な方の受け入れと支援の実施(マニュアル作成)	主任看護師課長	計画	発症者の受け入れ訪問対応								発症者の受け入れ訪問対応						感染症発症者への泊まりサービスの実施。在宅での対応支援の為の訪問サービスの実施。	C	該当者はいないが、マニュアル作成には至らず。
4	(1)	疾病の管理と医療的ケアの充実	ケアチェックを強化し、病気の発症及び重症化を防ぐ。医療と介護連携により入院での利用休止を減らす	看護師主任	計画	的確なケアアチック	受診時の同行支援	必要者随時同行					的確なケアアチック・受診時の同行支援必要者随時同行						健康管理・病状の把握(利用者全員、血液検査データを提出してもらふ)	C	入院者1名。血液データの提出が揃っていない。	
			誤嚥性肺炎による入院者0名	看護師主任	計画	食事ケアチェック	口腔ケアの徹底							食事ケアチェック	口腔ケアの徹底					誤嚥性肺炎による入院者0名	C	誤嚥性肺炎による入院者1名。
			水分摂取量の把握を行い、適切な水分管理を本人、家族と共に取り組む(脱水者0名)	看護師主任	計画	水分摂取量の把握化	在宅での水分摂取支援							水分摂取量の把握化	在宅での水分摂取支援					脱水症による入院者0名	B	水分量の把握に取り組む、脱水による入院者0名。
			在宅生活を継続できるよう、ケアマネジメントの強化(訪問サービスの提供で在宅での健康管理を強化し、介護者の介護力を見極め必要な支援・援助を行う)	看護師主任	計画	再アセスメント在宅版総合記録シート導入	在宅版総合記録シート導入	モニタリング						評価カンファレンスサービス提供の見直し	在宅版総合記録シート	モニタリング	モニタリング			評価カンファレンスサービス提供の見直し	C	あったかす健康ノートを使用し、在宅での生活習慣、状況の把握。病状悪化を防ぎ、在宅生活の継続ができる。(あったかす健康ノート取り組み4名→7名)
総合記録シート・あったかす健康ノートの活用をし、主治医・かかりつけ医との医療連携の強化を図る。	看護師主任	計画	総合記録シート見直し・改善	受診時同行・連携シート持参								受診時同行・連携シート持参						総合記録シートの改良(医療連携欄の追加)	C	受診時、活用できているが、改良には至らず。		

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家

準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容		
5	(1)	基礎介護力の向上	法人全体で段階別基礎介護研修を実施し、より実践的な知識、技術を身につけて専門性の向上を図る	主任リーダー	計画					基礎介護研修		基礎介護研修	基礎介護研修		基礎介護研修	基礎介護研修		経験・スキルに合わせた研修の実施により職員のケアのレベルアップができる。	B	段階的に基礎介護研修を実施し、職員のケアのレベルアップに努めている。		
			外部研修の計画・実施	主任リーダー	計画				新任職員研修				B	済	済		中止	済		外部研修に参加し、ケアの向上を図る(職場に1つ以上還元する)	D	コロナの流行により、予定していた研修は中止の為。
6	(2)	アクティビティの充実	楽しみ・喜び・やりがいのあるアクティビティを計画・実施する(思い出に残る物、持ち帰りができる物、成果のある物、発表・展示できる物)	リーダー月担当	計画	月のレク 作品づくり	花見ドライブ 春のチャレンジデー	買い物・外食 ツアー	流し蒸籠 ドライブ	慰霊祭 町民祭 盆踊り	ドライブ・外食		運動会 買い物ツアー 月のク 作品づくり	出前 青年会との食 事会	餅つき 忘年会		部分 室内パーティー	秋の節句	計画どおり実施でき、持ち帰りができる作品作りや成果の見えるアクティビティを取り入れる。	C	外出行事は中止となる。大きな作品は作っていたが、持ち帰りの作品はできなかった。	
			学習療法をより多くの方に参加していただくために、定期的に利用者・ご家族へPRを行う。定期的に楽習診断を行い、評価を行う。	学習療法マスター	計画	学習療法案内配布					学習療法案内配布					学習療法案内配布				学習療法参加人数の確保(R1年度3名→R2年度5名)	C	学習療法参加人数の増加には至らず(現在2名)。
			利用者一人ひとりの「ハビネスプラン」を計画・実施する	主任リーダー各担当	計画	個別のハビネスプラン計画		ハビネスプラン実施(1~2名)													個別の楽しみや喜びを探り、かなえる。	C
7	(2)	環境を改善し過ごしやすい生活環境を作る	施設内の装飾品や植物を適切に管理し潤いある生活空間を作る	環境係リーダー	計画	月担当しつらえ(植物管理含む)													四季の感じられるしつらえを楽しんでいただく。植物を置いて担当が管理する。	C	各月の担当が設えを検討し、実施。植物の管理が一部不十分。	
			利用者が安心して穏やかに過ごせる環境作りを行う	環境係リーダー	計画	フロアのしつらえ														認知症の症状の重い方が安心して落ち着いて過ごせる環境ができる。	C	フロアの設えは定期的に変えている。落ち着かなくなる方がいるので、穏やかに過ごせる様に、続けていく。
8	(4)	開かれた事業所づくり	利用者・職員が地域社会の一員として豊かに暮らせるよう積極的に地域行事・活動に参加する	主任リーダー課長	計画	チャレンジデー参加	鷹栖保育園運動会見学		慰霊祭				チャレンジデー参加						地域の催しに積極的に参加し、天気の良い日は散歩を日常のプログラムに取り組む。地域の方になごみの家を認知していただく。	D	コロナの流行に伴い、地域との交流は中止している(利用者様の希望で、散歩する事がある程度)。	
			小規模多機能ケアをより多くの方に理解して頂く為に地域の方々に向け情報発信すると共に交流スペースを地域の方に開放する	主任リーダー課長	計画	寺子屋俳句の会			広報にCP Rする	見学会計画(民生委員・地域住民)					寺子屋俳句の会	見学会実施(民生委員・地域住民)				小規模見学会を開催し、地域住民・民生委員の方に、小規模多機能ケアについての説明を行い、理解していただく	D	コロナの流行に伴い、地域との交流は中止。
			地域住民の学習療法サポーターの育成を行い、役割と生きがいをつくる	学習療法マスター	計画						サポーター研修・交流会					サポーター研修・交流会		中止		交流会の実施で不安の解消や充実感の共有の場を設け、やりがいや楽しみに繋げる。(アンケートで80%以上「楽しい」と評価)	D	コロナの関係で、交流会やサポーターさんの来所共に中止。
9	(3)	働きやすい職場づくり	勤務体制の一部見直し	主任リーダー	計画		訪問サービスの調整	勤務体制の見直し											訪問のニーズに柔軟に対応できる体制をつくる	B	グループホームからの協力を得て、必要に応じた訪問を行っている。	
			不安を取り除き、上司・部下が心を通い合わせるために、定期的に職員面談を実施する	課長主任リーダー	計画			面談の実施												面談を実施することで不安や悩みを軽減・解消する。	B	面談を行う事で、不安や悩みの軽減・解消に努めた。
			リフレッシュ7連休の実施と有給休暇の計画的消化	課長主任	計画			連続有給休暇調整	連続有給休暇取得											1人7日間の連続休暇を計画的に取得し、リフレッシュを図る。(必ず有給を3日つける)有給休暇は、年間5日以上とする。	A	予定通り取得できた。
			退職者を減らし、安定した運営に取り組む(退職者0を目指す)	課長主任リーダー	計画	退職者0		面談												結婚・出産以外での退職者をださない。	C	退職者1名(定年による退職)。
			介護負担の軽減と業務の効率化を図るため、介護ロボット等の導入とICT、IOT化の検証	課長主任	計画																介護ロボットの導入とICT、IOT化をすすめて、介護負担の軽減と業務の効率化を図る。	C

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家

準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

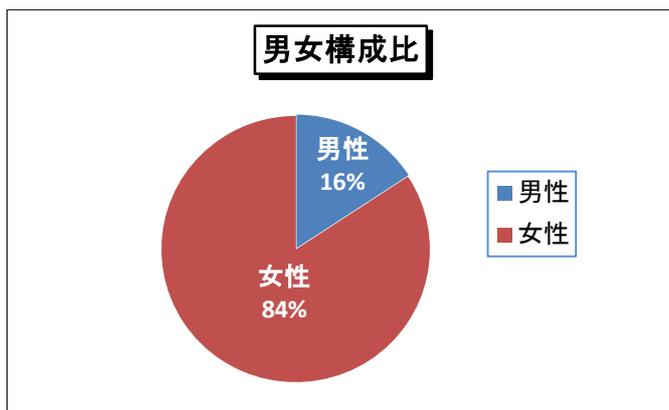
事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	月別進捗												ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容			
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月				3月		
10	(3)	チームワークの向上	週目標を継続し、具体的な目標を意識して思いを一つにする	主任リーダー	計画	毎日の引継ぎ目標を共有する													思いを一つにすることで、チームワークの強化を図る。	B	持ち回りで1週間の目標を立て、目標を現場と照らし合わせチームワークの強化が図れた。	
			職員が楽しみ・やりがいを見つけ出し、達成感を感じられるよう年間チームでの目標を決め取り組む(サービス向上発表会等での発表)	主任リーダー	計画	取組み内容決定	取組み													一つのテーマにチームで取り組み成果を出す。	D	取り組み内容は未決定であった
			ユニット間の職員の交流を図る	課長主任	計画	シフト間交流															ユニット固定の勤務を見直し、職員が互いに協力できる体制をつくる。	B
11	(5)	業務の効率化	業務の見直しを行い、業務分担を明確にし見える化する	課長主任リーダー	計画		業務整理	業務見直し											業務分担を明確にし見える化することで、業務の効率化を図る。	B	オペレーションシートの見直し、業務分担表など会議内で検討し、都度変更を行っている。	
			従来のマニュアルの見直しと整理	主任リーダー	計画	従来マニュアルの確認	マニュアルの整備												従来のマニュアルの見直しと整理	D	未実施。	
			ケアアシスタントの導入	主任リーダー	計画	ケアアシスタント導入														ケアアシスタントを導入し業務の効率化を図る。	A	業務の効率化を図る事ができた。
12	(7)	適正利益の確保	新規登録者の確保のための計画を立てPR活動を行う(目標登録人数23名)	主任リーダー	計画	新規利用者の確保													新規登録者の確保と登録人数の維持(R1年度13名→R2年度10名)(登録目標人数23名)	B	新規登録者5名(前年度13名)、登録人数は、目標には届かなかったが、月平均22.7名であった。	
			目標介護保険事業収入65,403,134円(前期65,195,000円)	主任リーダー	計画															目標介護保険事業の到達	B	介護保険事業収入65,187,122円。目標介護保険事業収入には到達しなかった。
			ダブルチェックの徹底と総合記録シートを活用し予防的なケアに努め、長期入院、施設入居を減らす	主任リーダー	計画	体調不良者・入院者の分析														長期入院での停止者・施設入居での登録終了者を減らす。(R1年度長期入院停止者2名→R2年度1名)(R1年度施設入居停止者4名→R2年度3名)	C	登録終了者10名。入院者3名、入居者7名(前年度入院者2名、入居者4名)。
			光熱費に対するコスト意識を高め、節約に努める(前年度より-3%)	主任リーダー	計画	節約運動強化月間														節約運動強化月間	B	電気代: 約2%の削減 灯油代: 単価低下により、約13%の削減 ガス代: 約1.1%の削減 上下水道料: 約1.8%の増

令和2年度
小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家
現況報告書

(自：令和2年4月1日 ～ 至：令和3年3月31日)

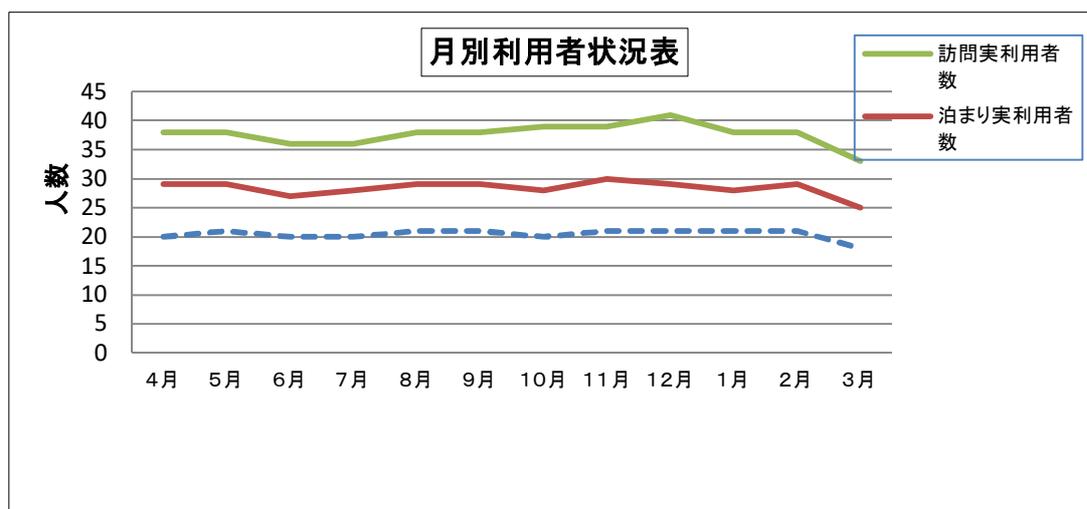
1. 利用登録者（令和3年3月31日現在）

男性	女性	合計
3	16	19



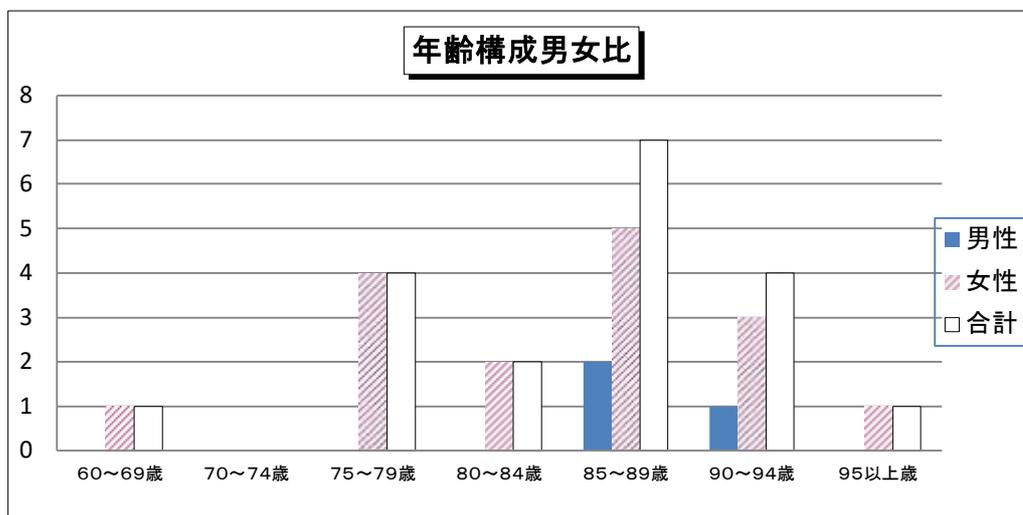
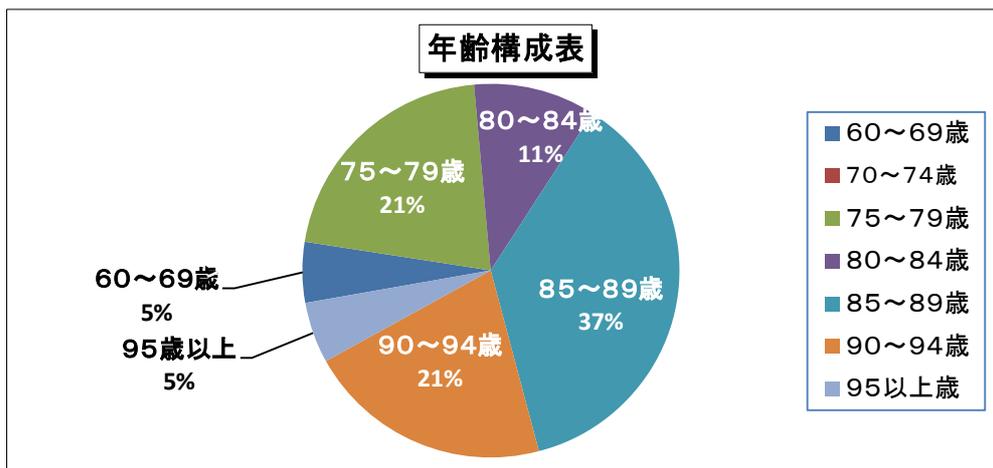
2. 月別利用者状況

月	通い実利用者数	泊まり実利用者数	訪問実利用者数	入院者	停止者	月初登録者数
4月	20	9	9	0	0	23
5月	21	8	9	1	1	23
6月	20	7	9	0	1	22
7月	20	8	8	0	0	22
8月	21	8	9	0	1	23
9月	21	8	9	1	0	22
10月	20	8	11	1	0	23
11月	21	9	9	1	2	24
12月	21	8	12	1	1	24
1月	21	7	10	1	0	23
2月	21	8	9	2	3	23
3月	18	7	8	0	1	20
平均	20.4	7.9	9.3	0.7	0.8	22.7



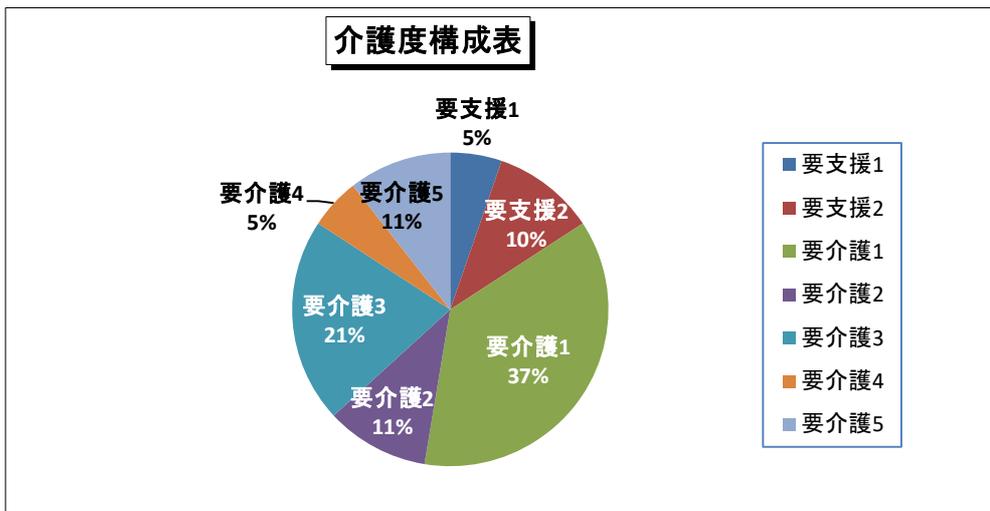
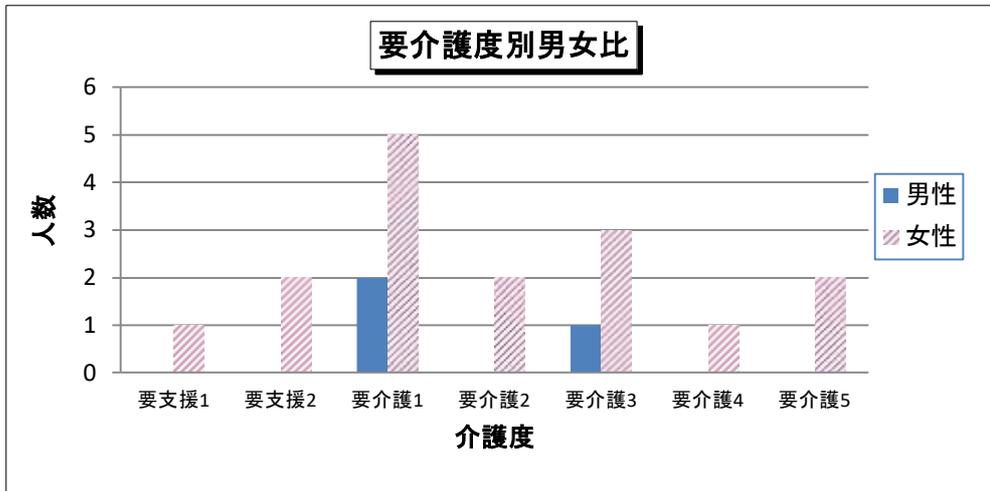
3. 年齡

年齡	男性	女性	合計
60~69歲	0	1	1
70~74歲	0	0	0
75~79歲	0	4	4
80~84歲	0	2	2
85~89歲	2	5	7
90~94歲	1	3	4
95以上歲	0	1	1
合計	3	16	19
平均年齡	85.5	84.7	84.8
最高年齡	91	95	95
最低年齡	86	64	64



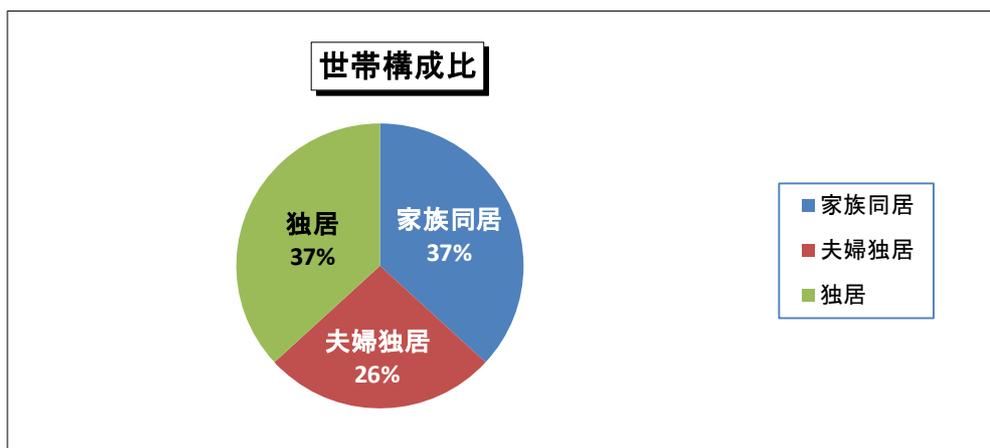
4. 要介護度別

介護度	男性	女性	合計	構成比
要支援1	0	1	1	5%
要支援2	0	2	2	10%
要介護1	2	5	7	37%
要介護2	0	2	2	11%
要介護3	1	3	4	21%
要介護4	0	1	1	5%
要介護5	0	2	2	11%
合計	3	16	19	100%



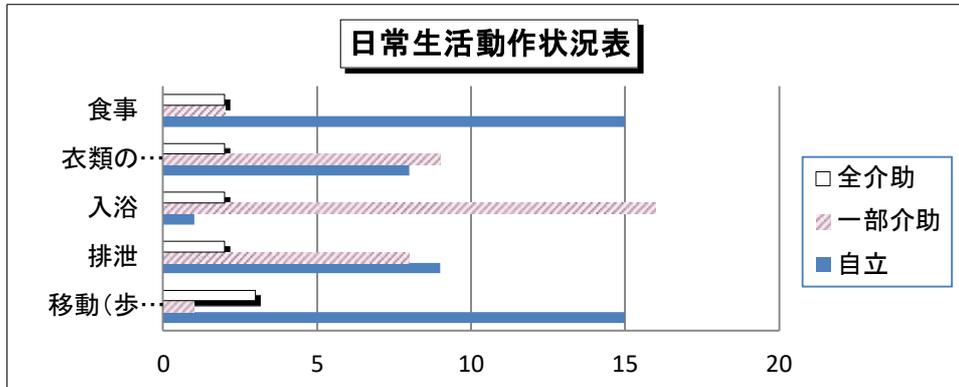
5. 世帯構成

家族同居	夫婦独居	独居	合計
7	5	7	19



6. ADL(日常生活動作)状況

分類	自立	一部介助	全介助	合計
移動(歩行)	15	1	3	19
排泄	9	8	2	19
入浴	1	16	2	19
衣類の着脱	8	9	2	19
食事	15	2	2	19

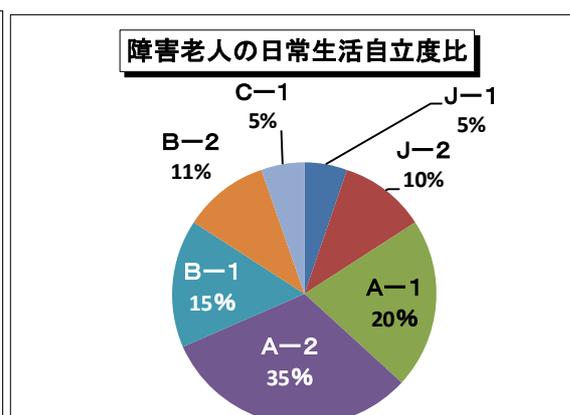
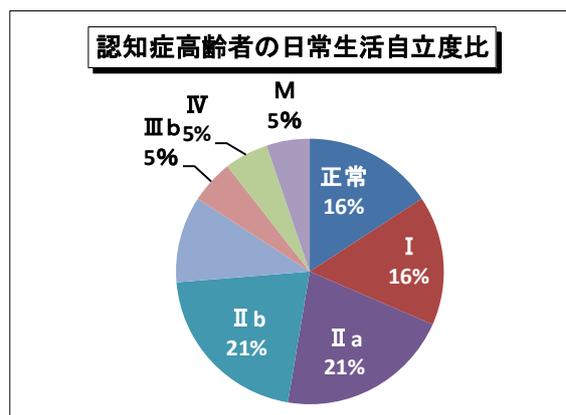


7. 認知症高齢者の日常生活自立度状況

認知度	人数
正常	3
I	3
II	0
II a	4
II b	4
III	0
III a	2
III b	1
IV	1
M	1
合計	19

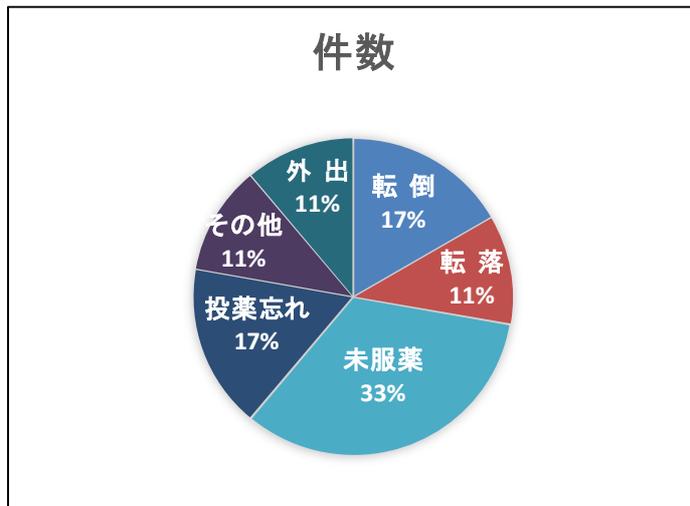
8. 障害老人の日常生活自立度

自立度	人数
J-1	1
J-2	2
A-1	4
A-2	6
B-1	3
B-2	2
C-1	1
C-2	0
合計	19



9. 事故状況

内容	件数
転倒	3
転落	2
切り傷	0
表皮剥離	0
未服薬	6
誤飲	0
投薬忘れ	3
誤投薬	0
打撲	0
外出	2
その他	2
合計	18



令和2年度 地域密着型特別養護老人ホーム めくもりの家えん 事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

令和2年度は新型コロナウイルスの全国的な流行により、感染予防を徹底しながらの事業推進となった。感染予防対策としては、研修会の実施、毎日の消毒作業、食卓のパーティションの設置、万が一のクラスターを想定したオペレーションの作成、個人防護服の脱着訓練、ゾーニングなどを実施した。年度当初予定した行事については、感染リスクが高いイベントについて縮減し実施。それに合わせ、毎年多くの来場客がある友の会の皆さんによる朝市も中止となり、その他のボランティア活動も自粛することとなった。ご家族との面会制限も長期間にわたり実施させていただき、入居者には我慢の一年となった。職員では毎日2回の検温と体調観察を徹底。ほぼ通年にわたり大人数での飲食や流行地域への立ち入り制限など感染予防策を徹底した。各地の施設でクラスターが相次ぐ中、入居者、家族、地域の皆さまのご協力とスタッフの尽力により、めくもりの家えんはもとより、さつき会全ての事業所において感染者をひとりも出すことなく経過している。

ケアについては、担当スタッフによる介護過程の展開が2年目となり個別のニーズに合わせたケアの提供を継続している。入居者の健康管理については、感染予防の徹底と細やかな状態観察により特変者が減少。状態変化があった際にも迅速に対応し、一年で入院をされた方はのべ4名、年間入院日数は28日間と前年225日間から大きく減少し目標を達成することができた。また、排泄ケアでは新たな高性能オムツの導入を検討。スタッフ全員が研修を受講し認定試験を受け「オムツマイスター」の資格を取得した。入居者の夜間の安眠と排泄後の不快感の軽減、そしてスタッフの介護負担を軽減している。

働きやすい職場づくりの取り組みとしては、リフレッシュ休暇を希望するスタッフ全員が取得。ケアスタッフの離職も昨年に続きゼロであった。

新たな取り組みとしてはコロナウィルスの感染対策により急速に普及したオンライン会議や研修などを積極的に活用。旭川大学短期大学部からの介護実習では、パソコンやビデオカメラを活用したリモート実習を実施し、剣淵高校からははじめて介護実習生を受入れた。

整備事業では、非常災害時等による停電の際に施設全体の電力供給が可能な非常用電源設備を設置したほか、令和3年度に導入を予定している介護記録の電子化にむけたネットワーク環境を強化・整備した。また、スタッフの介護負担の軽減を図りつつも安全に移乗動作ができる移乗支援ロボットを導入した。

最後に、適正収益の確保では、特養事業の目標98%以上（目標介護保険収入100,408,130円）に対し、実績は稼働率99.4%（介護保険収入実績106,084,239円）であった。年度当初予定していた新たな加算の取得は達成できなかったが、入院者数の大幅な減少と平均要介護度の重度化（前年3.9→R2年度4.1）により収益が増収した。光熱水費については使用量費用ともに減少した。

2. 展望（次年度に向けて）

令和3年度も「良いケア、良い職場、良い経営」を基本方針として取り組む。最重要課題は新型コロナウイルスの感染予防であり、より一層警戒心を高めて取り組む。5月・6月には新型コロナ感染予防ワクチンの接種を予定しており、感染拡大状況を注視しつつ、昨年活動自粛してきた行事やてくてく朝市、ボランティア活動について、安全・安心の対策を講じながら再開・実施したい。また、感染対策の長期化により生じるスタッフの負担感についても対策を講じていきたい。

今年度は介護保険制度改定年であり、大きな改定内容の一つに科学的介護情報システム（LIFE）との情報連携がある。LIFEは、提供された情報を分析し施設にフィードバック・活用することでケアの質の向上につなげるという仕組みであり、今後、施設での運用は必須となる。また多職種連携もより一層強化することが求められる。年度内に導入を予定している介護記録の電子化と合わせ、現在のケアチェックの仕組みを踏襲しながら従来のケアシステムに加えて、LIFE運用の仕組みを整え標準化させる。また、システムの移行により、より質の高いケアサービスの提供を実現しつつ、スタッフの業務効率化と省力化を図る。

「平穏で楽しみや喜びのある暮らしづくり」では、ご利用者と職員がともに喜びや楽しみが感じられる行事やレク活動を取り入れ計画的に実施し、住環境についても整理整頓の定期的な確認と潤いある環境をつくる。

「働きやすい職場づくり」では、リフレッシュ休暇の取得に加えて連休が取得できる体制をつくる。IOT・ICTに関する情報を収集し、生産性の向上にむけ調査研究する。はじめて就労する外国人スタッフが安心して働き、地域で生活できるようチームでサポートする。

最後に、適正収益の確保では特養事業の目標稼働率は98%以上（目標介護保険収入102,317,000円）を達成する。未然に防げる事故を減少させ、再発リスクの高い疾患のあるご入居者への予防的ケアの実践により目標入院のべ日数を50日以内とする。また、使用物品のコスト意識を持ち日用品などの支出前年比-5%を目指す。

以上を次年度に向けた展望とする。

3. 運営状況・統計資料

(1) 業績報告

① ベッド稼働率

目標ベッド稼働率 (A)	実際ベッド稼働率 (B)	達成率(B)/(A)×100
98.0%	99.3%	101.3%

② 延べ入居者数 (単位：人)

目標延べ入居者数 (A)	実際延べ入居者数 (B)	達成率(B)/(A)×100
7,154	7,256	101.4%

③ 事業収入(単位：千円)

目標収入 (A)	実際収入 (B)	達成率(B)/(A)×100
100,540	106,252	105.7%

(2) ボランティアの受け入れ

① ボランティア受け入れ実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	0	0	0	0	0	1	2	2	2	2	2	2	13
延人数	0	0	0	0	0	2	12	20	12	10	10	13	79

② ボランティア協力団体一覧

団体名	活動・協力内容
ぬくもり友の会	・ シーツ交換 ・ 洗面台清 ・ 除雪
絵画サークル虹の会	・ 絵画展示

(3) 外出・外泊・面会状況

年月	面会延べ人数(名)	外出回数 (回)	外泊回数 (回)
令和2年4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	0	0	0
7月	0	0	0

8月	0	0	0
9月	0	0	0
10月	0	0	0
11月	0	00	0
12月	0	0	0
令和3年1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0
合計	0	0	0

※窓越し面会は数に含まず

(4) 行事

日時	行事名	場所
令和2年5月1日	えん開設記念日	そら・はなリビング
令和2年6月12日	花壇整備	えん庭
令和2年7月28・31日	えん祭り	てくてく
令和2年8月4日	味覚祭	えん庭
令和2年12月18日	忘年会	そら・はなリビング
令和2年12月24日	クリスマス会	そら・はなリビング
令和3年2月2日	豆まき	はなリビング
令和3年3月3日	ひな祭り	はなリビング

(5) リーダー会議 (計12回)

月日	議題内容	参加人数
令和2年4月21日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(ボランティアの手紙、加湿器片付け、コロナ関係)・スタッフマネジメント	10名

令和2年5月26日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント(異動職員のエルダーについて、コロナ関係)	10名
令和2年6月24日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(テーナ研修について、コロナ関係)・スタッフマネジメント	10名
令和2年7月22日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント	10名
令和2年8月26日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント	10名
令和2年9月23日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(面会制限について)・スタッフマネジメント	10名
令和2年10月28日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項・スタッフマネジメント(異動について)	10名
令和2年11月19日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(キックオフミーティング)・スタッフマネジメント	10名
令和2年12月22日	・令和3年度事業計画策定会議	10名
令和3年1月27日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(・スタッフマネジメント)	10名

令和3年2月22日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(オペレーションについて、外国人スタッフ受け入れについて、SH夜勤の入り時間について)・スタッフマネジメント	10名
令和3年3月24日	・ケースカンファレンス・褥瘡発症者の経過・栄養状況の悪い方・抑制廃止の取り組み・苦情について・事故報告について・行事出張について・各事業所の実績報告・その他の検討事項(オペレーションについて、メッシュパンツについて、夜勤の休憩室について)・スタッフマネジメント	10名

(6) 特養会議 (計12回)

月日	議題内容	参加人数
令和2年4月1日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開・その他(清掃方法について、オペレーションについて)	9名
令和2年5月11日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開・その他(新型コロナウイルスについて、人事異動について、花壇整備・春の清掃について)	9名
令和2年6月8日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(はなリビングについて、オペレーションについて、食事の下膳について)	12名
令和2年7月6日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(オペレーションについて、家族への手紙作りについて、コロナ対策について、さつき苑への応援について)	11名
令和2年8月3日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検	11名

	討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(オペレーションについて、ターミナルケア研修について、卓上シールドについて)	
令和2年9月7日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討 討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(オペレーションについて、ボランティア再開について、異動について)	10名
令和2年10月5日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討 討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(オペレーションについて)	10名
令和2年11月2日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討 討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(オペレーションについて、在庫物品管理表について)	10名
令和2年12月7日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討 討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(オペレーションについて)	10名
令和3年1月4日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討 討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(オペレーションについて、服薬について)	9名
令和3年2月1日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討 討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(会議の開始時間について)	10名
令和3年3月1日	・ケアカンファレンス・褥瘡発症者及びハイリスク者・栄養マネジメント・抑制廃止の取り組み・本人家族からの要望苦情・事故の検討 討・各委員会からの報告・マナーモラルについて・活動計画について・介護過程の展開その他(オペレーションについて、SH夜勤開始時間の変更について、ご家族様への電話について)	9名

(7) 給食会議 (計 11 回)

月日	議題内容	参加人数
令和 2 年 4 月 23 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(調理スタッフ入院について)	8 名
令和 2 年 5 月 21 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(異動スタッフについて)	8 名
令和 2 年 6 月 18 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(食中毒研修の実施について)	9 名
令和 2 年 7 月 20 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(味覚祭について、調理スタッフ復帰について)	9 名
令和 2 年 8 月 20 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他	10 名
令和 2 年 9 月 17 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(敬老の日について、調理員 Line 開設について)	10 名
令和 2 年 10 月 22 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(給食献立について、職員異動について)	10 名
令和 2 年 11 月 17 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(クリスマス会について、給食会議担当変更について、残った食材について)	11 名
令和 2 年 12 月 17 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(Line ワークスについて、生ゴミバケツの保管場所について)	9 名
令和 3 年 1 月 21 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(生ゴミバケツの保管場所について)	10 名
令和 3 年 2 月 18 日	・利用者について・必要な調理器具について・システムについて・献立等について・衛生面について・行事・その他(ゴミの分別について、調理員 Line ワークスについて)	9 名
令和 3 年 3 月 18 日	・栄養士不在につき未実施	0 名

(8) 入院状況

病院名	診療科目	症状・病名	入院日	退院日	日数
厚生病院	内科	誤嚥性肺炎・脱水	5月24日	6月8日	14
森山病院	脳神経外科	てんかん発作	8月19日	9月2日	11

(9) 通院状況

病院名	診療科目	計(人)	病院名	診療科目	計(人)
浅井医院	内科	9	永山腎泌尿器科 CL	泌尿器科	7
旭川赤十字病院	泌尿器科	4	なかの呼吸器内科 CL	呼吸器内科	4
	脳神経外科	1	たかはし整形外科 CL	整形外科	3
市立病院	皮膚科	6	森山病院	外科	8
	循環器内科	2	森山メモリアル病院	整形外科	9
旭川医療センター	神経内科	15	片山整形 CL	整形外科	3
林歯科	歯科	15	いまだ耳鼻科	耳鼻科	4
鷹栖歯科	歯科	1	もとまち皮膚科 CL	皮膚科	4
くりやま歯科	歯科	1			

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 地域密着特別養護老人ホーム ぬくもりの家 えん

(評価基準) S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

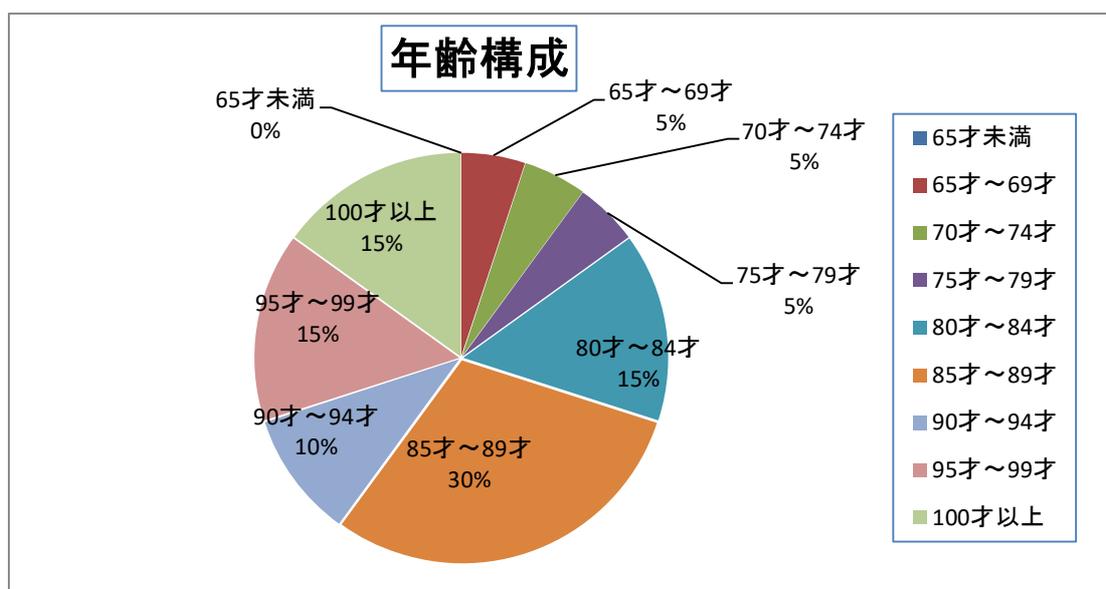
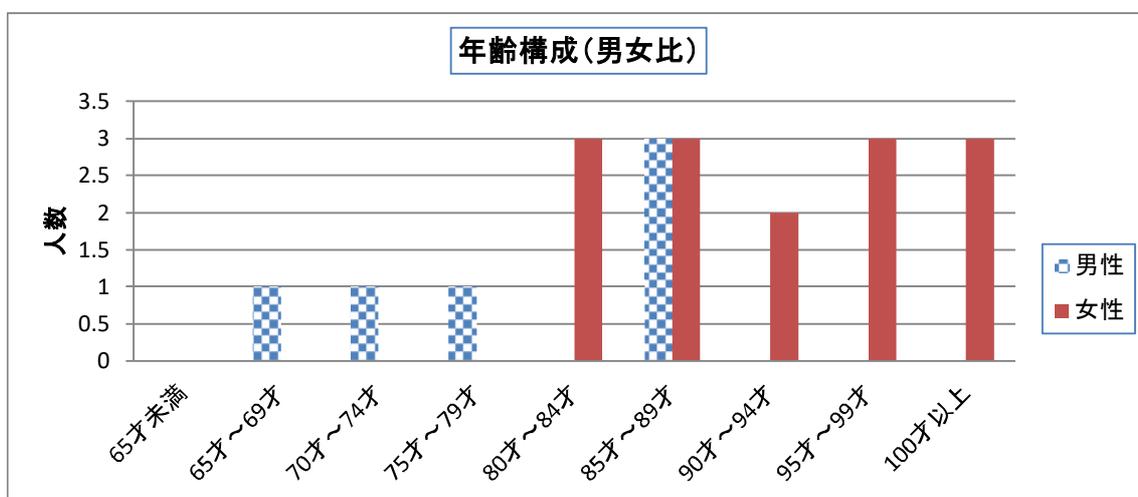
事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取り組み内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容			
					計画	実施	計画	実施	計画	実施			計画	実施	計画	実施	計画	実施				計画	実施	
13	(3)	新任・現任職員の育成と働きやすく、チームワークの高い職場の風土づくり	①目標を明確にし、研修とOJT内容の個人差がないように統一し、安心して仕事ができるよう新人職員を育成。	課長 主任 リーダー エルダー	計画					6ヶ月面談		対象者なし						12ヶ月面談			・新任職員の退職ゼロ。		対象者なし。	
14			②基礎介護知識・技術を段階別に行い、重度化対応や根拠に基づくケアを実践する。 ③すべての職員が気持ち良い接遇ができる。 ④現任職員が目標を持ち、仕事にやりがいと充実感を持てるよう育成する。	課長 課長補佐 主任 リーダー	計画		救急救命 研修(たか ほ合同)	マナーモ ラル研修 定期面談	全道老人 福祉施設 研究発表 大会	ターミナ ルケア研 修	認知症実践 リーダー研 修 ユニットリ ーダー研修	C	予定していた外部研修の多くが中止となった。9月からの基礎介護研修は実施され受講することができている。	認知症実践者研修	基礎介護研修① 定期面談(後期) 道北老協協 会介護職員 研修	基礎介護研修②	基礎介護研修③	光臨ケア研究会 基礎介護研 修④ 虐待予防研 修	サービス向上発表会			・現任職員が研修等を通じて成長ができる。 ・すべての職員が気持ちの良い接遇ができる。 ・現任職員の退職ゼロ	C	予定していた外部研修の多くは中止となる。基礎介護研修も12月以降は延期のため受講できず。先端ケア研究会はオンラインにて参加。
15			⑤業務改善により安心して働ける職場環境をつくる。 ⑥介護負担の軽減と業務の効率化を図るため、介護ロボット等の導入とICT・IOT化の検証。 ⑦有給休暇と連休の取得を推進。	課長補佐 主任	計画	業務改善・ オペレー ション見直し 連休の取得 書類の整理	→	→	→	介護ロ ボット等の 導入検証 ①	介護ロ ボット等の 導入検証 ②	B	介護ロボットの導入やICT推進は継続的に検証。有給休暇は計画的に取得できている。	業務改善・オペレーション見直し連休の取得	→	→	→	→	→			・業務改善を随時行い、働きやすい環境をつくる。 ・介護ロボットの導入やIOT・ICTの活用により労働環境を向上する。 ・常勤職員全員が7連休を取得できる。 ・退職者ゼロ。	A	業務改善を随時行い、介護ロボット(ハグ)を導入することで労働環境を向上できた。リフレッシュ休暇は常勤職員全員取得。
16			(5)	適正収益の確保	①ケアの質向上により入院者を減少させ、目標稼働率を達成する。 ②全職員がコスト意識を持ち、消耗品費高熱水費の節約に努める。 ③新たな加算を取得。	課長 主任 リーダー おむつ担当	計画	業績・収 支状況確認 (毎月継続)	搾糖マネ ジメント加 算の取得	排せつ支 援加算の 取得	→	→	上半期評価	A	前期平均稼働率99.2%。 入院日数 28日間(167) 入院延べ人数4名(15) 入院実人数2名(7) 目標 50,540,077円に対し 実績 52,885,879円(+2,669,379円)	業績・収 支状況確認 (毎月継続)	→	→	→	→	年間報告		・稼働率98%目標達成。(目標介護保険収入100,408,130円) ・毎月の業績を確認する。 ・消耗品の支出を確認し、コスト意識を高める。(おむつ、電気、水道、灯油使用量-3%) ・新たな加算を取得する。	A

令和2年度 地域密着型特別養護老人ホーム
ぬくもりの家えん
現況報告書

(自：令和2年4月1日 ～ 至：令和3年3月31日)

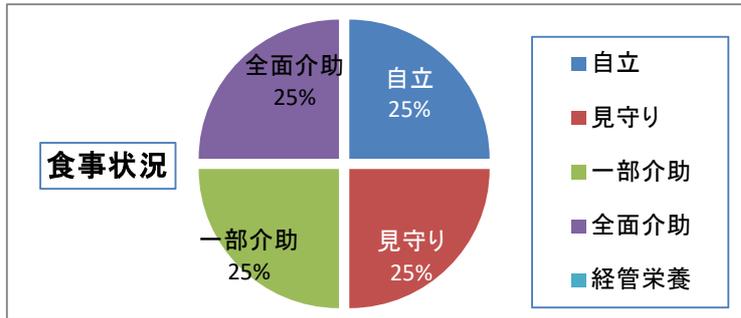
1.入居者年齢構成(令和3年3月31日現在)

	在籍者			【最高年齢】 男性 88歳 女性 103歳 【最低年齢】 男性 65歳 女性 83歳 【平均年齢】 男性 79.2歳 女性 92.6歳 全体 88.5歳
	男性	女性	計	
65才未満	0	0	0	
65才～69才	1	0	1	
70才～74才	1	0	1	
75才～79才	1	0	1	
80才～84才	0	3	3	
85才～89才	3	3	6	
90才～94才	0	2	2	
95才～99才	0	3	3	
100才以上	0	3	3	
計	6	14	20	



2.食事状況(令和3年3月31日現在)

	自立	見守り	一部介助	全面介助	経管栄養	合計
男性	1	2	0	3	0	6
女性	4	3	5	2	0	14
合計	5	5	5	5	0	20



3.移動状況(令和3年3月31日現在)

	歩行		杖	歩行器など		車いす使用		合計
	自立	要介助	自立	自立	要介助	自立	要介助	
男性	1	0	0	0	0	2	3	6
女性	0	2	0	0	0	3	9	14
合計	1	2	0	0	0	5	12	20

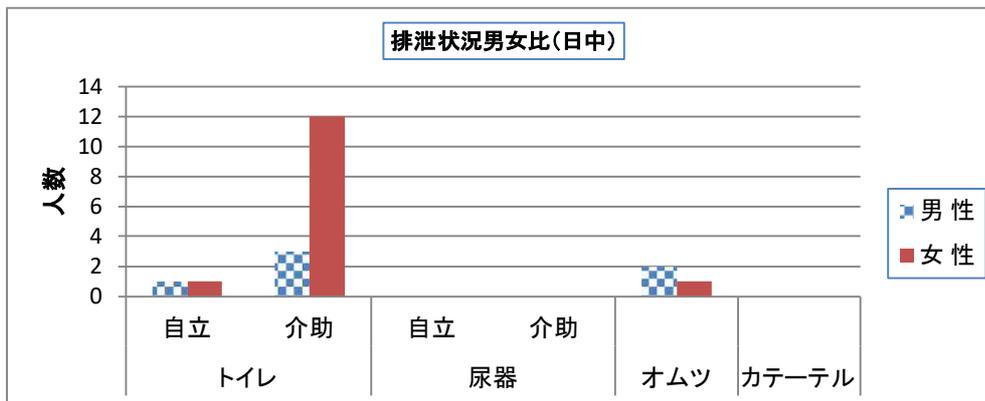
4.入浴状況(令和3年3月31日現在)

	一般浴		車いす浴	合計
	自立	介助		
男性	0	2	4	6
女性	0	7	7	14
合計	0	9	11	20

5.排泄状況(令和3年3月31日現在)

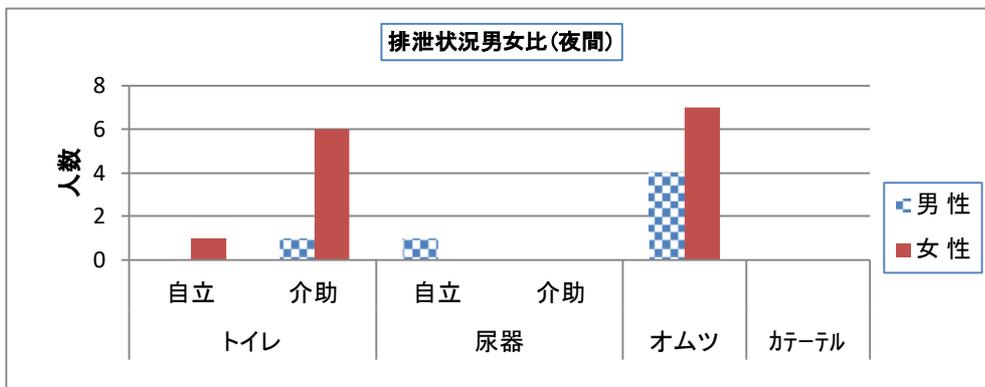
日中

	トイレ		尿器		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
男性	1	3	0	0	2	0	6
女性	1	12	0	0	1	0	14
計	2	15	0	0	3	0	20



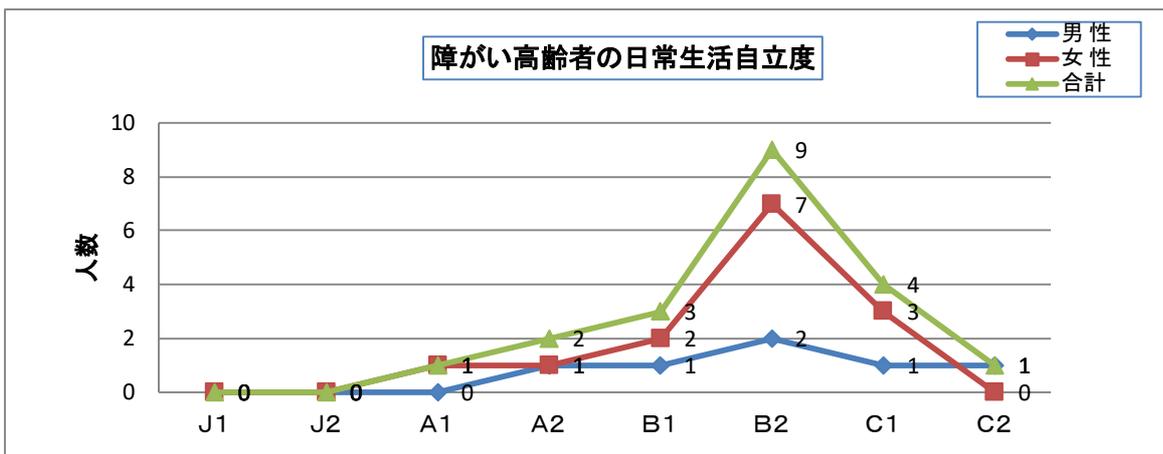
夜間

	トイレ		尿器		オムツ	カテーテル	計
	自立	介助	自立	介助			
男性	0	1	1	0	4	0	6
女性	1	6	0	0	7	0	14
計	1	7	1	0	11	0	20



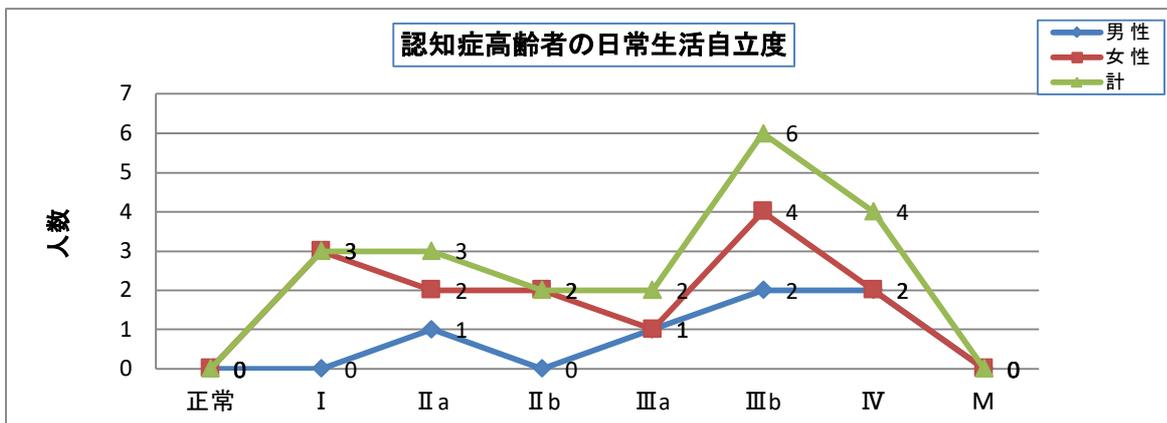
6.身体状況(障がい高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定)

	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	計
男性	0	0	0	1	1	2	1	1	6
女性	0	0	1	1	2	7	3	0	14
合計	0	0	1	2	3	9	4	1	20



7.認知症状況(認知症高齢者の日常生活自立度判定)

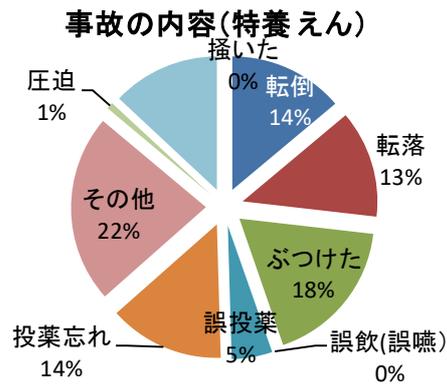
	正常	I	II a	II b	III a	III b	IV	M	計
男性	0	0	1	0	1	2	2	0	6
女性	0	3	2	2	1	4	2	0	14
計	0	3	3	2	2	6	4	0	20



8.事故の状況

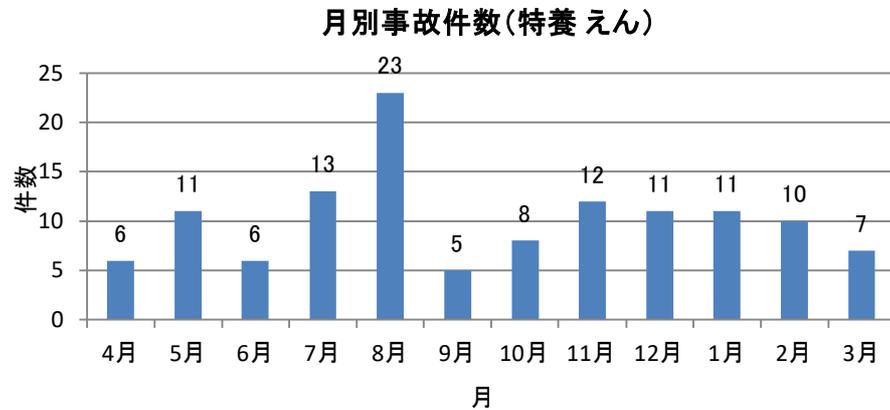
(1)内容

内 容	件数
転倒	17
転落	16
ぶつけた	22
誤飲(誤嚥)	0
誤投薬	6
投薬忘れ	17
異食	0
その他	28
圧迫	1
掻いた	0
不明	16
	123



(2)月別発生件数

発生月	件数
4月	6
5月	11
6月	6
7月	13
8月	23
9月	5
10月	8
11月	12
12月	11
1月	11
2月	10
3月	7
	123



(3)けがの程度

程 度	件数
無傷	42
発赤(後に消失)	2
擦り傷	7
切り傷	1
内出血	35
やけど	0
腫れ	0
骨折	2
死亡	0
その他	19
打撲	0
表皮剥離	9
出血	6
打撲、裂傷、腫れ	0
	123

9. 入院状況

	病院名	診療科目	症状・病名	入院日	退院日	日数
1	厚生病院	内科	誤嚥性肺炎・脱水	5月24日	6月8日	15
2	森山病院	脳外科	てんかん発作	8月19日	9月2日	13
						28

10. 通院状況

病院名	診療科目	計(人)	病院名	診療科目	計(人)
浅井医院	内科	9	永山腎泌尿器科CL	泌尿器科	7
旭川赤十字病院	泌尿器科	4	なかの呼吸器内科CL	呼吸器内科	4
	脳神経外科	1	たかはし整形外科CL	整形外科	3
市立病院	皮膚科	6	森山病院	外科	8
	循環器内科	2	森山メモリアル病院	整形外科	9
旭川医療センター	神経内科	15	片山整形CL	整形外科	3
林歯科	歯科	15	いまだ耳鼻科	耳鼻科	4
鷹栖歯科	歯科	1	もとまち皮膚科CL	皮膚科	4
くりやま歯科	歯科	1			

令和2年度 小規模多機能ホームぬくもりの家えん事業報告

1. 総括

新型コロナウイルスの流行により、感染症予防対策として、毎日の消毒、食事席のパーティションの設置、個人防護服の着脱訓練を行った。また、ご家族による毎日の健康観察、職員ひとり一人が意識した日常生活を送っていることで、利用者・職員共に感染者はなかった。

コロナ禍のため、年度当初計画していた外出を含む多くの行事が中止となった。しかし、職員自ら計画した行事も多くあり、少しでも利用様に楽しんでもらいたいと工夫し、大盛況となった。利用者の喜びだけでなく、スタッフのモチベーションにも繋がった。満足度調査においても、76%の利用者はレクリエーションが楽しいと感じており、更なる充実を図っていききたい。

医療と介護の連携により入院による停止者を増やさないと目標に掲げていたが、循環器疾患が悪化し3名が停止となった。脱水や栄養状態の悪化からの入院者はいなかったが、既往や現病歴からの予測や体調を管理し、医療機関との連携の必要性を再確認した。

介護過程の展開を通して、体重・食事量減少者のケースについて、管理栄養士とカンファレンスを実施。ご家族とも連携し、方向性を明確にしたことで改善することができた。

事故予防は、リスクマネジメント委員会を中心に「昨年度より事故件数20%減少」と「薬に関する事故を50%減少」を目標に取り組んだ。チェック体制の見直しと事故の検証により、事故件数では55件が30件と45%の減少。薬の事故に関しては、29件が11件と62%減少した。今後も継続し対応する。

今年度も自立支援・在宅生活が継続できることを目指し、認知症予防の学習療法(4名)と、ADL維持向上のため毎日の集団体操・嚙下体操を行った。学習療法サポーターがコロナ禍のため休止となったが、継続した支援が行えるよう法人内他事業所と協働し、スタッフ全員の学習療法実践士研修を行った。

働きやすい職場を目指しリフレッシュを目的に、7連休・有給取得を計画・実施することができた。育児休暇中のスタッフがいる中、チームとして協力し合い、退職者はいなかった。

今年度の新規利用者は10名(法人居宅の紹介7名、鷹栖町地域包括支援センター3名)。

法人内居宅からの紹介が半数を超えており、定期的な情報共有の機会をつくることが有効だったと考える。

月平均登録者数は24.0名と目標の23.5名に達し、介護保険事業収入は58,919,862円(前年比 +102.2%)と、昨年度を上回る収益を確保することができた。

2. 次年度に向けて

令和3年度は、重点目標を①コロナ禍の中、感染対策を継続し、小規模多機能サービ

スの内容を充実させ、目標利用者を確保する②健康管理を徹底し、地域・自宅で生活し続けられるケアの提供③適正利益の確保の3つに取り組む。

アクティビティに関する要望が高いことから、今後も、アクティビティの内容を充実させ、通うのが楽しみになる魅力ある事業所づくりを最重要課題として取り組む。

介護過程の展開を通して、日々気づいたことを話し合えるチームをつくり、各職員が責任を持ち、チームとしての力が発揮できる職場づくりを目指す。

適正利益の確保のため登録数は、平均登録者数 23.5 名とする。同法人内居宅との連携を密にし、地域への周知活動と、医療機関等との連携を図り、新規利用者の確保に努める。

3. 運営状況・統計資料

<事業活動の統計・データ>

(1) 小規模多機能ホーム会議開催状況

月 日	議 題 内 容	出席者
4月1日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・オペレーションについて・モニタリング	7名
5月13日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて 事故の検討・新型コロナ感染対応について・朝市中止について	9名
6月10日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・行事計画・委員会について・	9名
7月8日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・行事計画・委員会について	9名
8月5日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・行事計画・委員会について	9名
9月9日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・業務について・オペレーションについて	9名
10月7日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・業務について	9名
11月4日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・医療について・車輛事故について	8名
12月9日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・事故の検討・オペレーション・医療について・介護過程の展開	9名
1月6日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・モニタリング・医療について・介護過程の展開	9名
2月3日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・オペレーションについて・医療について・介護過程の展開	9名

3月3日	ケースカンファレンス・レクリエーションについて・モニタリング・医療について・介護過程の展開	9名
------	---	----

(2) 小規模多機能ホーム行事活動報告

日 時	行 事 名	場 所
5/1	開設記念日	てくてく
5/3～5/5	菖蒲湯	小規模
6/12	花壇整備	
7/28・31	えん祭	てくてく
8/4	味覚祭	てくてく
10/27～29	りんご湯	小規模
12/18	年忘れゲーム大会	てくてく
12/21～23	ゆず湯	小規模
12/24	クリスマス会	てくてく
1/5～7	初詣	鷹栖神社
2/2・3	豆まき	てくてく
3/3	ひな祭り	小規模リビング

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 小規模多機能ホーム めくもりの家 えん

[評価基準]S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待通りの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	4月									中間評価	評価内容	ゴール(達成目標)						最終評価	評価内容
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			1月	2月	3月					
1			①看護職員と介護職員と栄養士と連携を図り、日々の健康管理を適切に行う。(水分・必要栄養量の確認と把握) 医療と介護の連携により、入院による停止者を増やさない。(R1 2件 → 2件)	課長 課長補佐 主任 看護師	計画	ケアチェックとカンファレンス徹底	水分表・食事形態見直し	脱水予防研修	ハイリスク者の血液データ確認	ハイリスク者以外の血液データ確認	モニタリングダブルチェック	B	脱水・低栄養・誤嚥性肺炎による入院ゼロ。 ・脱水・低栄養・誤嚥性肺炎による入院による停止者は3名。循環器疾患の悪化から入院となった。日常の体調管理を今後も継続していく。	水分表・食事形態見直し	ハイリスク者の血液データ確認	ハイリスク者以外の血液データ確認	食事形態見直し	水分表・食事形態見直し	モニタリングダブルチェック	ゴール(達成目標)	C		
2			②事故発生時の検証を徹底し、同じ事故の再発を防止。特に薬に関する事故を前年度件数より-50% (R1 29件 → 12件) 家屋状況を確認し再発防止。	リーダー リスクマネジメント委員会	計画	事故検証再発防止	→ 家屋状況チェック	→ 家屋状況チェック	→ 家屋状況チェック	→	→	A	事故件数減少。事故件数前年同時期15件 40%減少 薬の事故件数前年同時期15件が7件 53%減少 転倒による入院無し	事故検証再発防止	→	→	→	→	→	ゴール(達成目標)	A	事故件数は55件が30件と45%の減少。薬の事故は29件が11件と62%減少する事が出来た。チェック体制の強化と事故検証が出来たためと考える。転倒による入院は無かった。	
3	(1) (2) (4)	健康で穏やかな生活を支えられるよう、多職種が連携し、根拠に基づいたケアを提供することで豊かな暮らしづくりを行う。	③褥瘡の予防、早期発見、発症時の適切なケアを実践。 ④褥瘡のアセスメント、モニタリングをケアプランと連動させて標準化する。	看護師 栄養士 リーダー	計画	褥瘡アセスメントの準備	褥瘡アセスメントケアプランの実行①(6名)	褥瘡アセスメントケアプランの実行②(6名)	褥瘡ケアの評価①(5名)	褥瘡ケアの評価②(5名)	褥瘡ケアの評価③(5名)	B	褥瘡の予防や早期発見・対応は実施しており、褥瘡発症者は無し。 ハイリスク者のケアプランには記載されているが標準化にはなっていない	褥瘡ケアの評価①(6名)	以降継続	以降継続	以降継続	以降継続	以降継続	ゴール(達成目標)	B	褥瘡の予防や早期発見・対応は実施しており、褥瘡発症者は無し。 褥瘡のリスクをスタッフ間にて情報は共有されているが標準化にはなっていない。	
4			⑤在宅生活を継続出来る様、訪問リハビリと連携し、自立支援を重視したケアを行う。	主任	計画	リハビリ対象者・内容検討	担当者会議開催	→	→	→	→	A	転倒による入院無し。訪問リハビリ導入や連携による介護度が改善。日常生活の過ごしやすくなっている。利用者がいる(1名)。	担当者会議開催	→	→	→	→	→	ゴール(達成目標)	A	転倒による入院無し。訪問リハビリ導入や連携により介護度が改善。日常生活の過ごしやすくなっている利用者がいる(1名)。	
5			⑥便秘を予防し下剤を減らす取り組みを計画、実践し排便ケアマネジメントを標準化する。	看護師 栄養士 リーダー	計画	下剤使用者の確認	排せつに関するアセスメント準備	→	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	B	排せつアセスメントは実施できていないが、ファイバー使用・ふんばる君使用により排便が促されている。	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	排せつアセスメントの実施(3名)	モニタリング	ゴール(達成目標)	B	排せつアセスメントは実施できていないが、ファイバー使用・ふんばる君使用により排便が促されている。刺激性下剤使用者は3名。	
6			⑦退院支援のシステム化を行い、入院時、迅速な状況把握を行い、在宅復帰への支援を提供する。	主任	計画	入院発生時の対応マニュアル作成	入院発生時の対応実施	→	→	→	→	C	退院支援のシステム作りは出来ていない。入院1週間以内に相談室と連携を行う。入院中支援マニュアル作成し実施。	入院発生時対応実施	→	→	→	→	→	ゴール(達成目標)	C	退院支援のシステム作りは出来ていない。入院1週間以内に相談室への調整は実施している。面会はコロナ禍のため実施出来ず。	
7	(2)	リスクマネジメントの強化と緊急時の体制づくり	①感染症対策委員会と連携しながら、コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザの、食中毒等の感染予防に努める。 ②感染症発症者が在宅では対応困難な場合の対応策と支援内容の明確化 ③地域との連携による緊急時(火災・行方不明)の体制の確認と訓練の実施を行う(年1回)	主任 看護師 栄養士	計画	感染症研修(新任)	避難訓練(日中想定)	感染症発症時に在宅対応困難者への対応策マニュアル作成	→	→	→	B	集団感染はしていない。法人全体として対応マニュアル作成されている。	感染症対策確認 加湿器設置 避難訓練(夜間想定)	インフルエンザ予防接種 感染予防強化	→	→	年間報告	ゴール(達成目標)	A	集団感染はしていない。法人全体として対応マニュアル作成されている。コロナ禍の中で職員ひとり一人が意識した日常生活を送っていることで、感染は無かった。		

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 小規模多機能ホーム めくもりの家 えん

[評価基準]S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容
8			①食中毒対策を厳守し、安全な食事を提供。	栄養士調理員 感染症対策委員会	計画 実施			食中毒予 防研修 (法人) 実施済	給食会議 での確認 (毎月) 実施済	給食会議 での確認 (毎月) 実施済	給食会議 での確認 (毎月) 実施済	B	食中毒 感染者 ゼロ。	給食会議 での確認 (毎月) 実施済	給食会議 での確認 (毎月) 実施済	給食会議 での確認 (毎月) 実施済	給食会議 での確認 (毎月) 実施済	給食会議 での確認 (毎月) 実施済	14年間の モニタリ ング	・食中毒感染者ゼロ。	B	食中毒感染者ゼロ。
9			②摂食障害者、ターミナル期の方への適切な食事形態や提示方法の提案・実践。	栄養士 看護師 リーダー	計画 実施	食事形態 見直し 適温確認	食事形態 見直し 適温確認	食事形態 見直し 適温確認	食事形態 見直し 適温確認	食事形態 見直し 適温確認	食事形態 見直し 適温確認	B	食事形 態は必 要時見 直しし ている。	食事形態 見直し 適温確認	食事形態 見直し 適温確認	食事形態 見直し 適温確認	食事形態 見直し 適温確認	食事形態 見直し 適温確認	食事形態 見直し 適温確認	・食事形態の多様化により、全員経口 摂取ができる。 ・適時適温ができ、満足度調査80% 満足が得られる。	B	全員経口摂取出来ており、必要に 応じて、形態は見直しをしている。 満足度調査にて、食事は美味しいと 81%が評価している。
10	(1) (4)	安全で美味しく楽しい食事の提供	③栄養スクリーニングを行い、年齢、病状、家庭の状況をもとに摂食状況、活動量を維持できる食事の提供を多職種連携で実施する。	栄養士 調理員 主任	計画 実施	ケアマネジ メント カンファレン ス 評価	→	→	→	→	→	A	食重量減 少者のカ ンファレン スを行い 、管理栄養 士と連携 し改善す ることが出 てきた。家 庭の状況 に応じて 家族とも 連携が出 てきた。	→	→	→	→	→	・状態や健康状態に合わせた食事提 供を実施できる。	A	前期と同様に、食重量減少者のカン ファレンスを行い、管理栄養士と連 携し改善することが出来た。家庭の 状況に応じて家族とも連携が出来 た。	
11			⑤利用者の嗜好を取り入れた季節感のある食事、行事食の計画・実施。満足度調査による評価の実施。	栄養士 調理員 アクティ ビティ 委員会	計画 実施	開設記 念 こどもの 日 憲法記 念日	買い物 外食	海の日 流しソ ーメン	お盆 北野神 社祭	敬老の 日 秋分の日	敬老の 日 秋分の日	S	コロナ禍 の中、外 出を含む 行事が中 止となっ た。少し でも利用 者を楽し んで貰っ たいと企 画した。食 祭・味覚 祭は成 功だった。	体育の日 出前の日	文化の日 勤労感謝 の日	クリスマス 忘年会 天皇誕 生日	おせち 料理 成人の日	節分 建国記 念日	ひな祭り 春分の日	・年間計画に基づいた行事食の実施。 ・満足度調査を実施し、食事に関して 80%が良いの評価を得る。	S	コロナ禍のため外出行事は実施出 来なかったが、日々を楽しんでいた だけ行事や食事は工夫した。 満足度調査にて、食事は美味しいと 81%が評価している。
12			①日々の生活の中にご利用者と職員が共に喜びや楽しみが感じられる行事を取り入れ、思い出をつくる。 ②地域の方々やご家族と共に楽しむことのできる行事を実施。	課長補 佐 主任 リーダー 担当	計画 実施	花見 チャレ ンジャー 畑作り	買い物 運動会 見学	さつき祭 流しソ ーメン	夕涼み会 北野神社 祭 東照宮ボ ル ス 手作りお やつ	買い物 手作り昼 食	買い物 手作り昼 食	S	手作りお やつ	手作り昼 食	クリスマス 会 餅つき忘 年会	手作りお やつ	豆まき 手作り昼 食	ひな祭り 手作りお やつ 年間報 告	・ご利用者やご家族が楽しく、笑顔あ ふれる思い出ができる。 ・職員も楽しむことができる行事の実 施。 ・ブログを計画通りアップする。 ・ボランティアに感謝の気持ちを伝える ことができる。	S	コロナ禍の中、ご家族やボランティアと共に過ごす機会 をつくることは出来なかったが、行事を工夫しスタッフも 共に楽しむことが出来た。満足度調査においても76% が楽しいと回答している。 ブログも行事毎に総合欄と一緒にアップした。 ボランティアへも感謝のメッセージを出すことが出来た。	
13			③利用者・家族に成果の見えるアクティビティの実施。	アクティ ビティ委 員会	計画 実施		創作系ア クティビ ティ計画 作成	創作系ア クティビ ティの実 施	楽習診断 評価	創作系ア クティビ ティの実 施	創作系ア クティビ ティの実 施	S	毎月作 成した物 は、壁に 掲示し、 利用者	創作系ア クティビ ティの実 施	創作系ア クティビ ティの実 施	創作系ア クティビ ティの実 施	楽習診断 評価	創作系ア クティビ ティの実 施	・満足度調査を実施し、80%が良いの 評価。	S	満足度調査では76%が楽しいと回答し ている。 毎月の創作物は掲示され、利用者の楽し みになっており、自宅への持ち帰り、ご 家族と話題を共有するきっかけになっ ている。	
14	(1)	平穏で楽しみや喜びのある暮らしづくり	④介護過程の展開を担当者が行い、個々の生活が穏やかで楽しみのある暮らしづくり。	リーダー 主任 各担当	計画 実施	介護過 程の展 開の継 続実施	→	→	各担当が モニタリ ング プランの 立案	→	→	C	介護過 程は実 施して いるが、 介護過 程の展 開は実 施でき ていな い。	介護過 程の展 開ス ケジュ ール作 成	介護過 程の展 開2名 ずつ実 施	介護過 程の展 開2名 ずつ実 施	介護過 程の展 開3名 ずつ実 施	介護過 程の展 開3名 ずつ実 施	・スタッフが担当利用者1名の介護過 程の展開ができる。 ・再アセスメントからケアプランの立案 まで担当スタッフができるようになる。	A	介護過程の展開の開始は後期に なったが、利用者1名ずつ実施する 事が出来、疾患の理解やケア内容 の変更につながっている。	
15			⑤共有スペースの整理整頓と潤いのある生活環境づくり。 ⑥心地よい環境づくりと清潔・整理整頓の維持。	環境委 員会 リーダー	計画 実施	春のしゅ らえ 居室 環境確認 (以降継 続)	→	夏の準 備	夏のしゅ らえ	秋の準 備 ワックス かけ	秋のしゅ らえ 委員会 活動報 告	B	定期的 に実施 出来て いる。	冬の準 備	冬のしゅ らえ			年間報 告	・季節に合わせた環境作りと入居者の 居室環境を清潔に維持することができる。	B	定期的に実施出来ている。	

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 小規模多機能ホーム めくもりの家 えん

[評価基準] S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待通りの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	評価内容	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容
16	(3)	ご家族・住民との協働	①地域住民の学習療法サポーターの育成を行い、役割と生きがいをつくる。また、サポーター間の意見交換や実施報告等の機会を設ける。	主任担当	計画						味覚祭とボランティアの交流会		C	コロナ禍の為、ボランティアとの交流は実施出来ていない。					学習療法サポーター交流会	友の会総会にて報告	C	コロナ禍のためボランティアとの交流や学習療法サポーター交流会の実施する事は出来なかった。
					実施																	
17			②2ヶ月に1回の運営推進会議開催と家族会・めくもり友の会・行政機関等の第三者からの意見や要望を取り入れた健全で地域に根付いた事業所運営を行う。	課長 課長補佐 主任	計画		運営推進会議			合同運営推進会議			B	コロナ流行による緊急事態宣言を受け、会議開催は延期している。合同での会議は今年度は実施しないこととした。		合同運営推進会議			運営推進会議	運営推進会議	B	コロナ流行による緊急事態宣言を受け、会議開催は延期していた。合同での会議は今年度は実施せず。会議は4回開催した。
					実施		未実施		未実施													
18			①目標を明確にし、研修とOJT内容の個人差がないように統一し、安心して仕事ができるよう新人職員を育成。	課長 主任リーダー	計画	1週間毎の面談	1週間毎の面談	新任職員研修 2週間毎の面談	面談	面談	6ヶ月面談		B	異動者に対して面談実施。						12ヶ月面談	B	新任職員はいなかったが、異動者に対して必要時、面談を行った。
					実施	対象者なし	対象者なし	異動者に対して面談実施	異動者に対して面談実施	異動者に対して面談実施	異動者に対して面談実施											
19	(4) (5)	新任・現任職員の育成と働きやすく、チームワークの高い職場の風土づくり	②基礎介護知識・技術を段階別に行い、重度化対応や根拠に基づくケアを実践する。 ③すべての職員が気持ち良い接客ができる。 ④現任職員が目標を持ち、仕事にやりがいと充実感が持てるよう育成する。	課長 課長補佐 主任リーダー	計画		救急救命研修(たかま合同)	マナーモラル研修 定期面談	全道老人福祉施設研究発表大会	ターミナルケア研修	認知症実践リーダー研修 ユニットリーダー研修		C	外部研修は未実施。定期面談は選りだした。定期面談は選りだした。	認知症実践者研修	基礎介護研修① 定期面談(後期) 進北老健協介護職員研修	基礎介護研修②	基礎介護研修③	先端ケア研究会 基礎介護研修④ 虐待予防研修	サービス向上発表会	S	外部研修は未実施。介護過程の展開を通して疾患や利用者の理解に繋がった。また、担当した行事や業務について自ら考え計画することができており、成長している。現任職員の退職ゼロ。
					実施		未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施			未実施	未実施	未実施	延期	延期	延期		
20			⑤業務改善(仕事の見える化、ファイリング、オペレーションの見直し等)により安心して働ける職場環境をつくる。 ⑥介護負担の軽減と業務の効率化を図るため、介護ロボット等の導入とICT・IOT化の検証。 ⑦有給休暇と連休の取得を推進。	課長補佐 主任	計画	業務改善・オペレーション見直し 連休の取得 書類の整理	→	→	→	介護ロボット等の導入 検証①	介護ロボット等の導入 検証②		B	介護ロボットの導入は出来ていない。業務改善は随時実施出来ている。7連休も取得出来ている。		→	→	→	→	→	B	介護ロボットの導入は出来ていない。業務改善は随時実施出来ている。7連休も取得出来ている。
					実施	実施済	実施済	実施済	実施済	未実施												
21	(6)	適正収益の確保	①利用者目標人数23.5名(R1 24.4名)。新規登録者8名を増やす。(目標介護保険事業収入56,390,451円) ②市内病院の相談室・老人保健施設を訪問し、新規利用に繋げる。 町内の児童民生委員総会にて説明会を開く(年1回) ③全職員がコスト意識を持ち、消耗品費高熱水費の節約に努める。	課長 主任リーダー	計画	業績・収支状況確認(毎月継続)	地域への啓発活動(児童民生委員総会)	啓発活動(病院・老人保健施設)	業績・収支状況確認(毎月継続)	→	→		A	啓発活動は実施出来ていないが、同法人内からの紹介により新規利用者5名、平均登録者数24.2名。目標介護保険事業収入57,668,127円を達成した。	業績・収支状況確認(毎月継続)	業績・収支状況確認(毎月継続)	業績・収支状況確認(毎月継続)	→	→	年間報告	A	登録者数23.5名目標達成。(目標介護保険収入56,390,451円) 毎月の業績を確認する。 地域への啓発活動が実施出来る。 消耗品の支出を確認し、コスト意識を高める。(電気、水道、灯油使用量-3%)
					実施	実施済	未実施	未実施	実施済	実施済	実施済	実施済			実施済	実施済	実施済	実施済	実施済	実施済		

令和2年度 小規模多機能ホーム

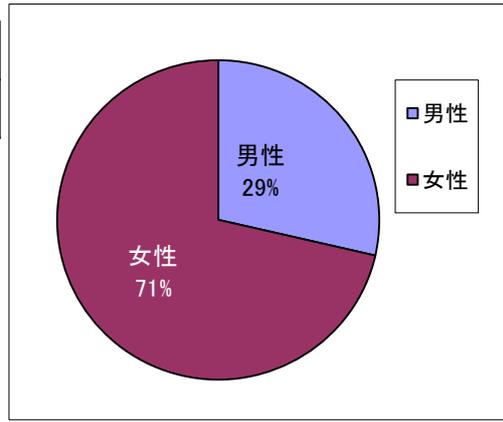
ぬくもりの家えん

現況報告書

(自：令和2年4月1日 ～ 至：令和3年3月31日)

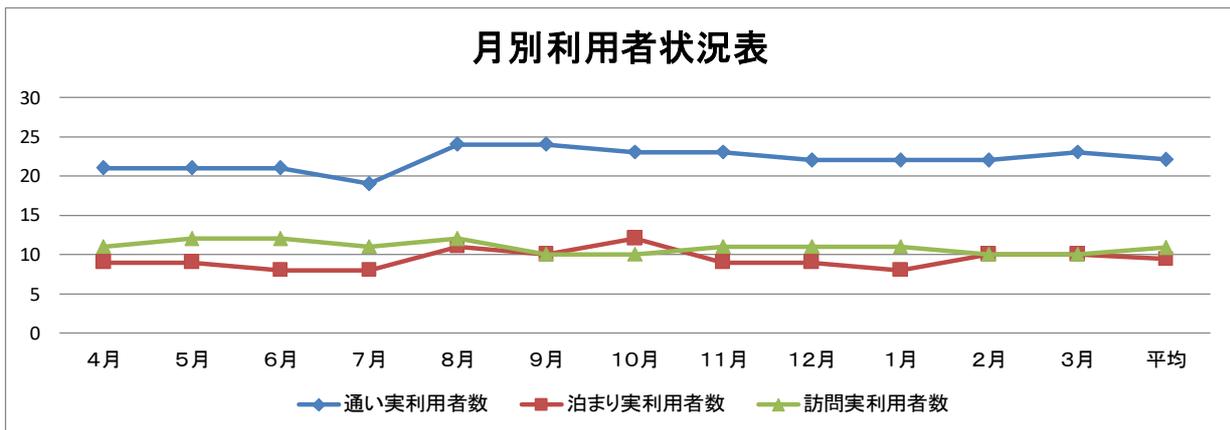
1. 利用登録者（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

男性	女性	合計
10	25	35



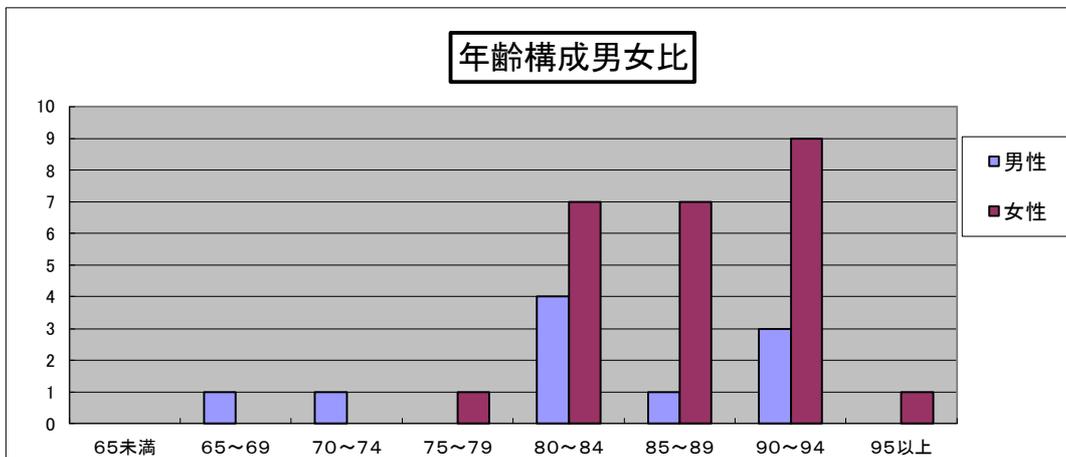
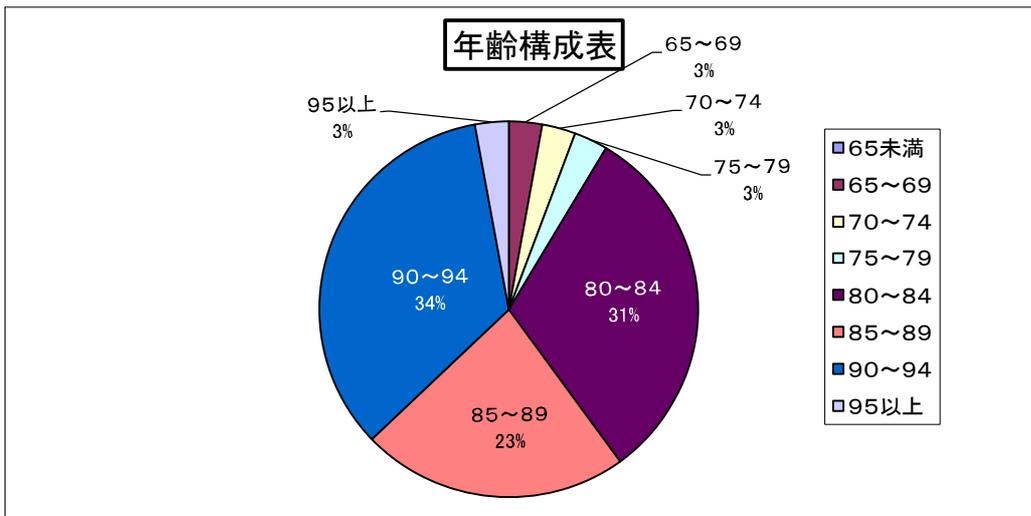
2. 月別利用者状況

月	通い実利用者数	泊まり実利用者数	訪問実利用者数	入院者	休止者	停止者
4月	21	9	11	2	0	1
5月	21	9	12	0	0	0
6月	21	8	12	0	0	3
7月	19	8	11	0	0	0
8月	24	11	12	0	0	2
9月	24	10	10	0	0	0
10月	23	12	10	0	0	1
11月	23	9	11	1	0	1
12月	22	9	11	1	0	0
1月	22	8	11	2	0	2
2月	22	10	10	0	0	0
3月	23	10	10	0	0	0
平均	22	9	11	1	0	1



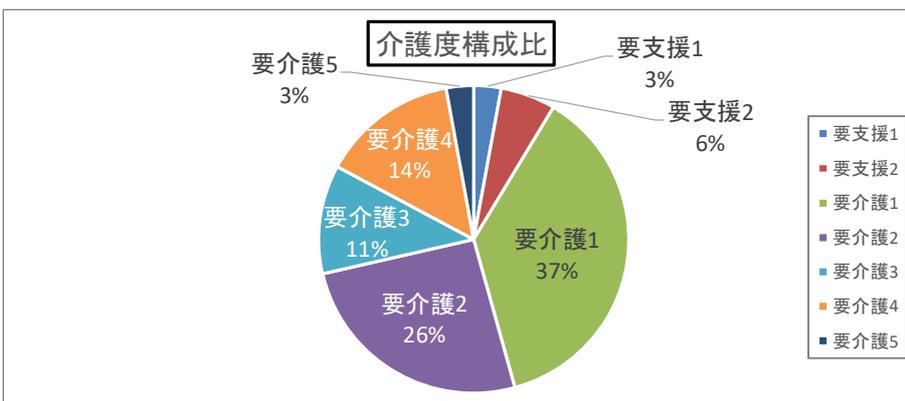
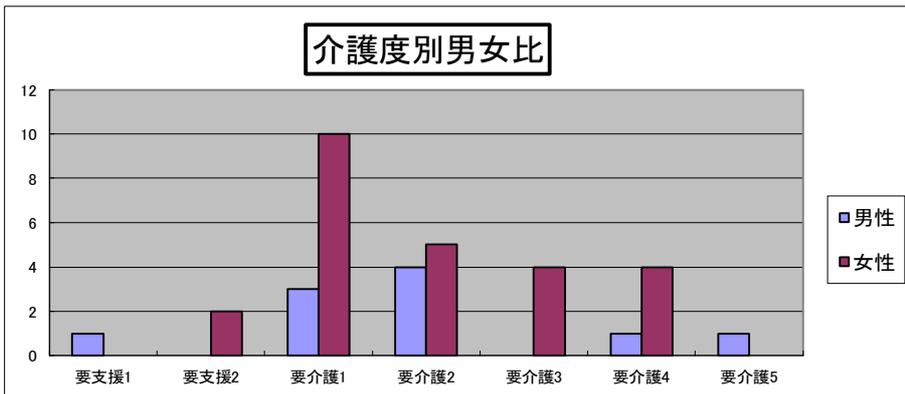
3. 年齡

	男性	女性	合計
65未満	0	0	0
65~69	1	0	1
70~74	1	0	1
75~79	0	1	1
80~84	4	7	11
85~89	1	7	8
90~94	3	9	12
95以上	0	1	1
合計	10	25	35
平均年齢	85.3	87.5	86.4
最高年齢	92	97	
最低年齢	65	79	



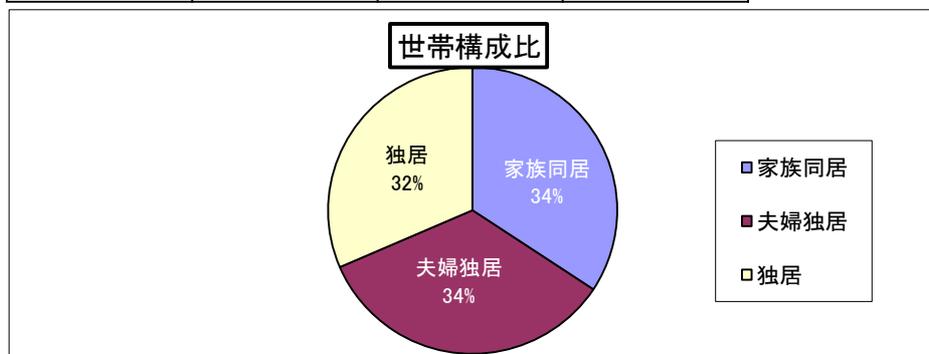
4. 要介護度別

	男性	女性	合計	構成比
要支援1	1	0	1	3%
要支援2	0	2	2	6%
要介護1	3	10	13	37%
要介護2	4	5	9	26%
要介護3	0	4	4	11%
要介護4	1	4	5	14%
要介護5	1	0	1	3%
合計	10	25	35	100%



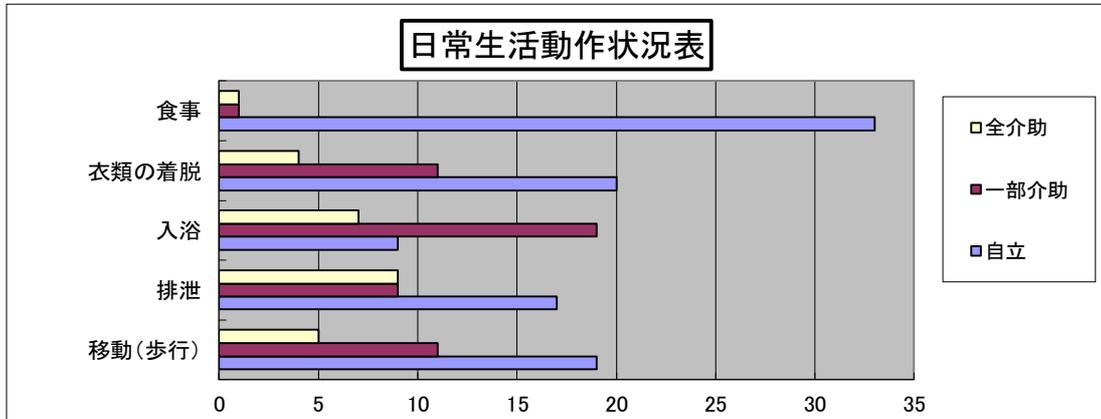
5. 世帯構成

家族同居	夫婦独居	独居	合計
12	12	11	35



6. ADL(日常生活動作)状況

	自立	一部介助	全介助	合計
移動(歩行)	19	11	5	35
排泄	17	9	9	35
入浴	9	19	7	35
衣類の着脱	20	11	4	35
食事	33	1	1	35

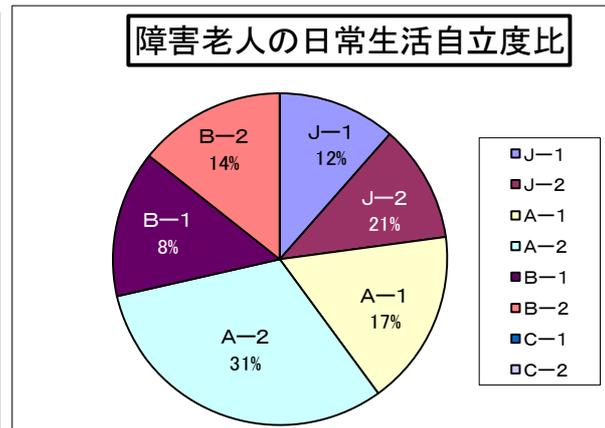
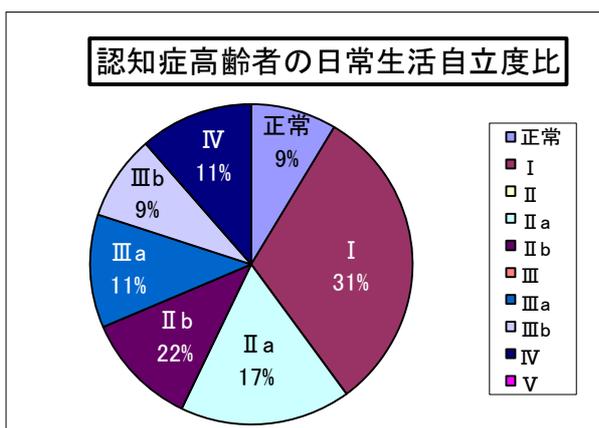


7. 認知症高齢者の日常生活自立度状況

認知度	人数
正常	3
I	11
II	0
II a	6
II b	4
III	0
III a	4
III b	3
IV	4
V	0
合計	35

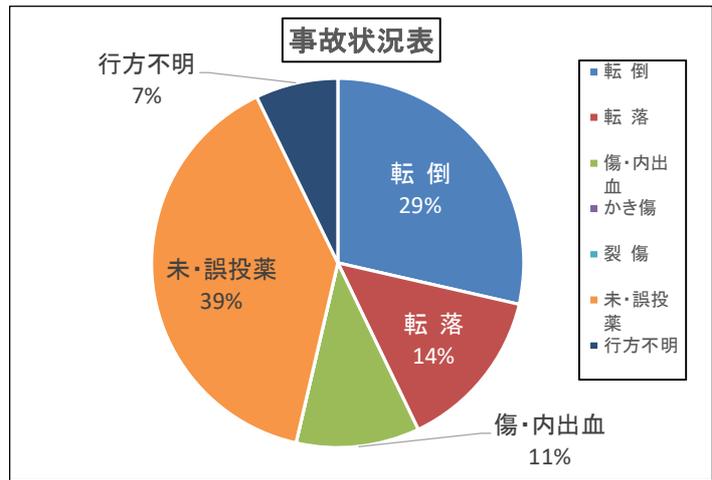
8. 障害老人の日常生活自立度

自立度	人数
J-1	4
J-2	4
A-1	6
A-2	11
B-1	5
B-2	5
C-1	0
C-2	0
合計	35



8. 事故状況

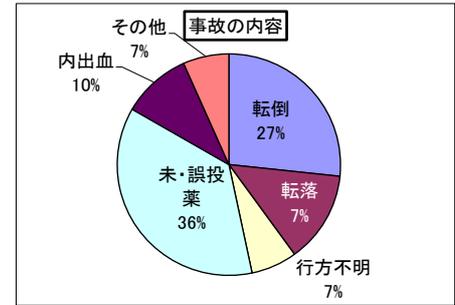
内容	件数
転倒	8
転落	4
傷・内出血	3
かき傷	0
裂傷	0
未・誤投薬	11
行方不明	2
その他	2
合計	30



令和2年度 事故発生状況

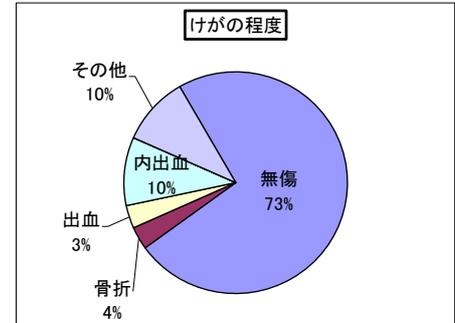
【事故の内容】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
転倒	8	1	2	0	0	0	0	2	0	0	0	1	2
転落	4	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1
行方不明	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
未・誤投薬	11	0	0	1	1	1	5	0	0	0	1	0	3
内出血	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
その他	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
合計	30	2	2	2	1	6	2	3	1	1	0	5	5



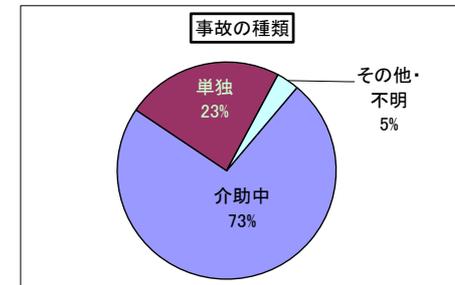
【けがの程度】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
無傷	22	1	2	1	1	5	1	3	0	1	0	4	3
骨折	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
出血	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内出血	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
やけど	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腫れた	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
合計	30	2	2	2	1	6	2	3	1	1	0	5	5



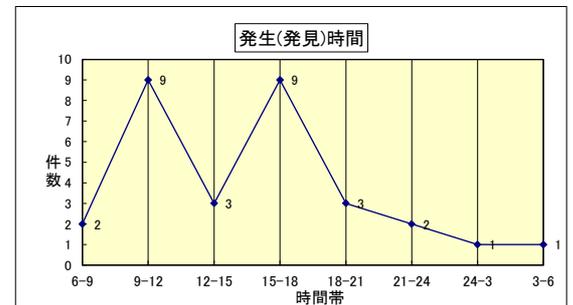
【事故の原因】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介助中	22	1	2	2	1	6	1	1	0	1	0	4	3
単独	7	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	1
自傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他または不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	30	2	2	2	1	6	2	3	1	1	0	5	5



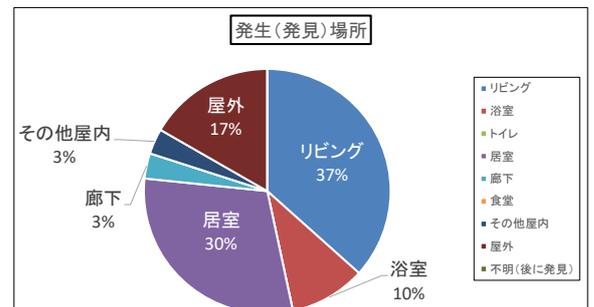
【発生(発見)時間】

時間	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6-9	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
9-12	9	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	4	1
12-15	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
15-18	9	0	1	1	0	1	1	2	0	1	0	0	2
18-21	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1
21-24	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
24-3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
3-6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	30	2	2	2	1	6	2	3	1	1	0	5	5



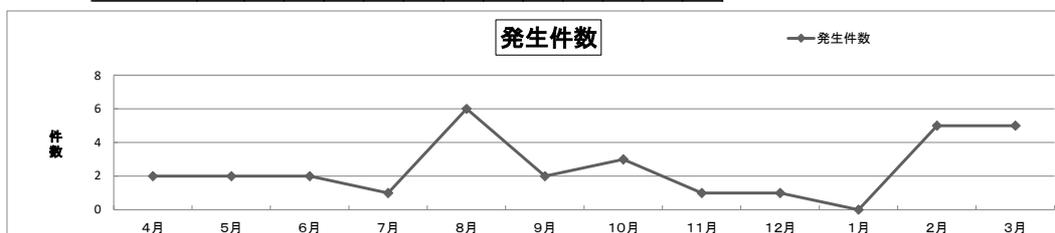
【発生(発見)場所】

場所	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リビング	11	0	1	0	0	3	0	0	1	0	0	3	3
浴室	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
トイレ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
居室	9	1	0	0	0	2	1	2	0	0	0	2	1
廊下	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食堂	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他屋内	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
屋外	5	1	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0
不明(後に発見)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	30	2	2	2	1	6	2	3	1	1	0	5	5



【事故発生・発見件数全体】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
発生件数	30	2	2	2	1	6	2	3	1	1	0	5	5
(受診をした件数)	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0



令和2年度 サービス付き高齢者向け住宅ぬくもりの家たかほ 事業報告

1. 総括（今年度の取り組みの成果）

「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」を基本方針とし、取り組んだ。

入居者のADL・QOLの向上については、平均要介護度でみると昨年度の1.00に対し、今年度は1.13と若干の上昇。要支援・要介護の割合に大きな変化はないが、状態に合わせて適宜区分変更を行ったことが要因のひとつと考えられる。今年度、開設後初めて入居者の死去による退居があり、体調悪化の前兆を見逃さないために、日々の入居者の状態観察から得られる情報を都度確認・検証することが重要であり、水分・食事の摂取状況を確認することから取り組む。

昨年度から継続してフィットネスクラブの活用推進、あったかすりハビリ体操教室やふまねっと教室の開催等、身体を動かす機会の提供と習慣につなげるための働きかけを行っていたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、教室の開催そのものが中止せざるを得ない状況が続いた。外出や他者との交流の自粛、地域での行事が軒並み中止となり、教室の開催再開には時間を要した。再開後の教室やふまねっと教室については参加率も安定しており、定期的な運動機会の確保ができています。フィットネスクラブの活用については都度声かけを行い、定期的な利用につながった入居者は3名だった。不定期ではあるが、入居者同士で声をかけあいフィットネスクラブを利用する場面もあった。引き続き法人PTとも連携し、入居者の健康管理と介護予防の知識の向上を図るための手段として利用促進をすすめる。

事故については、事故のない月が年間を通して2ヶ月のみで、多い月は5件発生した。今年度は総数28件で、昨年に比べ2件増えている。昨年度に引き続き同じ入居者の転倒・転落事故が目立ち、骨折に至る事故が3件にのぼった。事故は単独がほとんどであり、目の行き届かない場所（自室内）や時間の多いサ高住特有の傾向となっている。都度環境の見直しやサービスの入り方を検討・調整し、安全に過ごせる住環境の整備に取り組む。

全国的な新型コロナウイルス感染症の流行により、全入居者の検温を実施。入居者のインフルエンザ及び新型コロナウイルスの罹患はなく、毎日の消毒作業および入居者への衛生管理を徹底することの成果と考えている。引き続き入居者やサ高住（フィットネス・地域交流スペース利用者含む）に出入りする業者を含めた来訪者と全スタッフへの手洗い・うがいの励行、手指消毒、体調管理およびマスク着用の周知・徹底に努め、感染者を一人も出すことがないよう取り組む。

入院については年間の延べ入院者数は10名以内、年間入院延べ日数を150日以内とすることを目標に取り組んだ。延べ入院者数は年間で7名、年間入院延べ日数は73日とそれぞれ目標を大幅に上回る結果を得られた。引き続き個々の既往歴・現病歴の把握と疾患に対する理解に努め、かかりつけ医との情報共有・連携を強化する。

退居者は4名。内訳としては有料老人ホームへの転居、特別養護老人ホーム鷹栖さつき苑のロングショートステイ利用からの有料老人ホーム入居、小規模多機能から特別養護老

人ホーム鷹栖さつき苑のロングショートステイ利用、状態悪化による入院中の死去となっている。介護度が特別養護老人ホームの入居基準に満たない場合、旭川市内の有料老人ホームへ転居せざるを得ない状況にあり、住み慣れた地域での生活継続を支援するために必要なサービスの見極めを的確に行う必要がある。

食事の提供については、多くの入居者が自力での配膳・下膳を行うことができている。感染症の流行により黙食を余儀なくされ、食事に関する行事も中止となったため、入居者からは「寂しい」といった声があがった。感染症予防に努めながら食事を楽しめる工夫を模索し、安全・安心・楽しみのある食事の提供に努める。

入居者同士の関係性については良好な関係性を築けている一方で、部屋の行き来による密な空間での交流が増えており、感染症予防の観点からはリスクが生じやすい状況にある。入居者同士の交流は集団生活を送る上で楽しみのひとつであるため、状況をみながら適宜声をかけ密になりすぎない環境を整えていく。

適正利益の確保については、8月までは実績稼働率 100%を維持していたが、その後空室を埋めることができず、1~2月に続けて2名の退居者があり、平均稼働率は94.9%と目標を大きく下回った。待機者は最大で8名いたが、状態変化による待機登録の辞退や保留の返答が続き、待機者登録者はいても入居につながらない状況にあった。次年度の課題として、安定した待機者の確保及び定期的な意向確認を行うこと、状態変化がみられる入居者に対して迅速に住み替えの提案を行うことができるよう情報収集しておくことがあげられる。

2. 展望（次年度に向けて）

次年度に向けては、自立した生活が継続出来るよう、今年度同様 ADL・IADL・QOL の維持向上に努める。入居者が安心して長く暮らせる住宅としての機能を維持できるよう、必要なサービスを細かく見極め、迅速な対応を心がける。

役割のある暮らしについても、引き続き地域住民やサロンと連携しながら、個々の能力や興味のある事柄を見定めて活躍の場を提供する。

健康管理においては感染症予防対策の徹底を継続する。また、急変時の対応を迅速に行うことができるよう入居者の水分管理に取り組み、他事業所との連携を密にしながらい居者個々の健康面のサポート強化に努める。

事故に関しては骨折に至る事故ゼロを目指す。訪問リハビリや、福祉用具専門相談員、法人 PT の協力を得ながら個々の生活環境の見直しを適宜行うとともに、状況を見極めた早めの住み替えについても提案できるよう情報収集に努める。

適正利益の確保については、安定した待機登録者の確保と、次期入居者への打診を迅速に行うことにより空室期間の短縮を目指す。入居者確保のため、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所への営業活動を計画的に実施し、18名の入居を必達・維持することを目標とする（目標稼働率 97%、17.5 戸）。

3. 運営状況・統計資料

(1) 業績報告

①入居率

目標入居率 (A)	実際入居率 (B)	達成率(B)/(A)×100
17.5 名	17.1%	94.9%

②事業収入

目標収入 (A)	実際収入 (B)	差異(B)-(A)
27,496,000 円	28,369,724 円	873,724 円

(2) 行事

日 時	行 事 名	場 所
令和2年5月23日	町内会花植え	町内会花壇
令和2年6月11日	花壇整備	たかほ花壇
令和2年8月16日	納涼花火会	たかほ駐車場
令和3年2月2日	豆まき	各部屋・食堂

(3) たかほ会議 (計12回)

月 日	議題内容	参加人数
令和2年4月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 (区分変更申請、認知症状進行への対応、新規入居者 等) ・事業活動計画進捗状況 (今年度の活動計画書配布) ・設備管理 (自動ドア・エレベーター保安点検) ・今月、来月の予定 (コレカラ・あえーる休館) 	6名
令和2年5月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況 (区分変更申請、介護保険申請、ミールラウンド 等) ・事業活動計画進捗状況 ・設備管理 (電気保安点検) ・今月、来月の予定 (コレカラ・あえーる休館、特別給付金申請) 	7名

令和2年6月10日	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の状況（区分変更結果、更新結果、成年後見手続き、行方不明対応用チラシ作成 等） 事業活動計画進捗状況 設備管理（新型コロナウイルス感染症対応） 今月、来月の予定（支援員新規雇用） 	7名
令和2年7月8日	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の状況（退居予定、申請結果、区分変更申請 等） 事業活動計画進捗状況 設備管理（消防設備点検） 今月、来月の予定（会議出席者変更） 	7名
令和2年8月12日	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の状況（区分変更結果、退院後のサービス調整、転倒事故 等） 事業活動計画進捗状況 設備管理（漏電） 今月、来月の予定（地域食堂再開延期 等） 	4名
令和2年9月9日	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の状況（退居予定、サービス利用、食事姿勢の見直し 等） 事業活動計画進捗状況 設備管理（植木剪定、調理器具修理） 今月、来月の予定（外国人実習生宿泊受け入れ） 	4名
令和2年10月14日	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の状況（成年後見決定、退院後のサービス利用調整、食事姿勢の見直し 等） 事業活動計画進捗状況（営業方法） 設備管理（冬囲い依頼、消防設備点検点検 等） 今月、来月の予定（相談員勤務調整、調理員勤務） 	4名
令和2年11月18日	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の状況（サービス追加、感染症対応 等） 事業活動計画進捗状況（避難訓練） 設備管理（電気保安点検） 今月、来月の予定（介護報酬改定会議、大掃除分担 等） 	4名
令和2年12月9日	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の状況（薬の見直し、認知症状進行への対応 等） 事業活動計画進捗状況 設備管理（感染症対策グッズ） 今月、来月の予定（入居希望者の情報共有） 	5名
令和3年1月11日	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の状況（入院に至る経過の整理 等） 事業活動計画進捗状況 設備管理（ガス定期点検） 今月、来月の予定（営業活動、入居者の健康管理） 	5名

令和3年2月10日	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の状況（退居予定、サービス追加、退院後のサービス内容等） 事業活動計画進捗状況 設備管理（駐車場排雪） 今月、来月の予定（調理員見学、当直体験、入居募集チラシの作成、自動販売機撤去） 	5名
令和3年3月10日	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の状況（退居者について、認知症状進行への対応等） 事業活動計画進捗状況（行事の日程と詳細） 設備管理（電気保安点検、ハウスクリーニング） 今月、来月の予定（感染症によるコレカラ・あえーる休館、今後の予防対応策について） 	5名

（4）運営会議（計10回）

月 日	議題内容	参加人数
令和2年4月	新型コロナウイルス感染症予防のため中止	
令和2年5月	新型コロナウイルス感染症予防のため中止	
令和2年6月24日	<ul style="list-style-type: none"> 業績報告 業務改善（サ高住入居者の状況、7月からの総合事業体制） 今月、来月の予定（サ高住相談員新規雇用） 視察依頼、予定 	3名
令和2年7月30日	<ul style="list-style-type: none"> 業績報告 業務改善（コレカラの営業体制変更） 事故、ヒヤリハット（サ高住入居者1名） 今月、来月の予定（地域食堂の中止、コレカラ電話回線新設、ヘルパー管理者休み中の体制） 視察依頼、予定 	3名
令和2年8月27日	<ul style="list-style-type: none"> 業績報告 業務改善（サ高住入居者の状況、コレカラパーテーション設置） 事故、ヒヤリハット（サ高住入居者3名） 今月、来月の予定（サ高住漏電） 視察依頼、予定 	3名
令和2年9月24日	<ul style="list-style-type: none"> 業績報告 業務改善（サ高住入居者の状況、コレカラパーテーション設置） 事故、ヒヤリハット（サ高住入居者1名） 今月、来月の予定 視察依頼、予定 	3名

令和2年10月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・業績報告 ・業務改善（サ高住入居者の状況、コレカラ利用制限解除） ・事故、ヒヤリハット（サ高住入居者1名） ・今月、来月の予定（サ高住相談員・調理員の勤務） ・視察依頼、予定 	3名
令和2年11月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・業績報告 ・業務改善（サ高住入居者の状況） ・今月、来月の予定（大掃除日程） ・視察依頼、予定 	3名
令和2年12月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・業績報告 ・業務改善（サ高住入居者の状況） ・事故、ヒヤリハット（サ高住入居者1名） ・今月、来月の予定（コレカラ年末年始営業、消耗品補充） ・視察依頼、予定 	3名
令和3年1月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・業績報告 ・業務改善（サ高住入居者の状況） ・今月、来月の予定（高齢者ケア研究会日程確認） ・視察依頼、予定 	3名
令和3年2月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・業績報告 ・業務改善（サ高住入居者の状況、営業チラシ配布） ・今月、来月の予定（コレカラサッシ水漏れ修理、当直の清掃業務見直し） ・視察依頼、予定 	2名
令和3年3月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・業績報告 ・業務改善（サ高住入居者の状況） ・事故、ヒヤリハット（サ高住入居者1名） ・今月、来月の予定（サ高住調理員新規雇用、会議の統合） ・視察依頼、予定 	3名

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 サービス付き高齢者向け住宅 めくもりの家たかほ (評価基準)S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	実施期間												ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容				
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月				3月			
1	(1)	生活支援ならびに状況把握サービスの提供	①入居者一人ひとりに必要なサービス(介護保険サービス・有料サービスなど)を見極め、入居者・家族への提案や相談、関係各所との連携を速やかに行う。	佐藤米澤	計画	モニタリング 初回													C	滞滞なくケアマネジメント業務を行うことができる。	C	毎日の安否確認及び生活相談は実施。毎日の検温により、個々の平均体温を把握できた。	
			②入居者・家族同士と職員が意見交換や交流を図る機会を設ける。	佐藤米澤	計画															D	家族を交えた年1回の入居者懇親会(交流会)の開催。	D	新型コロナウイルス感染症の流行により、計画通りの実施ができなかった。
2	(1)	入居者の健康管理	①入居者へ向けた健康講座の実施(月1回、15分程度)。	佐藤米澤	計画	健康講座①	健康講座②	健康講座③	健康講座④	健康講座⑤	健康講座⑥		健康講座⑦	健康講座⑧	健康講座⑨	健康講座⑩	健康講座⑪	健康講座⑫		B	相談員があつたがすりハベリ体操教室の時間を利用して、10分程度の健康教室を企画・実施(6月までコロナウイルス感染症予防のため未実施)。		
			②アセスメントを徹底し、既往歴や現病歴から起こりうるリスクを念頭に置いて日々の体調確認を行う。	佐藤米澤	計画	防室時の体調確認、会議内カンファレンス																A	目標年間入院延べ人数10名以内、目標年間入院延べ人数150日以内にする。
			③受診や服薬状況などを把握し、必要に応じて主治医や訪問看護との連携を図る。	佐藤米澤	計画	薬歴情報の確認 利用啓発の 情報提供の実施																B	入居者全員の最新の服薬情報を管理できる。
3	(1)	安全で美味しく楽しい食事の提供	①季節感のある食事や行事食を計画し、実施する。	佐藤米澤 巴上	計画		こどもの日	焼き肉昼食 祝しそうめん	流しそうめん	敬老の日				クリスマス 鍋昼食会	おせち料理	鍋昼食会	ひな祭り		C	祝日や季節の行事ごとに、季節を感じられる食事を提供することができる。			
			②日々の開き取りとともに、食事アンケートを行い質の向上に努める。	佐藤米澤 巴上	計画	日々の開き取り									日々の開き取り	食事アンケート(作成)	食事アンケート(実施)			A	食事アンケートを実施し、80%が「おいしい」「ちょうどよい」の評価になる。		
4	(1)	心身機能の維持向上と日常生活の活性化	①指導士やサポーターの協力を得ながらあつたがすりハベリ体操教室・ふまねっと教室を実施し、交流を楽しみながら心身機能の維持向上を図る。	佐藤米澤	計画	リハ体操教室 ふまねっと教室								リハ体操教室 ふまねっと教室					C	あつたがすりハベリ体操教室は週1回、ふまねっと教室は月2回実施できる。			
			②併設のフィットネス倶楽部への登録・利用啓発。	佐藤米澤	計画	登録者への 利用啓発 新規開拓															B	入居者のフィットネス登録が半数(9名)以上になる。	
5	(1)	安全で過ごしやすい環境づくり	①季節感のあるしつらえの実施。	佐藤米澤	計画	雛のぼり	夏のしつらえ	七夕飾り	秋のしつらえ					冬のしつらえ クリスマス	正月飾り	節分飾り	ひな飾り	春のしつらえ	A	玄関カウンター・エレベーターホール・食堂を、季節に合ったしつらえで飾ることができる。			
			②施設内・外の設備の定期点検およびメンテナンスを計画的に実施する。	佐藤米澤	計画	環境整備 表の作成	電気保安 点検	電気保安 点検	電気保安 点検	電気保安 点検	消防設備 点検	電気保安 点検	除雪作業(〜 3月まで)	電気保安 点検	電気保安 点検					B	環境整備表を活用して、計画的に実施することができる。		
6	(2)	役割のある暮らしの支援	①入居者の有する能力に応じた役割を選定し、声かけをはじめ掲げ板や回覧を通して活動への参加を促す。	佐藤米澤	計画	花壇整備 畑作業							横木の冬囲い 花壇片付け	正月用生花 除雪作業	アイスキャン ドル作り 除雪作業	おひな様飾り 付け 除雪作業	除雪作業		C	地域や地域住民に関わりのある役割を、年間2つ以上用意し実行する。			
			②入居者の喜びや楽しみにつながるレクリエーションや行事を計画し、実施する。	佐藤米澤	計画	チャレンジ デー(春)	さつき祭 観覧ツ アー	ろりそくもらい 北野盆踊り							チャレンジ デー(秋)	餅つき大会 (さつき苑)	書き初め 正月遊び	豆まき	甘酒作り	C	計画通り行事を実施することができる。		
7	(3)	新規入居者獲得のための営業・広報活動強化	①近隣地域の包括支援センターを訪問し、新規入居者獲得につなげる。	佐藤米澤	計画	訪問							訪問						C	待機者を確認し、退去後の速やかな契約手続きを行うことで、空室を最低限にとどめる。			
			②ホームページ上で空室状況等の情報を提供する。定期的にブログをあげ、興味を持ってもらうきっかけを作る。	佐藤米澤	計画	HPの更新 ブログアップ	ブログアップ	ブログアップ	ブログアップ	ブログアップ					HPの更新		ブログアップ			C	ホームページの更新は未実施。ブログは行事毎や季節の挨拶等、定期的に上げることができた。		

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 サービス付き高齢者向け住宅 めくもりの家たかほ [評価基準]S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分、D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容		
8	(3)	適正利益の確保	①満室18名を維持する。	佐藤米澤	計画								待機者の確認・整理						目標稼働率97% (17.5戸)。	D	サ高住での生活が困難と判断した入居者が3名、死去により1名が退居。9月以降空室を埋めることができず、2室空室のまま年度終了となった。		
					実施																		
			②コスト意識を持ち、消耗品や光熱費、暖房費の節約に努める。	佐藤米澤	計画										節約の啓発							前年度比-1%の削減を目指す。	C
					実施																		

令和2年度 サービス付き高齢者向け住宅

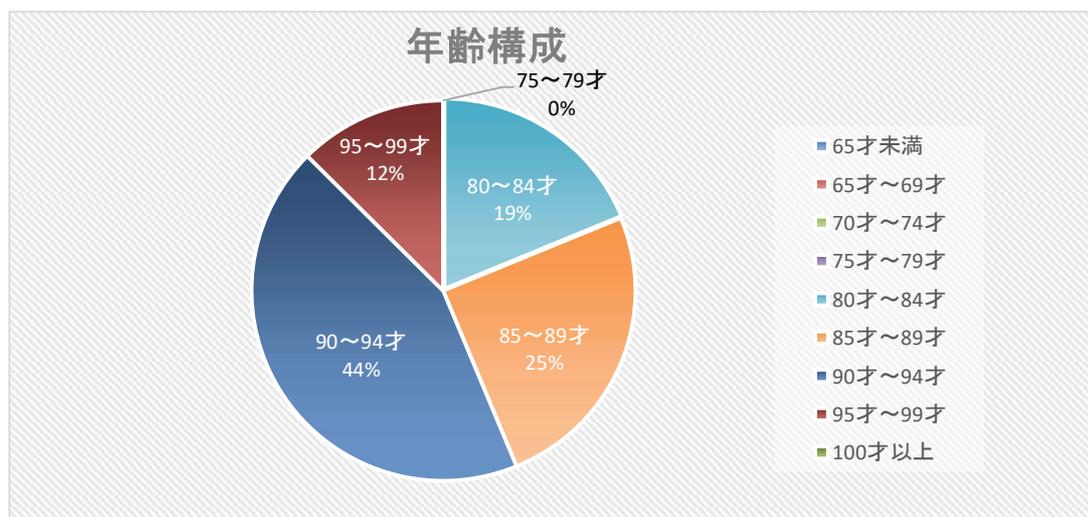
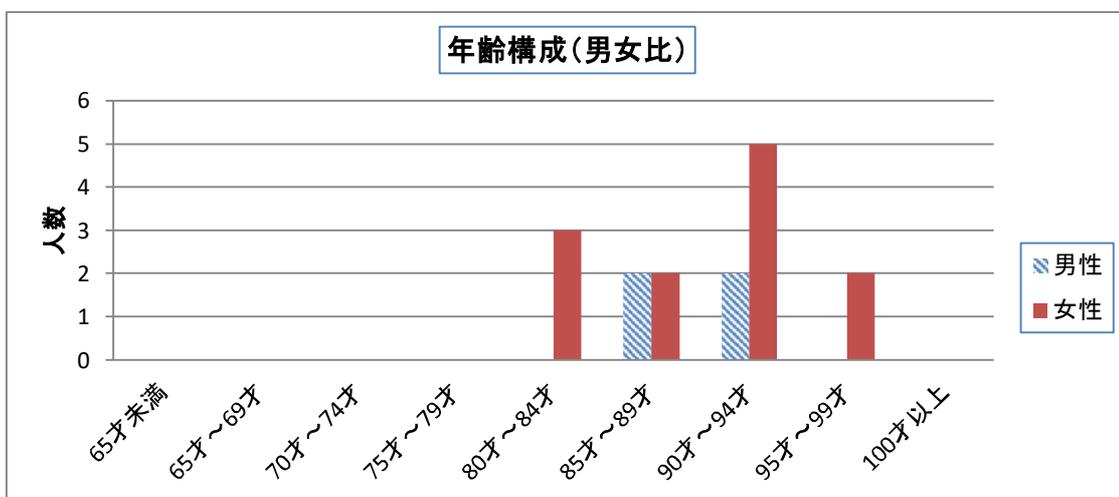
ぬくもりの家たかほ

現況報告書

(自：令和2年4月1日 ～ 至：令和3年3月31日)

1. 入居者年齢構成(令和3年3月31日現在)

	在籍者			
	男性	女性	計	
65才未満	0	0	0	【最高年齢】 男性 90 歳 女性 97 歳 【最低年齢】 男性 86 歳 女性 80 歳 【平均年齢】 男性 88 歳 女性 89.6 歳 全体 88.8 歳
65才～69才	0	0	0	
70才～74才	0	0	0	
75才～79才	0	0	0	
80才～84才	0	3	3	
85才～89才	2	2	4	
90才～94才	2	5	7	
95才～99才	0	2	2	
100才以上	0	0	0	
計	4	12	16	



2.食事状況(令和3年3月31日現在)

		自立	見守り	合計
男性		4	0	4
女性		12	0	12
合計		16	0	16

3.移動状況(令和3年3月31日現在)

		歩行		杖	歩行器など		車いす使用		合計
		自立	要介助	自立	自立	要介助	自立	要介助	
男性		3	0	0	1	0	0	0	4
女性		8	0	0	3	0	1	0	12
合計		11	0	0	4	0	1	0	16

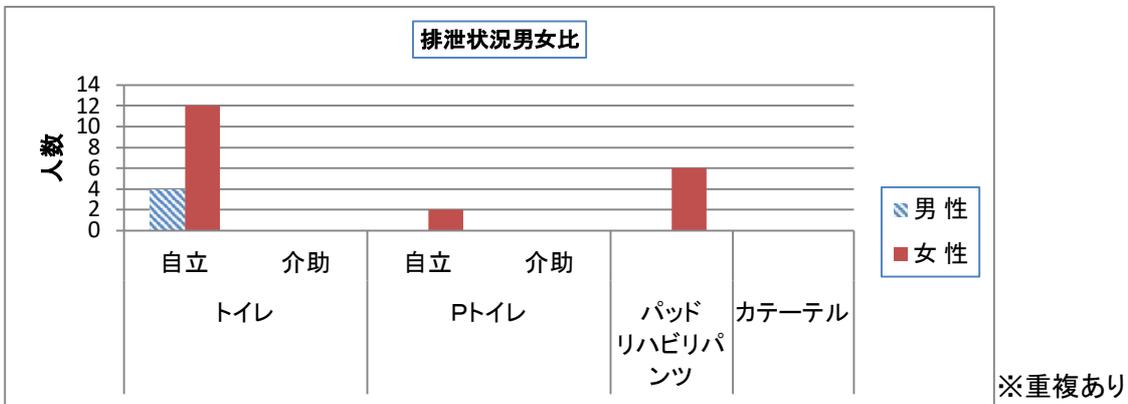
4.入浴状況(令和3年3月31日現在)

		一般浴		車いす浴	合計
		自立	介助		
男性		4	0	0	4
女性		0	12	0	12
合計		4	12	0	16

5.排泄状況(令和3年3月31日現在)

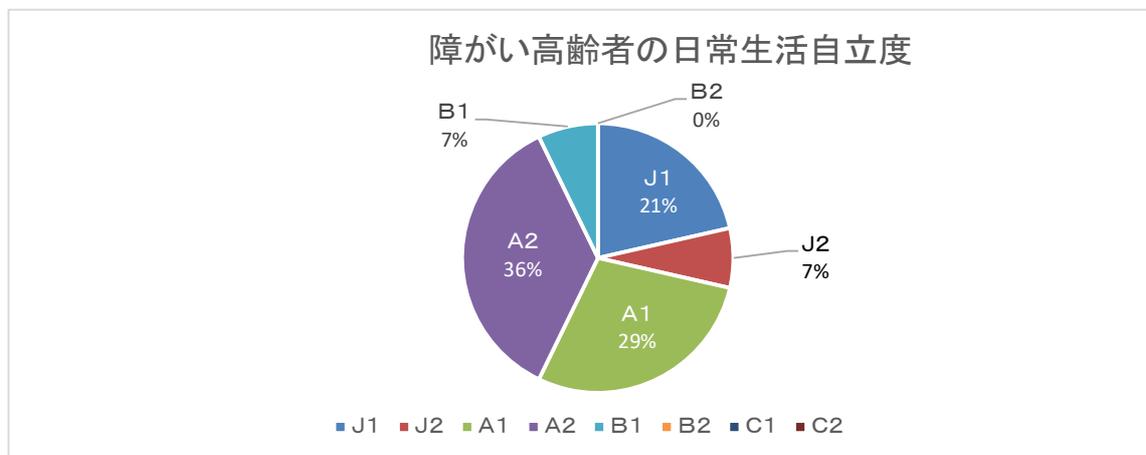
		トイレ		Pトイレ		パッド リハビリパ ンツ	カテーテ ル	計
		自立	介助	自立	介助			
男性		4	0	0	0	0	0	4
女性		12	0	2	0	6	0	20
計		16	0	2	0	6	0	24

※重複あり



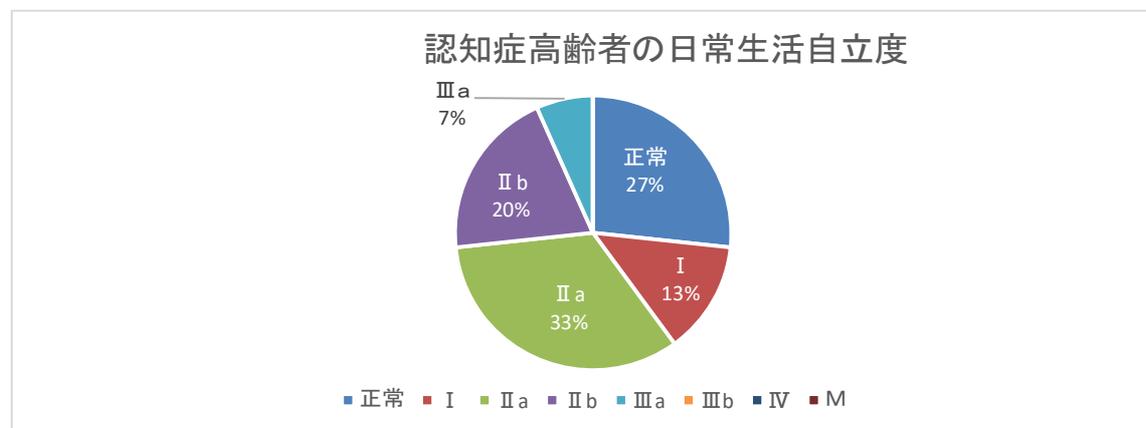
6.身体状況(障がい高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定)

	不明	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1	C 2	計
男性	1	1	1	1	1	0	0	0	0	5
女性	2	2	0	3	4	1	0	0	0	12
合計	3	3	1	4	5	1	0	0	0	17



7.認知症(精神)状況(認知症高齢者の日常生活自立度判定)

	不明	正常	I	Ⅱ a	Ⅱ b	Ⅲ a	Ⅲ b	Ⅳ	M	計
男性	1	1	1	2	0	0	0	0	0	5
女性	1	3	1	3	3	1	0	0	0	12
計	2	4	2	5	3	1	0	0	0	17



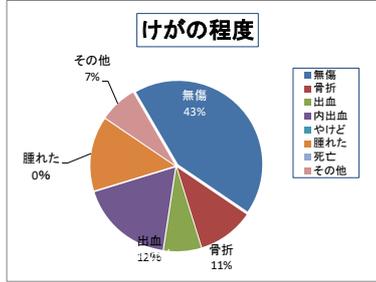
令和2年度 事故発生状況

【事故の内容】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
転倒	16	1	2		1	3	1	1		2	1		4
転落	6	2	2	1		1							
ぶつけた	5		1	2			1						1
誤飲(誤嚥)	0												
投棄事故	0												
異食	0												
その他	1									1			
合計	28	3	5	3	1	4	2	1	0	3	1	0	5

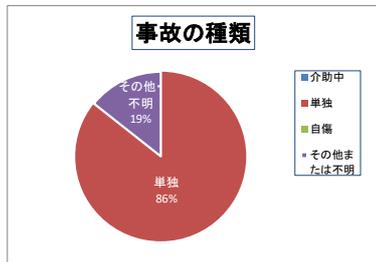
【けがの程度】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
無傷	12	3	4	1		1				2			1
骨折	3				1	1							1
出血	2					1	1						
内出血	5		1	1		1				1	1		
やけど	0												
腫れた	4			1				1					2
死亡	0												
その他	2							1					1
合計	28	3	5	3	1	4	2	1	0	3	1	0	5



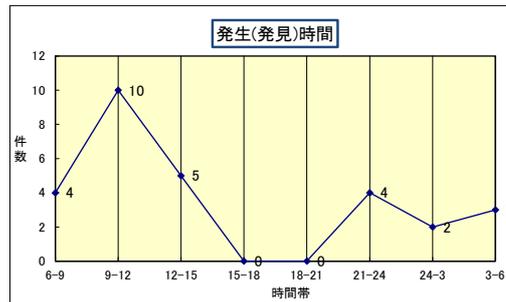
【事故の原因】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介助中	0												
単独	24	3	5	1	1	4	1	1		3			5
自傷	0												
その他または不明	4			2			1				1		
合計	28	3	5	3	1	4	2	1	0	3	1	0	5



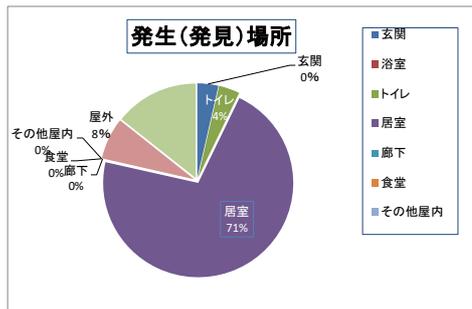
【発生(発見)時間】

時間	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6-9	4		1		1								2
9-12	10	2	1	1			1			2			3
12-15	5		1	2		1					1		
15-18	0												
18-21	0												
21-24	4		1			1	1			1			
24-3	2	1				1							
3-6	3		1			1		1					
合計	28	3	5	3	1	4	2	1	0	3	1	0	5



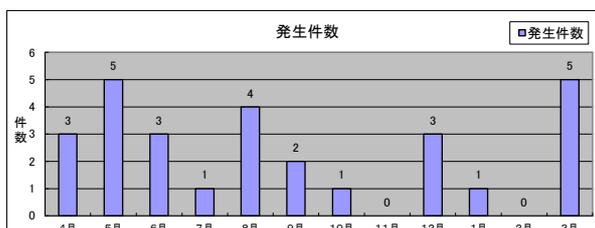
【発生(発見)場所】

場所	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
玄関	1												1
浴室	0												
トイレ	1						1						
居室	20	3	5	1	1	3		1		2			4
廊下	0												
食堂	0												
その他屋内	0												
屋外	2					1				1			
不明(後に発見)	4			2			1				1		
合計	28	3	5	3	1	4	2	1	0	3	1	0	5



【事故発生・発見件数全体】

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
発生件数	28	3	5	3	1	4	2	1	0	3	1	0	5
(うち受診をした件数)	6	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	2



令和2年度鷹栖町ヘルパーステーションさつき苑事業報告

1. 総括(今年度の取り組みの成果)

令和2年度は「良いケア・良い職場・良い経営をみんなの力で創る」の基本方針に重点をおき取り組んだ。

「良いケア」ではケアプランに基づき訪問介護計画書を作成。さらに、サービスの提供方法の標準化・統一を図る為、昨年に引き続き訪問介護計画書に手順書、留意点、時間配分を記載しヘルパー、利用者ともにケアの内容がより明確に分かるよう改善した。また、毎日の業務日誌での引き継ぎ、毎月のヘルパー会議でケアの情報共有を図ることを継続したことで、個別に自立支援のサービス提供が行えた。そして何より、ケアの提案、実践をしっかりと行うことができた。

「良い職場」では、職員が少しでも働きやすくなるよう、それぞれの思いを聞き確認した。その中でも、移動時間を設けることで安全に訪問ができるよう業務改善を図った。また、個別の生活に合わせて出勤時間や、勤務時間を調整することで、安心して働ける職場を目指した。

「よい経営をみんなの力で創る」では、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携強化を図った。新規利用者獲得は勿論だが、現利用者に関わる中で信頼・安心・満足感を持って頂けたことが経営基盤の安定に繋がった。昨年に以降はコロナ感染予防のため、毎年行っていた食事会の開催を断念し、茶話会でも飲食を行わない対応へと変更をした。

業績については、年間訪問件数が令和元年度は10,077件に対し令和2年度は10,988件と前年度より911件増加した。月間の目標件数は当初950件であったが人員の確保が困難となり、途中850件へと目標を修正した。その結果月間目標平均916.7件に対し、月間平均915.7件と僅かではあるが未達成となった。新規利用者は、昨年に引き続き旭川市の方も増加しているが、今年度は鷹栖町の利用者が増加した。(令和2年度新規利用者数 旭川市13名、鷹栖町20名)次年度も茶話会での地域住民への周知活動および、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携強化により努める。

2. 展望(次年度に向けて)

令和3年度も、「良いケア、良い職場、よい経営をみんなの力で創る」ことを目標に掲げ、

「良いケア」では利用者へのケア向上のため個々のニーズに合わせた支援、専門職として常に予測されるリスクを考慮し、支援内容を考えケアの見直しを提案・実践していくことは基より、何よりも丁寧な対応を行っていきたい。

「良い職場」では誰もが働きやすく、居心地がいい環境は勿論だが各ヘルパーが提案と実践を確実に行うこと、内部研修での講師を行うことでやりがいを感じられる職場作りをすすめる。

「よい経営をみんなの力で創る」ためには、先に述べた「良いケア、良い職場」が不可欠であり、この2点に重点を置き取り組むことで、「よい経営」を継続し安定した利用者の確保と、適正収益が得られるように努める。

3. 運営状況・統計資料

(1) 業績

(単位 千円)

目標収益 (A)	実際収益 (B)	達成率 (B)/(A)×100	前年度収入 (C)	伸長率 (B)/(C)×100
35,715	39,723	111.2%	35,069	113.3%

(2) 茶話会開催状況

日程・地区	鷹栖地区	鷹栖地区	北斗・北成	北野地区
	7月5日	7月5日	未実施	2月12日
参加人数	16名	18名	未実施	9名

(3) 食事会開催状況

日程	メニュー	参加人数
	コロナ感染予防対策のため未実施	

(4) ヘルパー研修開催状況

開催日	テーマ	講師	参加人数
7月16日	食中毒の予防研修	己上	10人
9月11日	トランスファー	大矢・大河原	8人
9月15日	トランスファー	大矢・大河原	1人
10月15日	食事ケア研修・中級	森	8人
10月15日	食事ケア研修・初級	志知	1人
10月26日	感染症対策研修	藤川	12人
11月12日	排泄ケア研修	秋保	5人
2月12日	排泄ケア研修	秋保	6人

(5) 外部研修参加状況

開催日	内容	参加者
3月6・7日	先端ケア研究会研修 (オンライン)	米澤
3月22日	セルフマネジメント・アンガーマネジメント研修 (オンライン)	米澤

(6) ヘルパー会議開催状況

開催日	内容	参加者
令和2年 4月23日	① 業績報告・活動報告進捗状況・業務改善（感染対策の消毒について）②ケースカンファレンス③事故報告④ご家族からの要望（2件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
5月23日	① 業績報告・活動報告進捗状況（予定行事について）業務改善（利用者への声かけと働きかけについて、ヘルパーの欠員について）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望（2件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
6月25日	① 業績報告・活動報告進捗状況（第1回・2回茶話会について）業務改善（ケアの見直し、ケアマネへの報告、プランの変更について、感染対策継続について、訪問前の計画書の確認について、掃除用具の確認について）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望（7件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
7月16日	① 業績報告・活動報告進捗状況（第1回・2回茶話会について）業務改善（物品の取り扱いについて、利用者の特変時の報告について）②ケースカンファレンス③事故報告（1件）④ご本人からの要望・苦情（1件）⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
8月27日	① 業績報告・活動報告進捗状況（お食事会の中止について）業務改善（利用者宅での起居動作、物品の取り扱いについて）②ケースカンファレンス③事故報告2件④ご本人からの要望（1件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
9月24日	① 業績報告・活動報告進捗状況（感染対策研修について）業務改善（訪問時間に遅れる際には連絡を入れる、マスクで表情が伝わりにくいため言葉や声のトーンに気をつける）②ケースカンファレンス③事故報告（1件）④ご本人からの要望・苦情（1件）⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
10月22日	① 業績報告・活動報告進捗状況（研修日の変更について）業務改善（業務日誌・ヘルパー間の引き継ぎについて、提供表のチェック）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望（1件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
11月26日	① 業績報告・活動報告進捗状況（第4回茶話会について）業務改善（提供時間について、提出物の期限について）②ケースカンファレンス③事故報告（1件）④ご本人からの要望（2件）・苦情（1件）⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名

12月17日	① 業績報告・活動報告進捗状況（次年度の個別研修の目標について）業務改善（健康管理記録について）②ケースカンファレンス③事故報告（1件）④ご本人からの要望・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
1月21日	① 業績報告・活動報告進捗状況（茶話会について）業務改善（車両の取り扱いについて）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望（2件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
2月18日	① 業績報告・活動報告進捗状況（茶話会の日にち変更について）業務改善（使い捨て手袋について、事務所の直通電話について、ヘルパー回線が鳴った際の対応について）②ケースカンファレンス③事故報告（1件）④ご本人からの要望（1件）・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名
3月26日	① 業績報告・活動報告進捗状況（令和2年度の訪問件数と次年度の目標の組み直しについて、バディプロジェクトについて）業務改善（支援内容の変更時の連絡、確認について）②ケースカンファレンス③事故報告④ご本人からの要望4件・苦情⑤その他（今月の目標・先月の評価）	10名

(7) 事故発生状況

	平成30年度	平成31年度	令和2年
私物破損	2件	1件	4件
訪問忘れ	2件	2件	1件
苦情	1件	1件	2件
救急搬送	0件	0件	0件
車両関係	0件	2件	4件
転倒など	2件	2件	2件
誤投薬	1件	0件	0件
死亡発見	0件	0件	1件
合計	8件	7件	14件

(8) 令和2年度私物破損内容

発生日	内容	原因	対策
7月9日	掃除機ノズル部位の破損	使用前の確認不足	使用前に不具合がないか確認する。
7月21日	駐車の際に縁石に当たり	不注意・確認不足	安全な位置を確認し駐車

	公用車に傷がつく		する。
8月25日	掃除機のサイクロン部分の装着が不十分で落下しタイヤ部分が破損した	掃除機使用後のゴミ捨て後に、装着の仕方が誤っていた	外す前、ゴミ捨て後にはきちんとサイクロン部分が装着されているか確認する
9月8日	壁に掛けてあったハンディモップに体が当たり落下し、持つ手が破損	移動時の不注意	周りを確認しながら行動する
11月9日	車両が当たり利用者宅のポストが破損	積雪がある敷地内での駐車位置が不適切だった	冬期は敷地の奥へは入らず、沿道側へ停める
1月14日	利用者宅の車庫前で、車両が雪に埋まり、フェンダーが外れた	積雪量が多かったが、無理に車庫へ入れようとしたため	積雪の状況を確認し、必要に応じ除雪を行う
2月9日	車両の左側ホグランプ部カバーが外れ紛失	停める際に道幅が狭く、雪に左側が埋まるような状態で駐車した	駐車スペースの確保・確認を事前に行う

(9) 令和2年度苦情内容

発生日	内容	原因	改善状況
7月11日	訪問中の物品破損に対し、その後の職員の対応について	破損時に謝罪の言葉が足りなかった	誠意をもって謝罪の言葉を最初に伝える
10月22日	訪問中の掃除の仕方、態度に不満がある	コミュニケーション不足と、掃除の仕方について細かな指導が不足していた	細かな引き継ぎ、指導を行い、個別に理解度や支援の手順を確認する

(10) 訪問内容別活動時間

(単位 時間)

訪問内容	令和元年度月平均時間	令和2年度月平均時間
身体介護	406	369.3
生活援助	76.5	68.6
複合介護	132.8	184.6
介護予防訪問介護(独自I)	91.8	115.8

介護予防訪問介護（独自Ⅱ）	78	112.6
介護予防訪問介護（独自Ⅲ）	51	53.8
私的契約	6.6	11.4

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名 鷹栖町ヘルパーステーションさつき苑 [評価基準] S: チャレンジした企画が成功 A: 期待以上の結果 B: 期待どおりの結果 C: アクションしたが結果不十分、D: まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	中間評価	10月	11月	12月	1月	2月	3月	ゴール(達成目標)	最終評価	評価内容	
8	(3)	組織的・総合的な安全確保の推進	①身体・精神的虐待ゼロを誓い、適切な接遇態度を身につけて安全確保に徹したサービスを提供する。	米澤	計画					集団指導参加								集団指導の報告から管内の不適切事例等を学び職業倫理を再確認し、接遇マナーに関する苦情をゼロにする。	C	接遇マナーに関する苦情があった。	
			②「業務日誌」を活用し、報告・連絡・相談を徹底することにより、注意事項の確認もれを防ぐ。	伊藤上野	計画	← 「業務日誌」の活用 →			← 「業務日誌」の活用 →											訪問前の指示、訪問後の報告、連絡を密にすることできめ細かい、サービスの提供ができる。	A
9	(4)	社内業務の標準化・標準化	①実績管理の責任・手順を明確にし、月末業務の効率を上げ、請求ミスゼロにする。	米澤	計画	マニュアルの見直し													日々の訪問チェックを確実にし、月末業務の負担を軽減し、請求ミスゼロにする。	C	訪問チェック漏れ、間違いが多く、過誤請求もあり目標は達成できず。
				実施																	
9	(4)	社内業務の標準化・標準化	②ヘルパー車の管理・業務のマニュアル化を行うことで、効率的に統一した業務が行えるようにする。	米澤	計画	公用車の管理	公用車の管理	公用車の管理	公用車の管理	公用車の管理	マニュアルの見直し	公用車の管理	公用車の管理					マニュアルの評価	公用車の管理手順、業務の手順を作成する。	B	備品の購入は行ったが、定期的な清掃は不十分だった。
				実施																	
10	(5)	利用者獲得の為の営業・広報活動を強化する	登録者数100人(H31, 90人)新規利用者30人(H31, 45人)月間回診回数950回(H31, 900回)を目標に掲げ毎月実績確認を行い、その都度収益増減の原因を明らかにする。	米澤上野	計画		具体策検討		具体策検討				具体策検討		具体策検討				茶話会で訪問介護についてのPRを行い、ヘルパー業務の周知を図り、新規利用者25名に繋げる。(H30新規28名)。	B	登録者数は88.3名、新規利用者は34名、月間訪問件数909.4件と目標には及ばなかった。
				実施								A									
11	(5)	適正収益の確保	①目標収益を39,678,000円(前年度34,398,438円)月間訪問件数950件に掲げ、加算取得・茶話会活動を展開する。目標達成に向け、会議で実績報告を行い、サービスの不足している状況がないか確認する。	米澤伊藤	計画			茶話会	茶話会	茶話会								茶話会	月の訪問件数目標950回/月 目標収益39,678,000円を達成する。	B	月刊訪問件数を12月に見直し850件としたため、年間訪問件数は、10,913件と当初の目標より下回っている。収益は39,708,474円と達成はできた。
				実施																	

令和2年度 法人本部（給食部門）事業報告

1. 総括

令和2年度は（1）身体の状態に合わせた栄養のある食事の提供（2）衛生管理の徹底と災害対策（3）個々に配慮した美味しい食事の提供（4）多職種との連携機能の強化（5）予算に合わせた食事の提供の5つを重点目標とし取り組んだ。

（1）身体の状態に合わせた栄養のある食事の提供としては、小規模特養ぬくもり家えんにて「栄養ケアマネジメント」を実施し、低栄養者の体調の改善ができるように取り組んだ。また、なごみの家ではスタッフと協力し、「食事量の低下」や「体重の減少」の変化の情報を共有し改善へ向けて取り組んだ。さらに、嗜好調査や日々の利用者とのコミュニケーションを図り、より利用者の嗜好に沿った食事の提供ができた。

健康予防では、地域住民対象の「健康料理教室」開催ができなかったため、「さつき会ブログ」にて毎月テーマに合わせた一品料理を紹介し情報を発信した。

法人運営の「地域食堂」についてはコロナの感染リスクを考慮し1年間中止となった。

（2）衛生管理の徹底では厨房内の点検、食中毒予防研修の実施、調理員との定期的な情報交換の実施により、安全で安心な食事提供を心がけ食中毒を起こすことなく提供することができた。

（3）個々に配慮した美味しい食事の提供では、旬の食材を取り入れることで季節を感じていただき、満足感とQOLの向上に繋がるよう取り組んだ。また、調理員の協力を得ながら献立のレシピ集を作成し、初めて担当する献立でも混乱せずに調理することができるようになった。他にも、食べにくい食材は酵素を使用し、やわらかく食べやすい工夫をするなど摂食状況に合わせた食事の提供や病態に合わせた脂質を抑えた食事の提供を実施することができた。

（4）多職種との連携機能の強化では、各事業所の会議への参加や、各担当者との打ち合わせによって情報を共有することができ、食事量の低下が見られる方へ迅速に対応することができた。

また、自然排便と免疫力向上の取り組みとして、1日置きに朝食にヨーグルト、夕食に玄米ご飯の提供を継続し、食物繊維の摂取量の増加による自然排便への改善及び免疫力の向上が図られ、感染症を予防することができた。

（5）予算に合わせた食事の提供では、「食材予算」「おやつ予算」「嗜好飲料予算」と区分が明確になったことで管理がしやすく、予算に余裕のあるときには高価な食材やおやつ等も提供するなど、楽しんでもらえるような食事の提供ができた。

2. 展望（次年度に向けて）

次年度は、次の2点を重点として事業に取り組む。

まず1つめは、ぬくもりの家えんにて、定期的にミールラウンドを実施し、栄養士から栄養・食事の改善を積極的に実施できるように取り組んでいく。

次に、非常災害時の献立を作成し、災害が発生したときに混乱なく食事の提供ができるようにマニュアル作成に取り組む。

3. 運営状況・統計資料

(1) 令和2年度 手作りおやつ・手作り昼食 実施状況

→コロナの感染リスクを考慮し実施なし。

4. 祝祭日の祝膳 年間実施回数

特養えん 行事食	小規模えん 行事食	なごみGH 行事食	なごみSH 行事食	たかほ 行事食
32回	32回	32回	32回	32回

5. 健康料理教室（地域における公益的な活動）…さつき会ブログへ掲載

実施日	内容	献立	作成者
4月	未実施	未実施	
5月	未実施	未実施	
6/26	食事で疲労回復	ひやむぎをアレンジ！韓国風冷麺	伊藤
7/24	中性脂肪を減らそう	雑穀米とサバ缶で簡単冷や汁	己上
8/28	血糖値を上げない食事	ヘルシー肉団子と野菜の 甘酢あんかけ	伊藤

9/25	発酵食品で目指せ腸活！	納豆麴の巾着焼き	己上
10/23	ビーツで貧血予防	鉄分補給！ビーツ餃子	伊藤
11/27	さよなら冷え性	れんこん団子のあったかスープ	己上
12/25	口内炎予防	たらと旬野菜の簡単グラタン風	伊藤
1/22	更年期症状を和らげる食事	ヘルシー鮭フライ&豆サラダ	己上
2/26	乾物活用術	切干大根のマリネ ごろごろ高野豆腐のスープ	宮崎
3/26	缶詰活用術	さば味噌煮缶で麻婆茄子	宮崎

※11月れんこん団子のあったかスープ・12月たらと旬野菜の簡単グラタン風は
さつき会広報に掲載。

6. 地域食堂（地域における公益的な活動）

コロナの感染リスクを考慮し令和2年度の地域食堂は中止とした。

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名: 法人本部・給食部門

[評価基準] S: チャレンジした企画が成功 A: 期待以上の結果 B: 期待どおりの結果 C: アクションしたが結果不十分 D: まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画 No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	4月 5月 6月 7月 8月 9月 中間評価								評価内容	10月 11月 12月 1月 2月 3月						ゴール(達成目標)	最終評価	コメント
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月		12月	1月	2月	3月					
1	(1)(4)	健康で穏やかな生活を支えられるよう、多職種が連携し、根拠に基づいたケアを提供することで豊かな暮らし作りを行う。	③褥瘡の予防、早期発見、発症時の適切なケアを実施。 ④褥瘡のアセスメント、モニタリングをケアプランと連動させて標準化する。	看護師 栄養士 リーダー	計画	褥瘡アセスメントの準備	褥瘡アセスメントとケアプランの発行①(6名)	褥瘡アセスメントとケアプランの発行②(8名)	褥瘡アセスメントとケアプランの発行③(8名)	褥瘡アセスメントのモニタリング①(6名)	褥瘡アセスメントのモニタリング②(8名)	D	アクション出来なかった	褥瘡アセスメントの実施③(8名)	褥瘡アセスメントの実施④(6名)	褥瘡アセスメントの実施⑤(8名)	褥瘡アセスメントの実施⑥(8名)	以隣継続	・全入居者の褥瘡リスクのアセスメントの実施を標準化。 ・褥瘡のリスクをスタッフ間で共有し、新たな褥瘡発症をゼロにする。	D	アクション出来なかった	
					実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施			未実施	未実施	未実施						
2	(1)(4)		⑥快適な生活を守るため新規おむつの導入。 ⑦便座を予防し下剤を減らす取り組みを計画、実際に排泄ケアマネジメントを標準化する。	看護師 栄養士 リーダー	計画	下剤使用の確認新しいおむつの導入検討	排泄ケアアセスメント準備新しいおむつの導入	→	排泄ケアアセスメントの実施(3名)	排泄ケアアセスメントの実施(3名)	排泄ケアアセスメントの実施(3名)	C	排泄状況の確認は実施しているが、評価・改善は未実施	排泄ケアアセスメントの実施(3名)	排泄ケアアセスメントの実施(3名)	排泄ケアアセスメントの実施(3名)	排泄ケアアセスメントの実施(3名)	・刺激性下剤の使用5%以内の維持。 ・排泄ケアに関するアセスメント・計画・評価の標準化と加算の取得。	D	排泄状況の確認は実施しているが、評価・改善へのアクションは出来なかった。		
					実施	情報収集	情報収集	情報収集	情報収集	情報収集												
3	(1)(4)	健康状態を維持・向上する食事提供の実施	①栄養ケアマネジメントを行い、年齢、病状、摂食状況、活動量を維持できる食事の提供を多職種連携で実施する。 ②既往を再発予防するための治療食の充実化。 ③なごみの家・ぬくもりの家えん・たかほまにて嗜好調査を実施する。	已上	計画	各事業所の利用者の最新データの収集と必要な栄養量の算出	栄養ケアマネジメントの実施	→	→	→	→	B	栄養ケアマネジメントを実施しながら、多職種と連携をよりながら必要な栄養量を提供することができた。	栄養ケアマネジメントの実施	→	→	→	→	・ぬくもりの家えんでの栄養ケアマネジメントの実施。 ・年1回、利用者全員のBMIを確認し、低栄養の方の食事改善を実施できたか。 ・なごみの家・ぬくもりの家えん・ぬくもりの家たかほまにおいて、嗜好による調査が実施できたか。	B	・栄養ケアマネジメントを実施し、必要な栄養について多職種に提案できた。 ・栄養評価(低栄養者BMI18.5以下)えん→4人(前年度4人) なごみ→5人(前年度5人) たかほま→2人(前年度2人) 低栄養を改善することは出来なかったが、昨年より体重を維持することができたため評価Bとする。 ・嗜好調査を実施し、現在の食事の満足度について評価できた。	
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施			実施	実施	実施	実施					
4	(1)	健康料理教室の実施	地域における介護予防の取り組みを促進するために、月に1回栄養士による料理教室を実施する。	已上 伊藤 大和田	計画	料理教室計画実施	→	→	→	→	→	C	コロナの影響で料理教室が実施できず、代替としてさつき会ブログにてレシピ紹介へ変更した。実施は出来ているが目的対象者には発信できていないと考える。	料理教室計画実施	→	→	→	→	・月1回料理教室を実施できた。	C	コロナの影響で料理教室が実施できず、代替としてさつき会ブログにてレシピ紹介へ変更した。毎月の実施はできたが目的対象者には発信できていなかったと考えられるため評価Dとする。	
					実施	未実施	実施準備期間	さつき会ブログでレシピ紹介開始	さつき会ブログでレシピ紹介開始	さつき会ブログでレシピ紹介開始	さつき会ブログでレシピ紹介開始			さつき会ブログでレシピ紹介開始	さつき会ブログでレシピ紹介開始	さつき会ブログでレシピ紹介開始						
5	(1)	地域食堂の実施	①子ども・高齢者に対する低栄養の改善のため、月に1回法人による地域食堂を実施する。 ②地域食堂を通して、地域住民との関わりを持ち、食事・栄養に対するニーズを把握する。	已上 伊藤 大和田	計画	地域食堂計画実施	→	→	→	→	→	D	コロナの影響で実施出来ていない。開始に向けての感染対策の準備については継続中	地域食堂計画実施	→	→	→	→	・月1回地域食堂を実施できた。	D	コロナのリスクを考慮し未実施となった。次年度の開催に向けて感染対策の準備をしていく。	
					実施	中止	中止	中止	中止	中止	中止			中止	中止							
6	(2)	衛生管理の徹底と災害対策 給食設備の確認と徹底	①衛生管理および給食設備を定期的にチェックし、異物混入や食中毒防止に努める。また、厨房機器等の見直し・必要備品の購入による改善を行う。 ②感染対策委員会と連携しながら、コロナウイルス、ノロウイルス、インフルエンザ、食中毒等の感染予防に努める。 ③各現場で安全な食事が提供できるよう、食中毒予防研修を実施し、安全な食事を提供する。 ④非常災害時の食料備蓄の管理と、災害時の食事提供マニュアルの作成。	已上	計画	給食設備のチェック・厨房器具の見直し	→	→	→	→	→	C	担当事業所の食中毒予防研修は実施できた。厨房機器の見直しは定期的に実施。 災害備蓄マニュアルの作成についてはアクションならず。後期で実施する。	給食設備のチェック・厨房器具の見直し	→	→	→	→	・給食設備の定期的チェックと厨房器具の見直し。 ・異物混入0件 ・なごみの家・ぬくもりの家えん・たかほま・ヘルパーを対象とした食中毒予防研修の実施。 ・災害時の食事提供マニュアルを作成。	C	・各事業所の厨房機器や備品について計画的に購入することができた。 ・調理に関わるスタッフに食中毒予防研修を実施できた。 ・災害備蓄マニュアルを作成することが出来なかったため、次年度早急に実施する。	
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施			実施	実施							
7	(3)	嗜好を取り入れ、楽しみのある食事の提供	①満足感とQOLの向上を図るため、献立のみでなく、食器への配慮をし、見た目に楽しく食べやすい食事の提供を実施。 ②食事を「温かいものは温かく、冷たいものは冷たく」提供することで、より食事がおいしく、楽しいものになるよう食事提示方法の作業確認を行う。 ③入居者・利用者の嗜好を取り入れた季節感のある食事・行事食の計画・実施。 ④治療食の提供に幅を設け、病気があっても楽しみのある食事を提供する。 ⑤年1回、栄養士による手作りおやつ提供のための計画と実施。	已上	計画	祝日祝い膳の実施	→	ジンギスカン実施	→	→	→	B	コロナの影響でリスクのある、ジンギスカン・流しそうめんの行事は中止となった。 その他、祝い膳の提供。手作りおやつへの提供は実施できた。 予算に合わせ、不足食器の購入もできた。	祝日祝い膳の実施	お鍋①	→	→	→	・不足している食器がないか確認し、数が不足しているものの購入。または新規食器の購入。 ・嗜好調査での解答「冷めている」が0件。 ・各月に合わせた祝膳の提示・季節の食材を献立に反映し季節感を出す。 ・栄養士による手作りおやつの実施	B	・計画通りに不足食器の購入ができた。 ・嗜好調査の結果「冷めている」の回答は0件であった。 ・流しそうめんやお鍋は未実施となったが敬老の日や祝日献立で季節に合わせた食材を使用した献立を提供できた。 ・栄養士による手作りおやつ 7月→七夕ゼリー(新規おやつ) 9月→お月見水まんじゅう(例年) 実施できた。 ・和菓子屋さんからおやつを購入するなど、おやつでも特別感を演出することができた。	
					実施	実施	実施	中止	中止	実施	実施			実施	実施	実施						

令和2年度 部門(事業所)別活動計画

部門(事業所)名:法人本部・給食部門

[評価基準]S:チャレンジした企画が成功 A:期待以上の結果 B:期待どおりの結果 C:アクションしたが結果不十分 D:まったくアクションなし ※ゴールは定量化し、証がみえる表現とする。

事業計画No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	実施担当者	中間評価												評価内容	ゴール(達成目標)			最終評価	コメント					
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月											
8	(3)	安全で美味しく、身体状況に合わせた食事の提供	①摂食障害者、ターミナル期の方への適切な食事形態や提示方法の提案、実践。 ②新人スタッフ(調理に携わる)への、基本のソフト食の勉強会を実施する。 ③献立の作り方マニュアル(レシピ表)を作成し、バラつきのある作り方を統一する。 ④常食により近い、やわらかい食の提供。 ⑤より見た目・味共に美味しいソフト食の提供。	已上	計画																					B	ソフト食の既製品などを取り入れるなど、新しい商品の開拓ができた。 ・新任職員のソフト食勉強会は中止とした。 ・調理員と協力して料理のレシピ集を作成することができ、初めて作る献立でも混乱なく料理を提供することができた。 (レシピ数 150レシピ完成) ・多職種で検討し、個別に合わせた食事の提供ができた。 ・既製品のソフト食も上手に活用しながら見た目良いソフト食の提供ができた。
					実施		実施	中止	実施	実施	実施																
9	(4)	関係職種との連携機能の強化	①ご利用者により安全・安心・満足して頂ける食事提供のため、定期的な情報交換に努める。 ②各部署との給食に関する情報を共有し、各事業所の会議にて問題点の発見と改善に努める。	已上	計画	各会議への参加と問題点の改善	-	-	-	-	-	-														B	毎月会議に参加し、多職種と情報を共有することができている。 ・定期的に情報を共有できたか。 ・なごみ会議・えん特養会議・えん給食会 議の毎月の参加により問題点を確認し改善へ向けてのアプローチができたか。
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施															
10	(5)	適正な予算管理	～なごみの家・ぬくもりの家えん～ ①給食費の予算に合わせた献立の作成 ②無駄のない食材の仕入れの実施 ③食材の在庫管理の実施 ④食材収支表の作成・原価表の作成の実施	已上	計画	食材収支表の作成 原価表の作成	-	-	-	-	-														B	10月～3月原価 適正予算原価 756円 なごみの家→752円(前年753円) ぬくもりの家えん→794円(前年815円) たかほ→768円(前年809円) 適正予算原価内に納めることができなかったが前年度と比較すると改善しているため、評価Bとする。	
					実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施																

令和2年度 総合事業（一般介護予防事業）事業報告

1. 総括(今年度の取り組みの成果)

令和2年度は「地域介護予防活動支援事業」、「地域リハビリテーション活動支援事業」、「介護予防普及啓発支援事業」、「法人自主事業」に取り組んだ。フィットネス倶楽部コレカラ（以下、フィットネス）の実利用者数は149名、延べ利用者数は4,735名であった。

1) 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止策

フィットネスの感染対策として、手洗い・うがい・マスク着用の徹底、体温測定や体調の聞き取り、サーキットマシン間にアクリルパーテーションを設置、利用者によるマシン消毒、1時間ごとの換気・消毒、密にならないよう利用人数の制限や待機場所の設置、受付方法の変更、多人数が集まるイベントや教室を中止した。また、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言や感染拡大にて令和2年4月20日から5月30日、令和3年3月6日から3月8日の期間中、フィットネスは臨時休館した。

2) 地域介護予防活動支援事業

フィットネスにおいて介護予防を図ることを目的に、フィットネス機器によるサーキットトレーニングプログラムを実施した。令和3年3月末の登録者数は398名（男性111名、女性287名）であり、昨年度より15名増加し、目標登録者数である400名の99%に達した。月間実利用人数は平均47.1名（前年比44%）であり、大幅に減少した。この要因として、新型コロナウイルス感染症の影響で、①サーキットの利用人数を制限したこと、②利用者が自主的に利用自粛したこと、③外出自粛により運動習慣がなくなってしまうことがあげられる。①では、4～10月までは1時間6名の入れ替え・予約制という人数制限を実施、11月より人数制限は解除したものの、レッドコード中のサーキットは中止した状態で運営した。制限緩和とともに、少しずつ利用人数は回復傾向だが、不十分な状態である。②、③について、鷹栖町と協議し、感染状況を考慮して、フィットネスを利用しなくなってしまった方への連絡や利用促進のためのイベントは実施していない。今後は感染状況をみながら、利用促進の連絡やイベントを通して、利用再開や新規利用へつながるようしてもらえるような広報活動をしていく必要がある。

地域における住民主体の介護予防活動のためのボランティア育成、支援を行うことを目的に、鷹栖町オリジナルの介護予防体操「あったかすりハビリ体操」の普及・啓発を実施した。「あったかすりハビリ体操指導士養成講座」を3ヶ月間開催し、新たに9名のあったかすりハビリ体操指導士（以下、体操指導士）が誕生し、現在の登録者数は36名になった。今年度の体操指導士の活動は、4～5月は新型コロナウイルス感染症の影響で活動自粛し、6月より例年通り、フィットネス、サービス付き高齢者向け住宅たかほ、地域での体操サークルで活動を再開した。老人会活動が休止していたため、例年実施している老人会での体操教室はほとんど実施することができなかった。活動実績として、地域での体操教室を126回（前年比100%）開催し、延べ1073名（前年比70%）の町民へ体操指導を実施した。教室開催数は昨年度とほとんど変わらなかった要因として、体操指導士が主体的に新たな体操教室を設立したことがあげられる。今年度は2団体で新たに体操教室を立ち上げた。また、体操指導士の連携強化や活動への意欲の向上を目的として、「全国体操指導士オンラインフェスティバル」に参加した。これはコロナ禍において体操指導士の活動が制限されている中で、少しでも体操指導士の活動を促進するために全国で活動する体操指導士とオンラインを通じて交流するイベントである。全国33市町村、864名が参加、鷹栖町からは15名の体操指導士が参加した。イベント終了後は、体操

指導士の活動回数増加や、協力体制が整うなど良い方向に進んでいる。今後も体操指導士養成や活動援助を継続していくとともに、鷹栖町健康福祉課、社会福祉協議会と協力のもと、理学療法士、指導士による体操教室を維持・拡大し、フィットネス事業へ参加できない住民に対して、「住民ボランティア主体」であったかすりハビリ体操を通じた介護予防活動を推進していきたい。

成果発表として、第7回日本地域理学療法学会学術大会にて「介護予防事業に参加するやせ型高齢者の身体機能・フレイル有症率の検討」と題し、フィットネスを利用するやせ型高齢者の身体機能やフレイル有症率について発表した。内容として、現時点ではやせ型高齢者の身体機能やフレイル有症率は良好であったが、将来的なフレイル罹患リスクに関連のあるPhase angleは有意に低値を示した。今後はやせ型高齢者の身体機能やフレイル有症率を縦断的に検討していく必要性について認識した。

3) 地域リハビリテーション活動支援事業

新規利用者20名、レッドコード利用者67名に対して、体力評価を実施した。測定項目にはフレイル判定が含まれており、フレイル、もしくはフレイル予備軍の利用者を早期から把握することができた。地域ケア会議への参加や地域包括支援センターからの評価依頼は0件であったが、地域包括支援センターや社会福祉協議会、居宅介護支援事業所からの紹介でフィットネス利用へと繋がった新規利用者が5名おり、今後も連携を継続していきたい。

フィットネス利用者のうちハイリスク者の情報共有の場として、地域包括支援センターの保健師、保健推進係の保健師、理学療法士にてフレイルゼロ会議を実施した。その中でハイリスク者に関しては、地域包括支援センターと情報共有することができ、重度化する前に適切な介護保険サービスへスムーズにつなげることができた。老人会の活動自体が休止されていたため、老人会での体力測定会や健康講話は、実施することができなかった。

成果発表として、第7回日本予防理学療法学会学術大会にて「通いの場に参加する地域在住高齢者のフレイル実態について」と題し、老人会に参加する高齢者のフレイルの実態について発表した。内容として、老人会に参加する高齢者では、フレイルの中で、「運動器」、「口腔機能」、「閉じこもり」に問題を抱えている者が多いことが明らかになった。そのため、老人会においてフレイル対策を行っていくには、運動器だけでなく、口腔機能や社会参加に関する視点を持って関わっていくことが必要であることを認識した。

4) 介護予防普及啓発支援事業

フィットネスでのレッドコード教室は、5月より上半期クラス、11月より下半期クラスを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で4月～6月は休止とした。それに伴い、上半期クラスは中止とし、7月～8月に休止分を振り替え、9月～2月に下半期クラスを開催した。ともに教室定員は満たしており、1回平均利用者数も平均6.7名（前年比99%）と高い参加率を維持することができた。コレカラサポーター（以下、サポーター）養成講座および、サポーター活動、フレイル高齢者に対する健康教室は中止となった。利用者への健康情報の発信として、新型コロナウイルス感染症に関する情報やフレイルに関する情報を掲示することができた。

5) 法人自主事業

レッドコード教室の参加者に対する、ヘルスリテラシー（健康に関する情報入手・理解・活用能力）を向上させる講座は中止とした。あったかす健康手帳は10名の方が継続利用し、血圧や体温、体重などの日々の健康面の変化を自分自身で把握することで、健康管理に役立てている。

6) その他

鷹栖町健康福祉課からの依頼で、新型コロナウイルス感染拡大防止の外出自粛によって活動量や体力が低下してしまった高齢者に向けて、生活不活病を予防するための体操プログラムを作成し、紙面にて提供した。また、鷹栖町教育委員会からの依頼で、鷹栖町 Youtube チャンネルへのあったかすりハビリ体操解説動画の投稿に協力した。

2. 展望（次年度に向けて）

令和3年度も、「地域介護予防支援事業」、「地域リハビリテーション活動支援事業」、「介護予防普及啓発支援事業」、「法人自主事業」に対する取り組みを継続する。

1) 地域介護予防活動支援事業

フィットネスでのサーキットトレーニングプログラムの運動指導を継続し、登録者、実利用者数の増加を図るための啓発活動や環境整備を進める。特に利用停止した方に対して、利用再開につながるよう、連絡やイベントの開催、広報活動をしていく。あったかすりハビリ体操では、養成講座を開講し、新しい体操指導士養成を継続するとともに、既存の指導士のフォローアップとして定期的なミーティング、他地域との交流を実施する。また、体操指導士の活動の場を拡大するため、各地域での体操教室の開催を促進し、住民主体の通いの場の立ち上げへつなげていく。

2) 地域リハビリテーション活動支援事業

フィットネス利用者への身体機能評価を継続して行い、評価結果をもとに、その方の持つ病気やケガ、身体機能に合わせた運動内容の指導を行う。体力評価にてハイリスクと判定された方の情報をフレイル会議にて地域包括支援センターと共有し、適切なサービスを提供できる体制を構築する。老人会や町主催の体操教室に理学療法士が出向き、体力測定やフレイル調査結果の説明や健康講話、健康相談を実施し、幅広い高齢者に対する介護予防を推進する。また、一人暮らし高齢者への運動プログラムの提供も継続する。

3) 介護予防普及啓発支援事業

レッドコード教室での運動指導を継続する。コレカラサポーターの活動を再開できるよう取り組んでいく。また、体力測定にてフレイルと判定された方を対象とした健康教室を開催し、フィットネスにおけるフレイル対策を強化していく。新たに、フィットネスにて口腔トレーニングができる「くちトレ」ブースを開設し、口腔機能機能低下に対しても介入していく。

4) 法人自主事業

ヘルスリテラシーの向上により、自身の健康について主体的に考え、自己管理できる住民が増えるように、ヘルスリテラシー講座と健康手帳の配布を継続する。また、ボランティア交流会やボランティアによる大掃除も感染状況をみながら実施していく。フィットネスからの連絡手段や健康情報の発信として公式LINE アカウントの運用を開始する。

5) その他

各事業の効果検証作業として、学術大会での演題発表を継続する。また、鷹栖町健康福祉課や社会福祉協議会と協力し、総合事業の啓発活動を継続するとともに、各住民ボランティア同士が交流できる場を設け、「自助・互助・共助・公助」の循環が円滑に行えるよう全事業を推進する。

最後に、新型コロナウイルス感染防止のため、高齢者の外出や運動の機会が減少しており、生活不活発病やフレイルの発症リスク、要介護度の重度化がさらに進行することが考えられる。今の時期だからこそ、改めて介護予防の重要性を住民に周知し、多くの住民が安全に安心して運動できるよう策を講じていきたい。

3. 業績報告

1) 地域介護予防活動支援事業

(1) サーキットトレーニング

① 登録者数 (単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男性	104	104	104	104	105	106	108	109	109	109	109	111
女性	278	278	278	278	281	283	283	285	286	286	286	287
計	382	382	382	382	386	389	391	394	395	395	395	398

② 実利用者数 (単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
男性	10	0	9	9	16	16	13	16	14	13	13	16	14.4	56%
女性	15	0	19	33	32	37	44	49	40	46	53	52	38.2	42%
計	25	0	28	42	48	53	57	65	54	59	66	68	51.4	44%

(2) あったかすりハビリ体操教室(月曜) (単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	16	16	16	16	16	16	16	11	11	11	11	14
実人数	0	0	0	0	0	0	0	9	5	6	8	13
1回平均利用者数	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.2	4.3	4.5	5.3	8.5

(3) あったかすりハビリ体操指導士

① 指導士養成講座受講者数 (単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男性	0	0	0	0	0	0	3	3	3	0	0	0
女性	0	0	0	0	0	0	9	11	12	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	12	14	15	0	0	0

② 指導士活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
登録者 (名)	27	27	27	27	27	27	27	27	36	36	36	36		
実人数 (名)	2	2	13	7	8	8	10	8	12	16	20	16	10.2	92%
延べ 活動時間 (時間)	4	2	40	31	26	32	40	48	30	50	71	69	36.9	81%

③ 地域での体操教室実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
教室数 (回)	2	1	9	10	7	16	16	16	8	13	13	15	126	100%
参加者数 (名)	16	11	70	84	64	131	137	134	75	111	107	133	1073	70%

2) 地域リハビリテーション活動支援事業

(1) 体力評価

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男性	0	0	0	0	5	0	3	3	0	1	1	1
女性	0	0	0	0	3	1	49	18	1	0	0	1
計	0	0	0	0	8	1	52	21	1	1	1	2

(2) 地域包括支援センターから理学療法士への相談対応

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3) 介護予防普及啓発支援事業

(1) レッドコード教室 (8クラス)

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
登録者数	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64		
実人数	0	0	0	61	60	64	64	63	59	60	61	64	61.7	98%
1回平均 利用者数	0.0	0.0	0.0	6.4	6.1	7.1	6.9	7.0	6.4	6.4	6.2	7.4	6.7	99%

(2) コレカラサポーター

① サポーター養成講座受講者数

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

② サポーター活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年比
登録者 (名)	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33		
実人数 (名)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ 活動時間 (時間)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 イベント・視察等

実施日	イベント名	概要
4月1日	フィットネス営業再開	新型コロナウイルス感染症北海道における緊急事態宣言により、R2.2.25～3.31の期間フィットネス休館としていた
4月20日～5月31日	フィットネス休館	新型コロナウイルス感染症全国における緊急事態宣言により、左記期間フィットネス休館
4月21日	第48回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・再開時の運営方法 ・フィットネス独自の休館基準
5月28日	第49回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・再開時期、再開時の運営方法
6月1日	フィットネス営業再開	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキットのみ利用可能 ・1時間6名の入れ替え制 ・予約制
6月3・10・17日	体操指導士復習会	<ul style="list-style-type: none"> ・6月3日：9名参加 ・6月10日：6名参加 ・6月17日：4名参加
6月26日	第50回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・R2下半期新規クラス申込み ・今後の運営方針
7月1日～	レッドコード教室・体操指導士活動再開	<ul style="list-style-type: none"> ・R2.4～5月で休止となっていた分の振替 ・教室時間を50分に短縮し、換気や消毒時間に充てる
7月21日	第51回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・男の運動教室 ・フィットネス環境整備 ・ナイトフィットネス
8月6日～	ナイトフィットネス再開	
8～9月	男の運動教室（毎週水曜日）	<ul style="list-style-type: none"> ・5名参加 ・レッドコード、サーキット ・保健推進係より健康講話
8月18日	令和2年度下半期レッドコード教室抽選会	<ul style="list-style-type: none"> ・67名申込み ・当選者64名（新規4名、継続60名）
8月23日	第52回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・コレカラ環境整備 ・無料体験会中止 ・体操指導士養成講座 ・リハビリ体操教室再開

実施日	イベント名	概要
9月25日	第53回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・コレカラ環境整備 ・無料体験会中止 ・あったかすりハビリ体操指導士養成講座 ・リハビリ体操教室再開
9月27日	第7回日本予防理学療法学会学術大会	<ul style="list-style-type: none"> ・web学会 ・「通いの場に参加する地域在住高齢者のフレイル実態について」について口述発表
10～12月	あったかすりハビリ体操指導士養成講座	<ul style="list-style-type: none"> ・9名参加（男性3名、女性6名） ・復習参加3～4名
10月27日	第54回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・学会参加報告 ・環境整備について ・今後の運営方針 ・ボランティア、健康手帳のインセンティブ ・年末年始営業日について
11月7～8日	第7回日本地域理学療法学会学術大会にて	<ul style="list-style-type: none"> ・web学会 ・「介護予防事業に参加するやせ型高齢者の身体機能・フレイル有症率の検討」について口述発表
11月10日	第5回フレイルゼロ会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク者の情報共有 ・学会参加報告 ・後期高齢者検診 ・基本チェックリストの定期的な調査 ・町の体操教室でのPTの関わりについて
11月20日	第55回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・全国体操指導士オンラインフェスティバル ・体操指導士養成講座修了式 ・フィットネス休館基準 ・公式LINEアカウント作成
12月18日	令和3年総合事業策定会議	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者：谷課長、大矢、大河原 ・今年度の振り返りと次年度の事業案
12月25日	第56回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・ナイトフィットネス運営 ・月曜日リハビリ体操教室の利用料 ・R3上半期レッドコード申込み ・全国体操指導士オンラインフェスティバル
12月27日～1月3日	年末年始休館	

実施日	イベント名	概要
1月26日	第57回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・サーキット無料券の発行 ・R3上半期レッドコード申込み ・全国体操指導士オンラインフェスティバル ・要支援者の利用促進
2月8日	リハビリ体操指導士全国オンラインフェスティバル	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインにて開催 ・参加者15名（全国33市町村864名参加） ・大田先生の講義 ・指導士会エール交換 ・体操実技
2月16日	令和3年度上半期レッドコード教室抽選会	<ul style="list-style-type: none"> ・69名申込み ・当選者64名（新規2名、継続62名）
2月16日	第58回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・新型コロナウイルス対応交付金
2月18日	鷹栖町介護に関する入門研修	<ul style="list-style-type: none"> ・大河原講師 ・「フレイル、からだにやさしい介護方法」
2月26日	さつき会令和3年度事業計画ヒアリング（総合事業）	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画、予算案
3月23日	第59回総合事業会議	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告 ・業務依頼の流れ ・来年度の事業計画

